

BladeSymphony

# BS1000 用 リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド

(リモートコンソールアプリケーション Version 03-00 対応)

第 10 版 2009 年 3 月

**HITACHI**

マニュアルはよく読み、保管してください。  
操作を行う前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。  
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

---

## 重要なお知らせ

本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断わりします。

本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願ひいたします。

本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

---

## 登録商標・商標について

Microsoft,MS-DOS,Windows,Windows Server,Windows NT は米国 Microsoft Corp. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

---

## 技術情報、アップデートプログラムについて

最新のドライバやユーティリティ、アップデートプログラムなどを  
「BladeSymphony ホームページ」で提供しております。

ホームページアドレス <http://www.hitachi.co.jp/products/bladesymphony/index.html>

各アップデートプログラムの適用についてはお客様責任にて実施していただきますが、  
システム装置を安全にご使用していただくためにも、ホームページの[サポート]—[ダウンロード]は定期的にアクセスして最新のドライバやユーティリティへ更新していただくことをお勧めします。

---

## 版権について

このマニュアルの内容はすべて著作権に保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2009. All rights reserved.

# はじめに

このたびは日立 BladeSymphonyをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、サーバブレードに搭載されたリモートコンソール機能を使用する為のリモートコンソールアプリケーションに関する使用方法、取り扱いの注意などについて記載しています。

リモートコンソール機能は、下記のサーバブレードでサポートされています。

- A51A3 model
- A51A4 model

BS1000 用リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド第 10 版は、リモートコンソールアプリケーション Version 03-00 に対応しています。

## マニュアルの表記

### □ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。



制限 : 人身の安全や装置の重大な損害と直接関係しない注意書きを示します。



補足 : 装置を活用するためのアドバイスを示します。

### □ オペレーティングシステム（OS）の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

Microsoft®Windows Server 2008 Standard Edition 日本語版 32-bit

(以下 Windows Server 2008, Standard Edition 32bit または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Enterprise Edition 日本語版 32-bit

(以下 Windows Server 2008, Enterprise Edition 32bit または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Standard Edition without Hyper-V 日本語版 32-bit

(以下 Windows Server 2008, Standard Edition without Hyper-V 32bit または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Enterprise Edition without Hyper-V 日本語版 32-bit

(以下 Windows Server 2008, Enterprise Edition without Hyper-V 32bit または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Standard Edition 日本語版

(以下 Windows Server 2008, Standard Edition 64bit または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Enterprise Edition 日本語版

(以下 Windows Server 2008, Enterprise Edition または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Standard Edition without Hyper-V 日本語版  
(以下 Windows Server 2008,Standard Edition without Hyper-V 64bit または Windows)

Microsoft®Windows Server 2008 Enterprise Edition without Hyper-V 日本語版  
(以下 Windows Server 2008, Enterprise Edition without Hyper-V 64bit または Windows)

Microsoft®Windows ServerTM 2003 Standard Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2,Standard Edition または Windows)

Microsoft®Windows ServerTM 2003 Enterprise Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 Enterprise Edition または Windows)

Microsoft®Windows ServerTM 2003 R2,Standard Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2,Standard Edition または Windows)

Microsoft®Windows ServerTM 2003 R2,Enterprise Edition 日本語版  
(以下 Windows Server 2003 R2,Enterprise Edition または Windows)

Microsoft®Windows® Vista Business  
(以下 Windows Vista Business または Windows)

Microsoft®Windows® 2000 Professional Operating System  
(以下 Windows 2000 Professional または Windows)

Microsoft®Windows® XP Professional Operating System  
(以下 Windows XP Professional または Windows)

Microsoft®Windows® XP Home Edition Operating System  
(以下 Windows XP Home または Windows)

---

## お問合せ先とお願い

### □ お問い合わせ先

日立ソリューションサポートセンタ

- BladeSymphony サポートサービス

フリーダイヤル：契約締結後、別途ご連絡いたします。

受付時間：8：00～19：00

(土・日・祝日・年末年始を除く)

### □ お願い

質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。

BladeSymphony サポートサービスでお答えできるのは、製品のハードウェアの機能や操作方法などです。OS や各言語によるユーザプログラムの技術支援は除きます。

明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。  
サーバブレードに添付の「ソフトウェアガイド」「ユーザーズガイド」もご参照ください。

# 目次

重要なお知らせ .....	2
登録商標・商標について .....	2
技術情報、アップデートプログラムについて .....	2
版権について .....	2
はじめに .....	3
マニュアルの表記 .....	3
お問合せ先とお願ひ .....	4
目次 .....	5
お使いになる前に .....	7
1.1 ご確認いただくこと .....	7
1.2 セットアップ使用品について .....	7
リモートコンソール機能の概要 .....	8
2.1 特徴 .....	8
2.2 動作環境・制限事項 .....	9
インストールおよびセットアップ方法 .....	13
3.1 リモートコンソールアプリケーションのインストール手順 .....	13
3.2 アンインストール手順 .....	19
3.3 IPアドレスの設定方法 .....	22
3.4 サーバブレードリモートコンソール機能の設定 .....	23
使用方法 .....	53
4.1 アプリケーション起動方法 .....	53
4.2 リモートFDの使用方法 .....	58
4.3 リモートCD/DVDの使用方法 .....	75
4.4 サーバブレード識別ランプ操作方法 .....	85
4.5 表示モードの使用方法 .....	88
4.6 サーバブレード情報表示方法 .....	89
詳細設定方法 .....	91
5.1 設定ユーティリティ起動方法 .....	91
5.2 サーバ情報表示 .....	93
5.3 ツールバー .....	96
5.4 セッション数制限 .....	97
5.5 ログアウト時間 .....	98
5.6 初期値一覧 .....	99
注意事項 .....	100
6.1 キーボード入力制限に関して .....	100
6.2 “SVPMASS”について .....	103
6.3 “不明なデバイス”について .....	103
6.4 メッセージについて .....	104
Q&A .....	105
付録 .....	118



# 1

## お使いになる前に

この章では、サーバブレードの概要およびリモートコンソールをインストールする前に知っておいていただきたい内容について説明します。

### 1.1 ご確認いただくこと

ご使用になる前に、次の点をご確認ください。もし不具合がある時は、お買い求め先にご連絡ください。

形式が注文通りの物であるか？

輸送中に破損したところはないか？

添付品が別紙の”添付品一覧表”どおりの物であるか？

### 1.2 セットアップ用品について

リモートコンソール機能のセットアップに使用する物の名称を以下に説明します。

①. BladeSymphony Remote KVM console setup CD (Bootable CD)



アプリケーション一覧

アプリケーション名称	対象装置	収容ディレクトリ
リモートKVMコンソール セットアップユーティリティ	Xeon DP サーバブレード A51A3 model, A51A4 model	
リモートコンソール アプリケーション	コンソール端末 2.2節を御参照ください。	[CD/DVD ドライブ]:¥reclient_JP
CD/DVDイメージ変換ツール		[CD/DVD ドライブ]:¥reclient_JP
FDイメージ変換ツール		[CD/DVD ドライブ]:¥reclient_JP

...  
補足

リモートコンソールアプリケーションCDはお買い上げいただきましたサーバブレードに添付のものをお使いください。

# 2

## リモートコンソール機能の概要

この章ではリモートコンソール機能の概要について説明します

### 2.1 特徴

#### □ リモートコンソール機能

リモートコンソールでは、サーバブレードの電源 ON/OFF や、サーバブレードの BIOS 設定画面/OS 画面を遠隔地にあるコンソール端末上に LAN を経由して表示、およびキーボード、マウスでの操作を可能とするものです。また、リモート FD 機能をサポートし、サーバブレードからコンソール端末の FD イメージを参照することができます。さらにリモート CD-ROM/DVD-ROM をサポートし、コンソール端末に搭載または接続されている CD-ROM/DVD-ROM ドライブとサーバブレードを接続し参照することも可能です。リモート FD 機能およびリモート CD/DVD 機能を使って、サーバブレードをブートすることが出来ます。



リモートFD機能は接続したFDイメージへ書き込みすることは出来ません。



リモートFD機能を使用するためには事前にイメージ化とイメージの選択をする必要があります。

## 2.2 動作環境・制限事項

### □ コンソール端末の動作条件

コンソール端末の動作条件として、以下の項目を満たしてください。

OS	Windows Server 2008 Standard Edition 32bit Windows Server 2008 Enterprise Edition 32bit Windows Server 2008 Standard Edition without Hyper-V 32bit Windows Server 2008 Enterprise Edition without Hyper-V 32bit Windows Vista Business Windows XP Home Windows XP Professional Windows 2000 Professional Windows Server 2003 Standard Edition Windows Server 2003 Enterprise Edition Windows Server 2003 R2 Standard Edition Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition
CPU	動作クロック 1GHz 以上
メモリ	256MB 以上
表示解像度	1,024 x 768 ドット以上
LAN	100Base-TX 以上
CD-ROM/DVD-ROM ドライブ	コンソール端末内蔵の CD-ROM/DVD-ROM または、USB 接続の CD-ROM/DVD-ROM USB 接続の CD-ROM/DVD-ROM は USB2.0 準拠のドライブを推奨

補足

より快適にお使いたくなるために動作条件以上の性能を満たすコンソール端末の使用を推奨します。

リモートCD/DVDをご使用になる際は、CD-ROM ドライブまたはDVD-ROM ドライブが必要になります。CD-ROM ドライブまたはDVD-ROM ドライブは、コンソール端末内蔵のドライブまたは、USB接続のドライブが使用できます。USB接続のドライブをご使用になる場合は、USB2.0準拠のドライブを推奨します。

### LAN ケーブルの必要条件

カテゴリ-5 以上の規格に対応したケーブルをご使用ください。

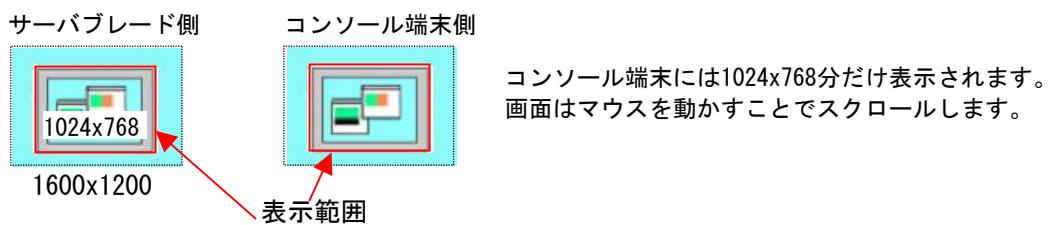
### リモートコンソールアプリケーション使用の制限

他のリモート機能プログラム（例：JP1/Server Conductor のリモート機能）からリモートコンソールアプリケーションを起動した場合、カーソルが2重に表示される等、操作が自然に行われないという現象が発生します。リモートコンソールアプリケーションは他のリモート機能プログラムと組み合わせて使用しないでください。

## □ リモートコンソール機能の表示解像度

リモートコンソール機能として、以下の制限があります。

リモートコンソール機能使用時の表示解像度についてコンソール端末側の表示解像度はサーバブレード側(サーバブレード)の解像度にかかわらず  $1024 \times 768$  になります。サーバブレード側の解像度を  $1024 \times 768$  以上に選択した場合は、選択した解像度画面の中の  $1024 \times 768$  分だけ表示されます。表示範囲外へマウスを移動すると、それに従い表示部分も移動します。



## □ サーバディスプレイ条件

リモートコンソール機能を使用するときは、サーバブレード (Windows/Linux) のディスプレイ設定でリフレッシュレートを  $60\text{Hz}$  に設定してください。



$60\text{Hz}$ 以外で使用されるとコンソール端末側のリモートデスクトップの画面が乱れる場合がありますので必ず $60\text{Hz}$ で使用してください。設定方法の詳細は3章セットアップの「サーバブレードディスプレイの設定」を参照してください。

## □ 複数のコンソール端末からの接続 (1:N通信)

複数のコンソール端末からのサーバブレードへの同時ログインは行うことができません。

## □ テンキー

コンソール端末に接続されるキーボードのテンキーはコンソール端末上の NumLock の状態に関わらず、サーバブレードに接続されたキーボードの NumLock の状態に依存します。

## メモリダンプについて

Windows Server 2003 OS での「右 Ctrl キー+Scroll Lock キー 2 回」押下によるメモリダンプファイルの作成はできません。

メモリダンプファイルを作成する必要がある場合は、リモートコンソールのツールバー「電源」のプルダウンより NMI をクリックするか、または、サーバブレードの Dump ボタンを 4 秒以上押下してください。

## □ リモートCD/DVD初回使用時の「不明なデバイス」について

リモートコンソールを使用し Windows OS のサーバブレードを初めて起動した後、リモート CD/DVD は新しいデバイスとして認識され、ディスプレイには「不明なデバイス」と表示されることがあります。

これを解決するには、リモートコンソールアプリケーションツールバーの[CD/DVD 接続]ボタンを押下し、CD-ROM/DVD-ROM をコンソール端末に接続することによって Windows OS のサーバブレードに認識されます。

一度リモート CD/DVD が認識されると「不明なデバイス」は表示されなくなります。

## □ A51A3 モデル、A51A4 モデルのサポート機能

A51A3 モデル、A51A4 モデルのサポート機能について以下に記載致します。

No.	機能	A51A3 モデル	A51A4 モデル
1	リモートコンソール使用時の TCP/IP ポート番号の設定が反映されるタイミング	シャーシ AC 電源 OFF/ON、またはサーバブレードの抜差し	即時
2	リモート CD/DVD 機能	未サポート	サポート
3	表示モード変更機能	未サポート	サポート

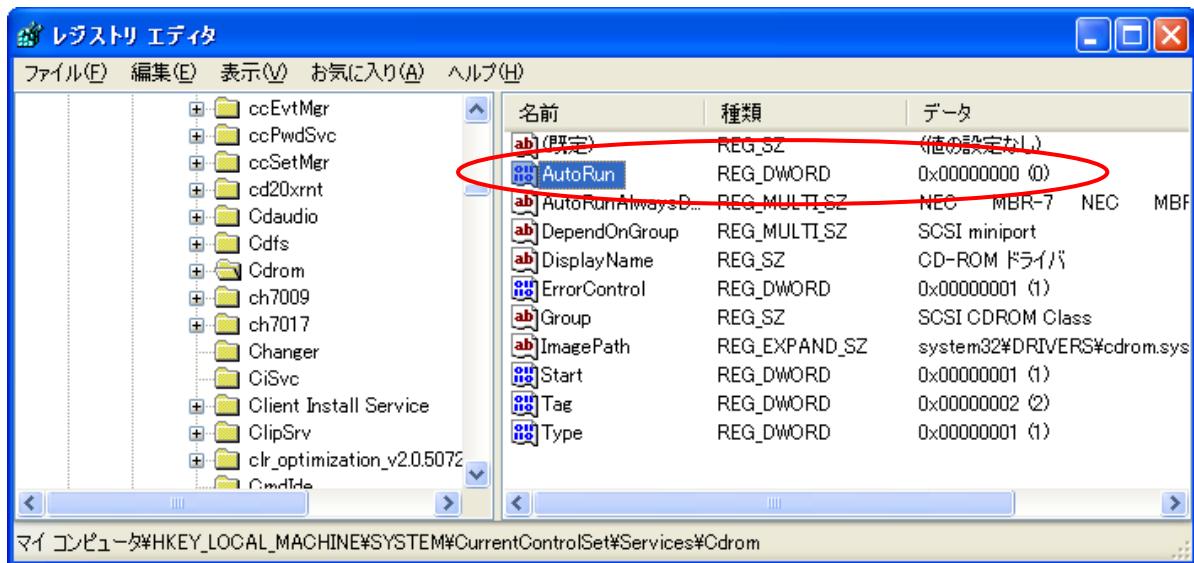
## □ リモートCD/DVD使用時のコンソール端末側の設定について

リモート CD/DVD をご使用になる際は、コンソール端末側の Windows の CD/DVD 自動再生機能(AutoRun 機能) を無効にしてください。

CD/DVD 自動再生機能 (AutoRun 機能) の設定は、下記手順で行ってください。

CD/DVD 自動再生機能 (AutoRun 機能) を無効にする場合

1. [スタート] - [ファイル名を指定して実行] から regedit を起動します。
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Cdrom を展開します。
3. AutoRun 値のデータを 0 に設定し、regedit を終了します。
4. コンソール端末を再起動します。



CD/DVD 自動再生機能 (AutoRun 機能) を有効にする場合は、AutoRun 値のデータを 1 に設定してください。

# 3

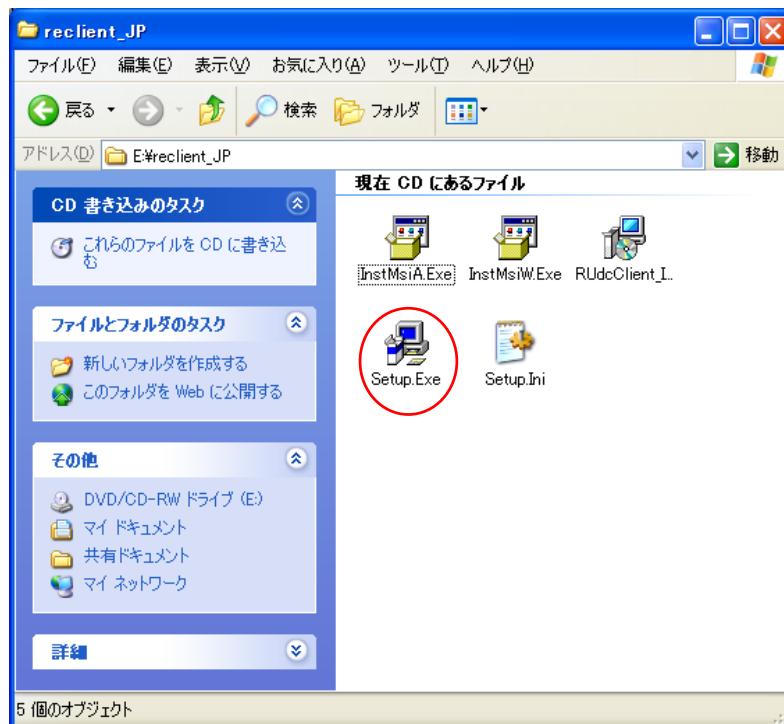
## インストールおよびセットアップ方法

この章では、コンソール端末へのリモートコンソールアプリケーションのインストール、アンインストール、サーバブレードのディスプレイ設定、リモートコンソール機能の設定について説明します。

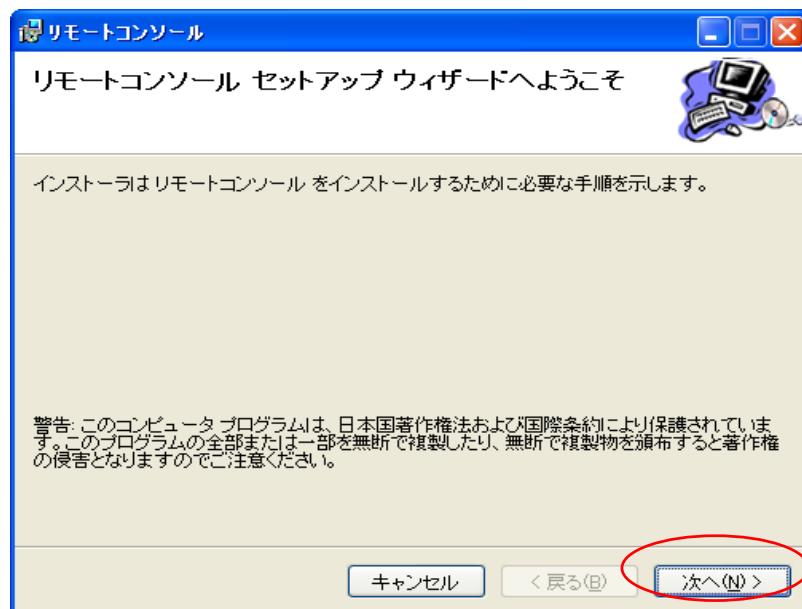
### 3.1 リモートコンソールアプリケーションのインストール手順

インストールを行う前に必ず旧バージョンのアンインストールを実施してください。  
また、リモートコンソールのインストールは、必ず管理者権限のあるユーザで実施してください。

コンソール端末の Windows を起動し、リモートコンソールアプリケーション CD を CD ドライブに入れます。リモートコンソールアプリケーション CD 内の reclient\_JP ディレクトリを開き、reclient\_JP ディレクトリ内の「Setup.Exe」をダブルクリックしてインストーラを起動します。



リモートコンソールのインストーラが起動し、以下の画面が表示されますので「次へ」をクリックします。「キャンセル」をクリックした場合は、「インストールを中止する場合」をご覧ください。



以下の画面が表示されますので、インストールフォルダ、使用ユーザを選択し、「次へ」をクリックします。「キャンセル」をクリックした場合は、「インストールを中止する場合」をご覧ください。



すべてのユーザ : すべてのユーザがリモートコンソールを使用できます。

ただし、リモートコンソールを使用するユーザは管理者権限が必要となります。

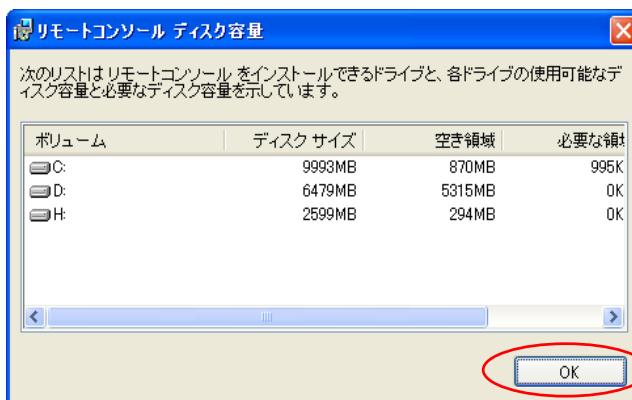
このユーザのみ : インストールしたユーザのみリモートコンソールを使用できます。

インストールフォルダを選択するには、選択フォルダ欄に直接入力、または「参照」をクリックします。「参照」をクリックすると以下の画面が表示されます。インストールフォルダを選択し「OK」をクリックします。

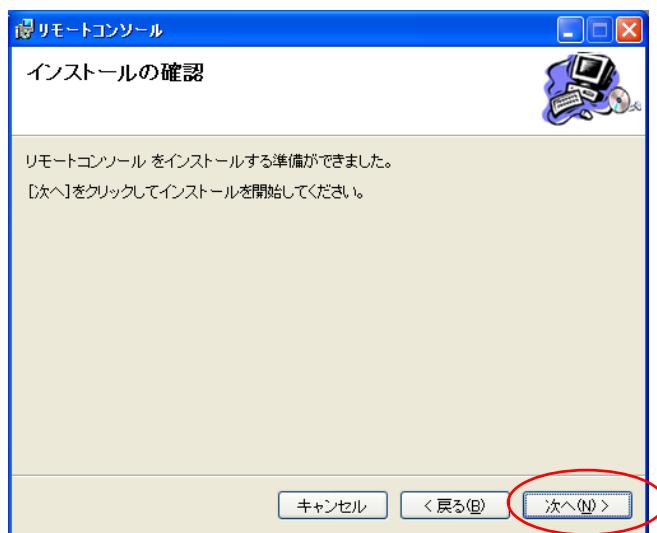


ディスクの容量を確認するには「ディスク領域」をクリックします。

「ディスク領域」をクリックすると、以下の画面が表示されます。確認できたら「OK」をクリックして画面を閉じます。

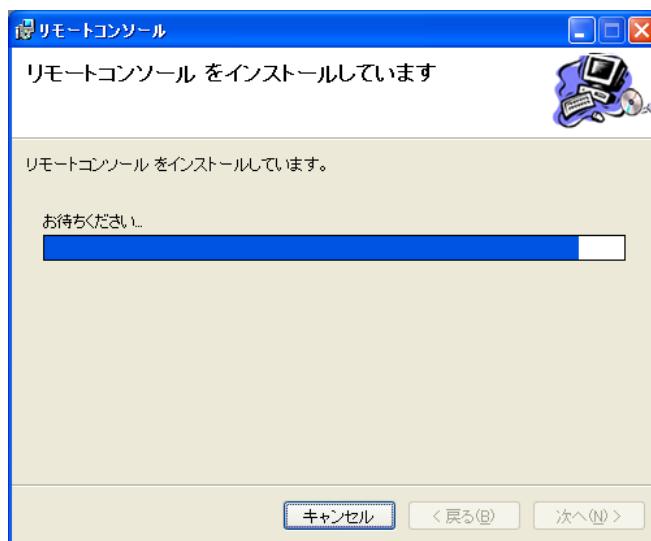


以下の画面が表示されますので、インストールを開始する場合は「次へ」をクリックし、インストールを開始してください。「キャンセル」をクリックした場合は、「インストールを中止する場合」をご覧ください。



以下の画面が表示され、インストールが開始されます。

「キャンセル」をクリックした場合は、「インストールを中止する場合」をご覧ください。

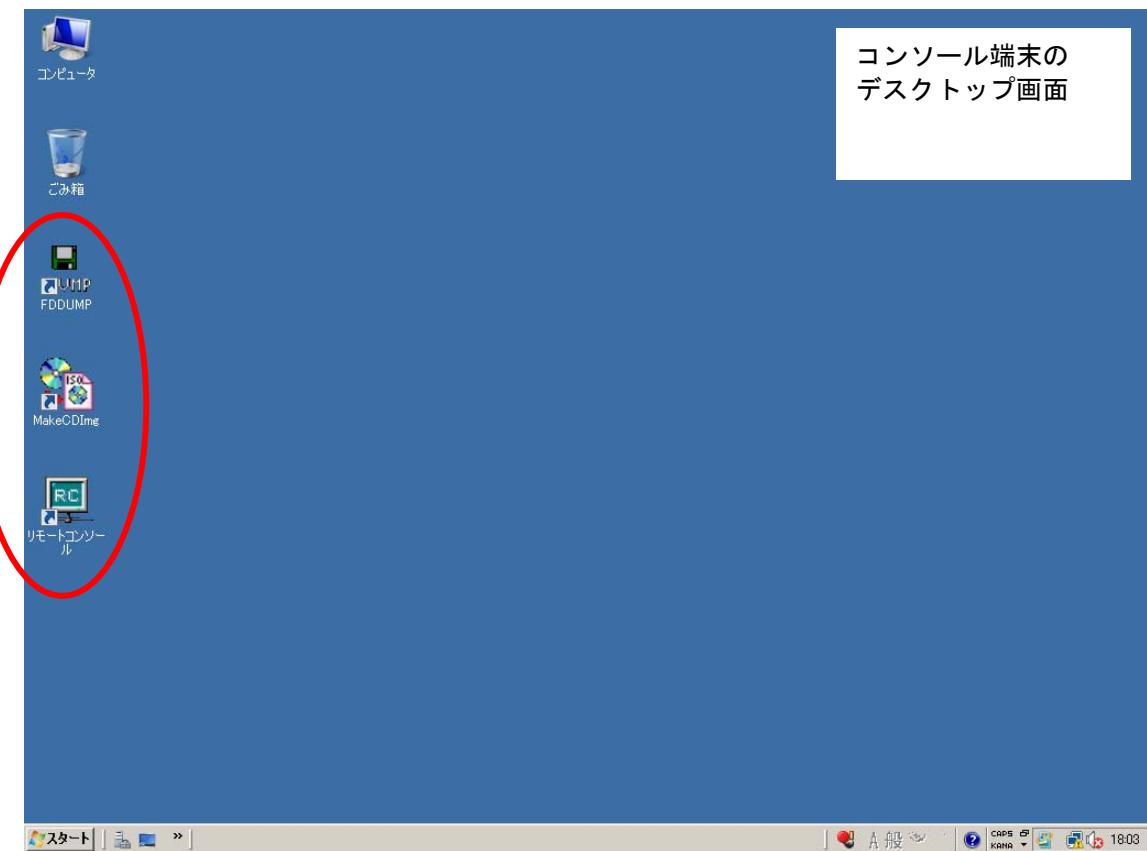


以下の画面が表示されましたら、インストールは終了です。

「閉じる」をクリックしてインストーラを終了してください。

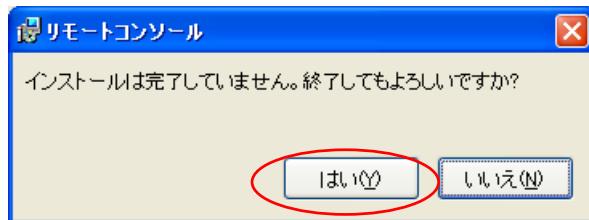


インストール終了後、コンソール端末のデスクトップに「リモートコンソール」、「FDDUMP」、「MakeCDImg」のショートカットが作成されます。



## インストールを中止する場合

インストールを中止する場合は、「キャンセル」または「×」をクリックします。  
「キャンセル」または「×」をクリックすると以下のメッセージが表示されます。  
インストールを中止する場合は「はい」、インストールを続行する場合は「いいえ」をクリックします。



「はい」をクリックすると、以下の画面が表示されます。「閉じる」または「×」をクリックしてインストーラを終了してください。

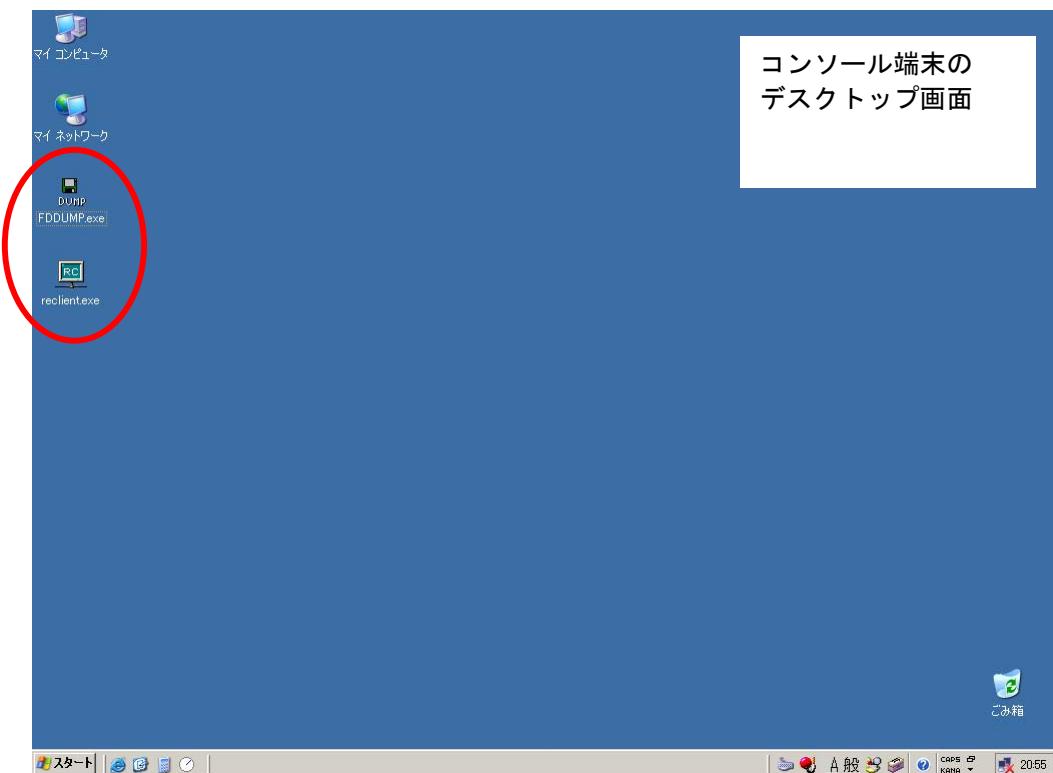


## 3.2 アンインストール手順

### 旧バージョンが (01-XX) の場合

リモートコンソールアプリケーション (reclient.exe) および FDDUMP (FDDUMP.exe) が起動している場合は終了してください。

デスクトップ上の「リモートコンソールアプリケーション」(reclient.exe) と 「FDDUMP」(FDDUMP.exe) を削除してください。



## 旧バージョンが（02-XX）の場合

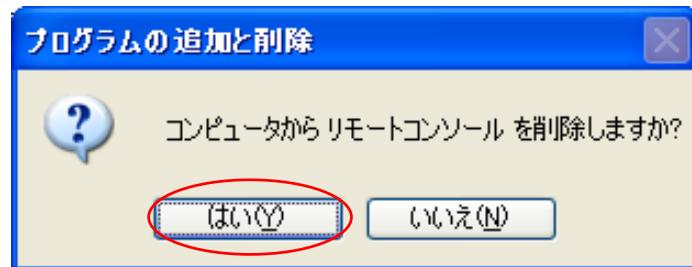
リモートコンソールのアンインストールは、必ずインストールを実施したユーザで行ってください。

コンソール端末の Windows を起動させ、「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」、「アプリケーションの追加と削除」または「プログラムと機能」を開きます。

現在インストールされているプログラムの一覧から「リモートコンソール」を選択し「削除」をクリックして、アンインストールを開始します。

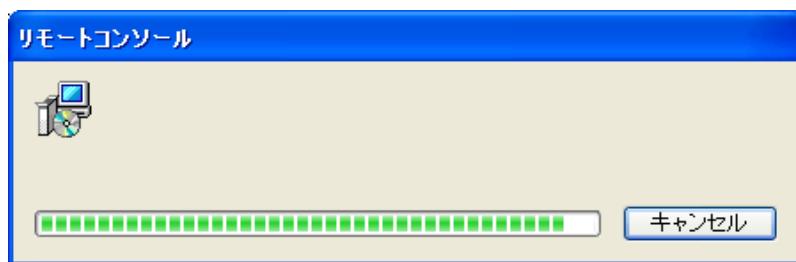


「リモートコンソール」の削除を確認する以下のメッセージが表示されますので、アンインストールを行う場合は「はい」をクリックして、アンインストールを開始します。「いいえ」をクリックした場合は、アンインストールを中止して画面が閉じます。



アンインストール実行中は、以下の画面が表示されます。アンインストールが終了すると、画面は自動的に閉じます。画面が閉じた時点でアンインストールは終了です。

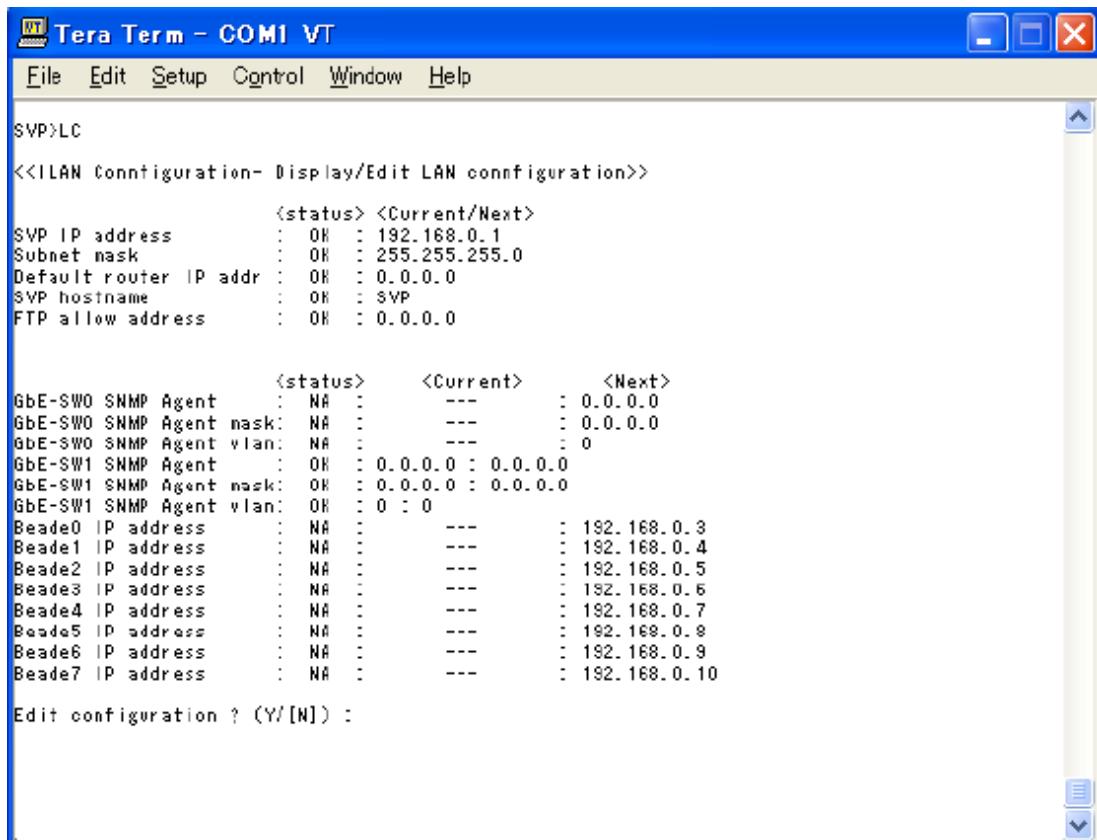
アンインストールをキャンセルする場合は、「キャンセル」をクリックしてください。アンインストールを中止して画面が閉じます。



アンインストールを中止して、リモートコンソールまたはFDイメージ変換ツールが起動できたとしても、正常に動作しない場合があります。アンインストール実行はリモートコンソールを削除する必要がある場合のみ実行してください。

### 3.3 IP アドレスの設定方法

リモートコンソールの IP アドレスは、個々のサーバブレード毎に割り当てられます。これらの IP アドレスは、SVP の "LC" コマンドでご確認下さい。



The screenshot shows a terminal window titled "Tera Term - COM1 VT". The menu bar includes File, Edit, Setup, Control, Window, and Help. The main window displays the output of the "LC" command, which lists various network configurations. The output is as follows:

```
SVP>LC
<<ILAN Configuration- Display/Edit LAN configuration>>
      <status> <Current>      <Next>
SVP IP address      : OK   : 192.168.0.1
Subnet mask         : OK   : 255.255.255.0
Default router IP addr : OK   : 0.0.0.0
SVP hostname        : OK   : SVP
FTP allow address   : OK   : 0.0.0.0

      <status>      <Current>      <Next>
GbE-SW0 SNMP Agent : NA   : ---      : 0.0.0.0
GbE-SW0 SNMP Agent mask: NA   : ---      : 0.0.0.0
GbE-SW0 SNMP Agent vlan: NA   : ---      : 0
GbE-SW1 SNMP Agent : OK   : 0.0.0.0 : 0.0.0.0
GbE-SW1 SNMP Agent mask: OK   : 0.0.0.0 : 0.0.0.0
GbE-SW1 SNMP Agent vlan: OK   : 0 : 0
Beade0 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.3
Beade1 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.4
Beade2 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.5
Beade3 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.6
Beade4 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.7
Beade5 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.8
Beade6 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.9
Beade7 IP address    : NA   : ---      : 192.168.0.10

Edit configuration ? (Y/[N]) :
```

## 3.4 サーバブレードリモートコンソール機能の設定

### リモートコンソール機能の設定の流れ

以下にリモートコンソール機能を使用するために必要なサーバブレードの設定手順を説明します。

- サーバブレードに、ローカルキーボード、マウス、VGA を接続、USB CDROM を接続
- サーバブレードのディスプレイ解像度、リフレッシュレートを設定します。  
([P25 参照](#))
- CDROM に「①. BladeSymphony Remote KVM console setup CD」をセットし、リモートコンソールセットアップユーティリティを CD ROM ドライブから起動します。 (P34 参照) 内部処理により、リモートコンソールセットアップユーティリティは、電源 ON またはシステムリセットから 5 分程度の間使用できません。電源 ON またはシステムリセットから 5 分程度経過してからコマンドを入力し、ユーティリティを起動してください。
- コンソール端末の設定を行います。通知先のコンソール端末の IP アドレスをサーバブレードに登録します。 ([P40 参照](#))
- ポート設定画面でポートナンバーを設定します。 ([P43 参照](#))
- サーバブレード、リモートコンソールのユーザ ID、PassWord を設定します。  
([P45 参照](#))
- 設定保存画面にて各設定を保存し、設定を有効にします。保存しないと設定が反映されません。 ([P48 参照](#))

\* コンソール端末、ユーザ ID、ユーザ PassWord の削除、変更を行いたい場合は P46 から P49 を参照して下さい。



本ツールで各項目を入力しただけではサーバブレードには設定されません。ルートメニューにある「Q:Quit Setup(Save Data)」を選択するか、[Escape]キーを押すことによって表示される「Do you save?」の質問に「Y」と応答することサーバブレードに設定が保存され、設定が有効になります。



本ツールによって設定したPassWordを調べる方法はありません。PassWordがわからなくなったら場合は、当該ユーザID.を削除して再度追加する必要があります。設定したPassWordは忘れないように注意してください。



リモートコンソール機能は、本ツールによって接続を許可されたIPアドレスのクライアントからのみ使用可能です。登録可能なIPアドレスは最大4件です。 登録可能なユーザID.とPassWordは最大4組です。 ユーザID.とPassWordは6文字以上16文字以下を設定してください。 ユーザID.とPassWordの使用可能文字は、0~9(数字), a~z(英小文字), A~Z(英大文字), !#\$%-;.◇/?(記号)です。 ポートナンバーは21001を除く5001~

65535が設定可能です。

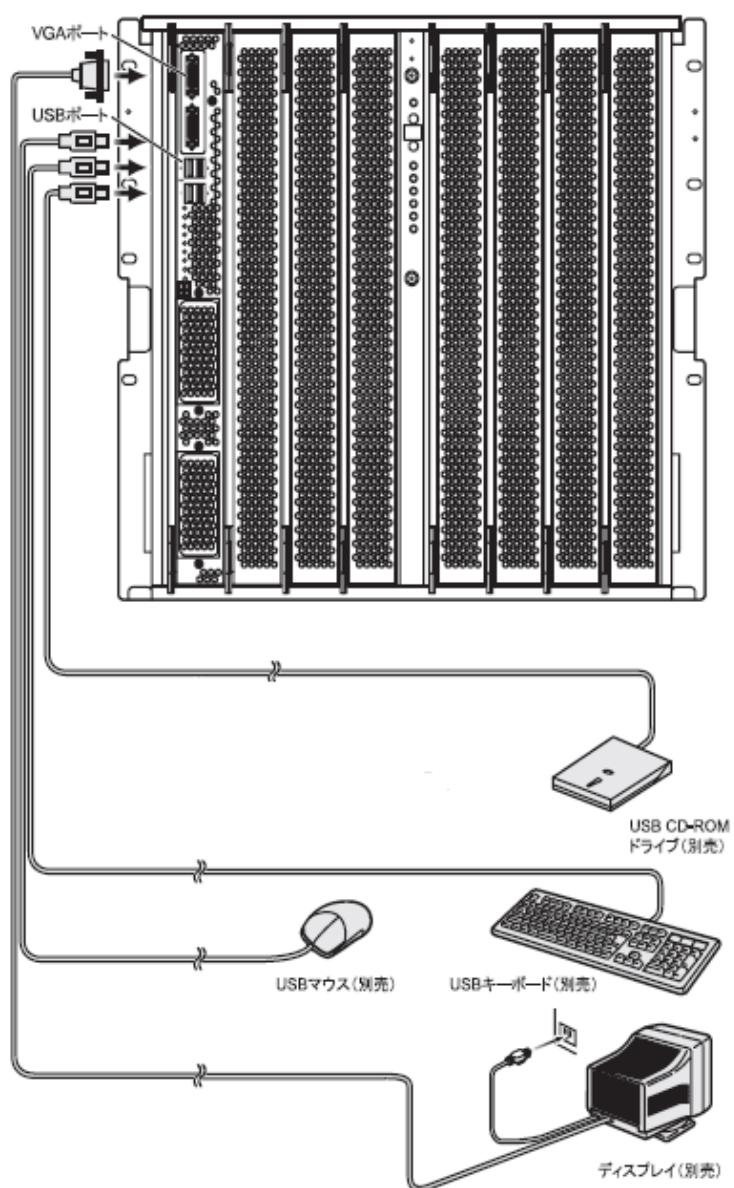
...  
補足

【各欄に表示されるメッセージの意味】 Message欄は、操作に対する結果などのメッセージが表示されます。Key欄は、入力が有効となっているキーが表示されます。コマンド、データ入力欄は、メニューの選択や設定値などキーボードからの入力内容を表示します。

...  
補足

【その他】本ツールによってサーバブレードに設定を保存した場合、以降本ツールを起動すると、サーバブレードに設定済みの情報を取得し、それらを表示します（PassWordは表示されません）。サーバブレード購入後や、保守作業によってサーバブレードを交換された場合などは、設定が未設定のため全ての項目が空欄となります。

### 周辺装置の接続



## □ サーバブレードディスプレイの設定

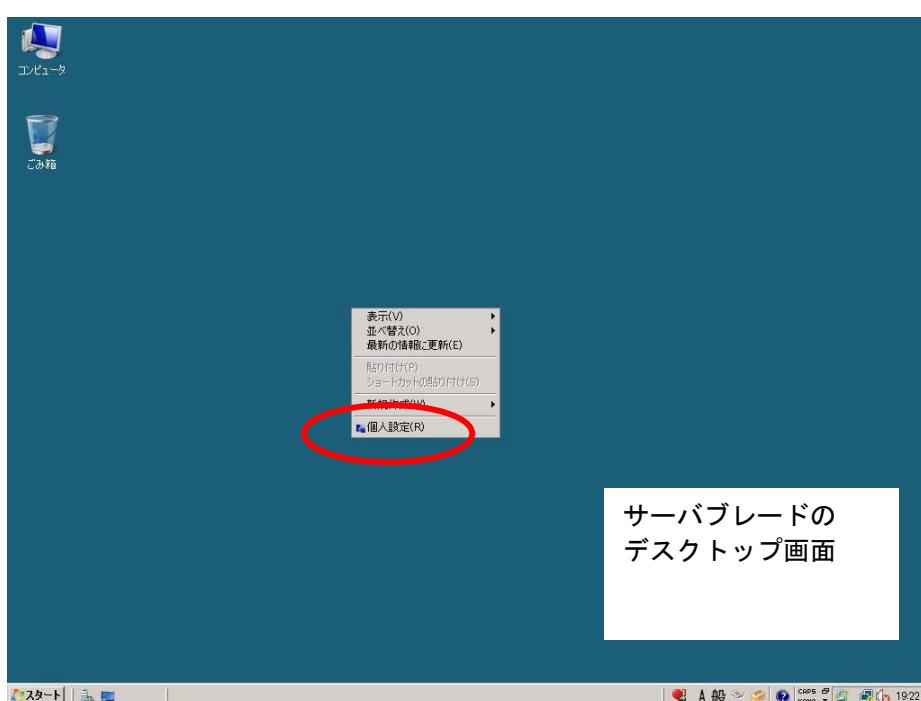
Windows でのサーバブレードディスプレイの設定

リモートコンソールを使用するときは、サーバブレード側 Windows のディスプレイ設定でリフレッシュレートを 60Hz に設定する必要があります。

下記の操作は、サーバブレードに接続された USB キーボード、マウス、及び VGA ディスプレイを使用します。

**サーバブレード側の OS が Windows Server 2008 の場合**

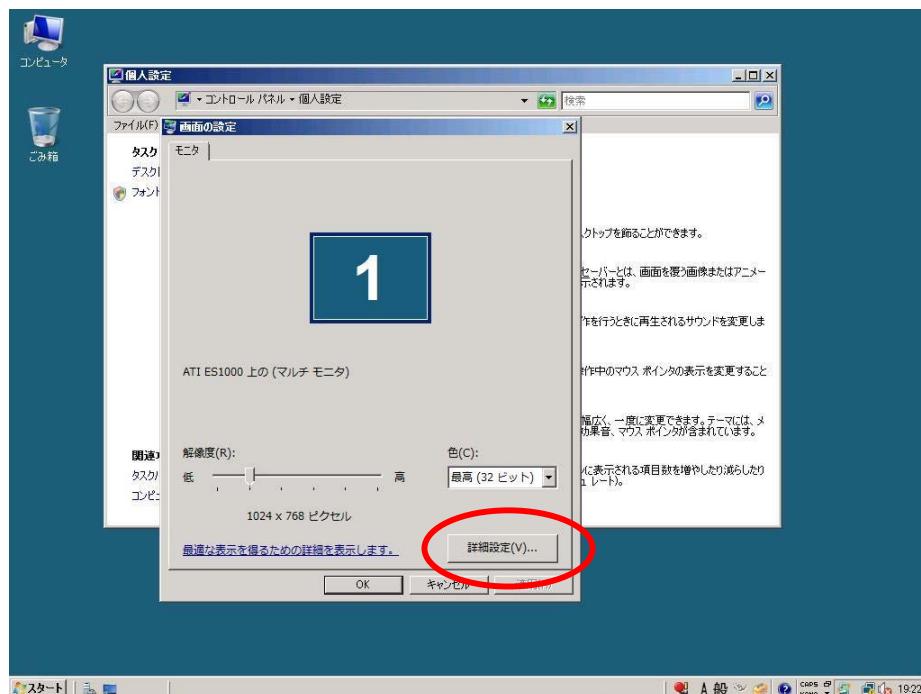
1. 画面上でマウスの右ボタンをクリックし、「個人設定」を選択します。



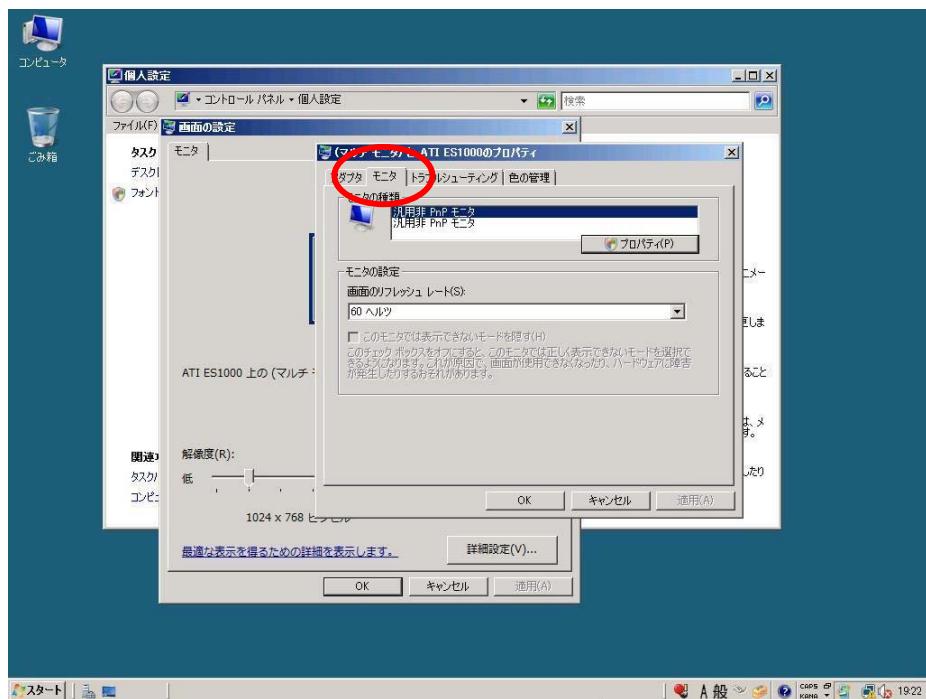
2. 「個人設定」の「画面の設定」をクリックします。



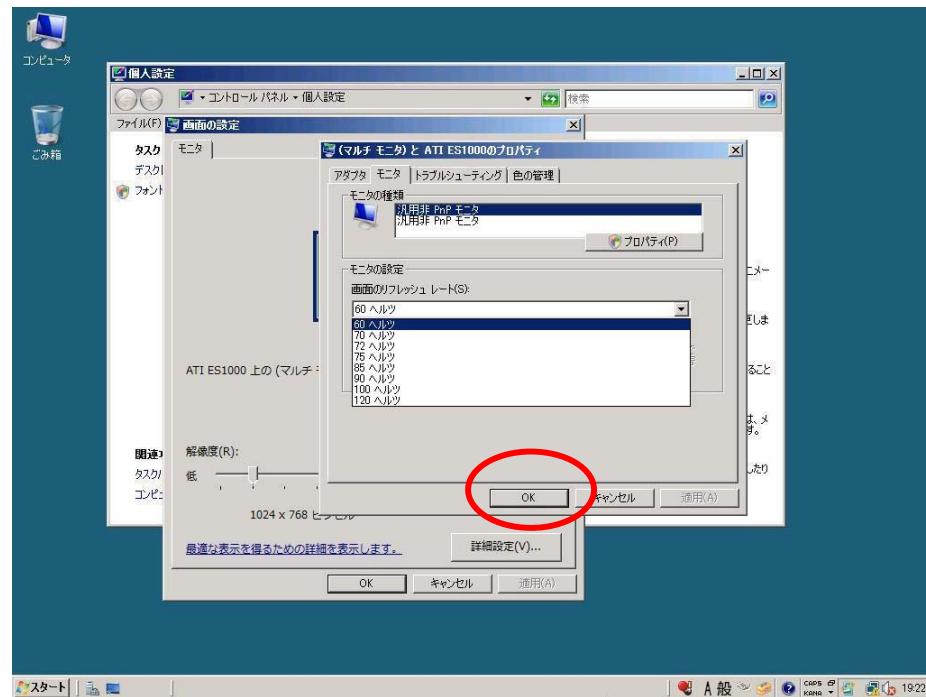
3. 「画面の設定」の「詳細設定」をクリックします。



4. 表示された画面の「モニタ」タブをクリックします。



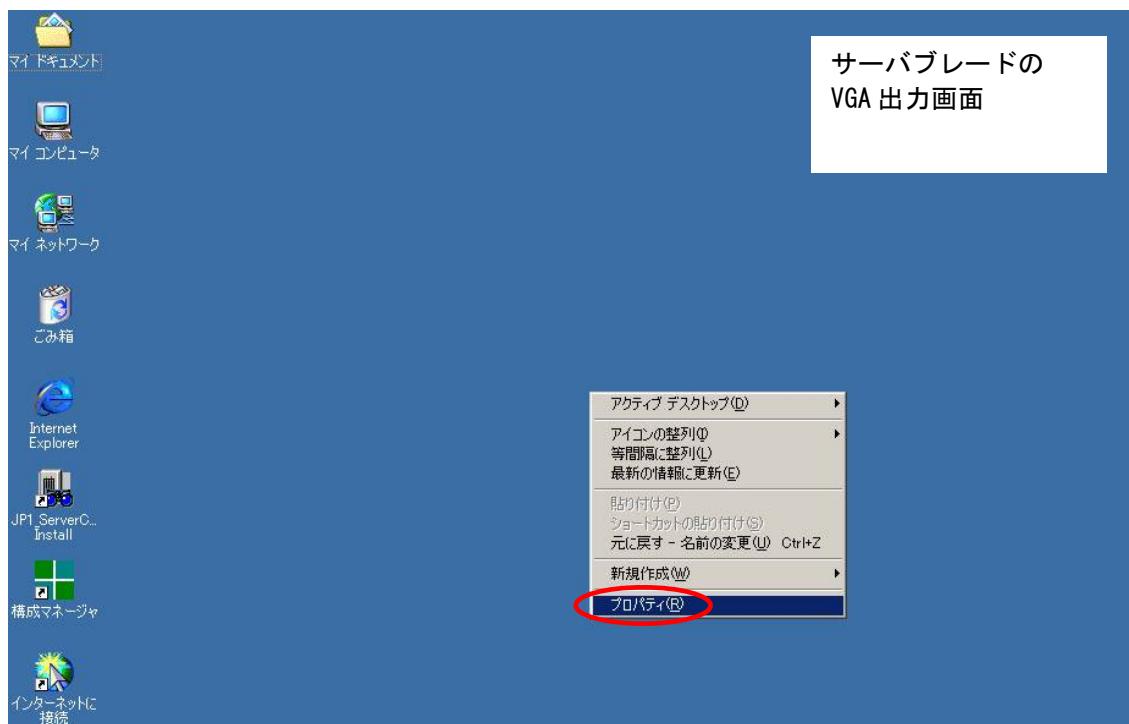
5. 画面のリフレッシュレートから「60 ヘルツ」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。  
設定変更を確認するメッセージが表示された場合は[はい]をクリックしてください。



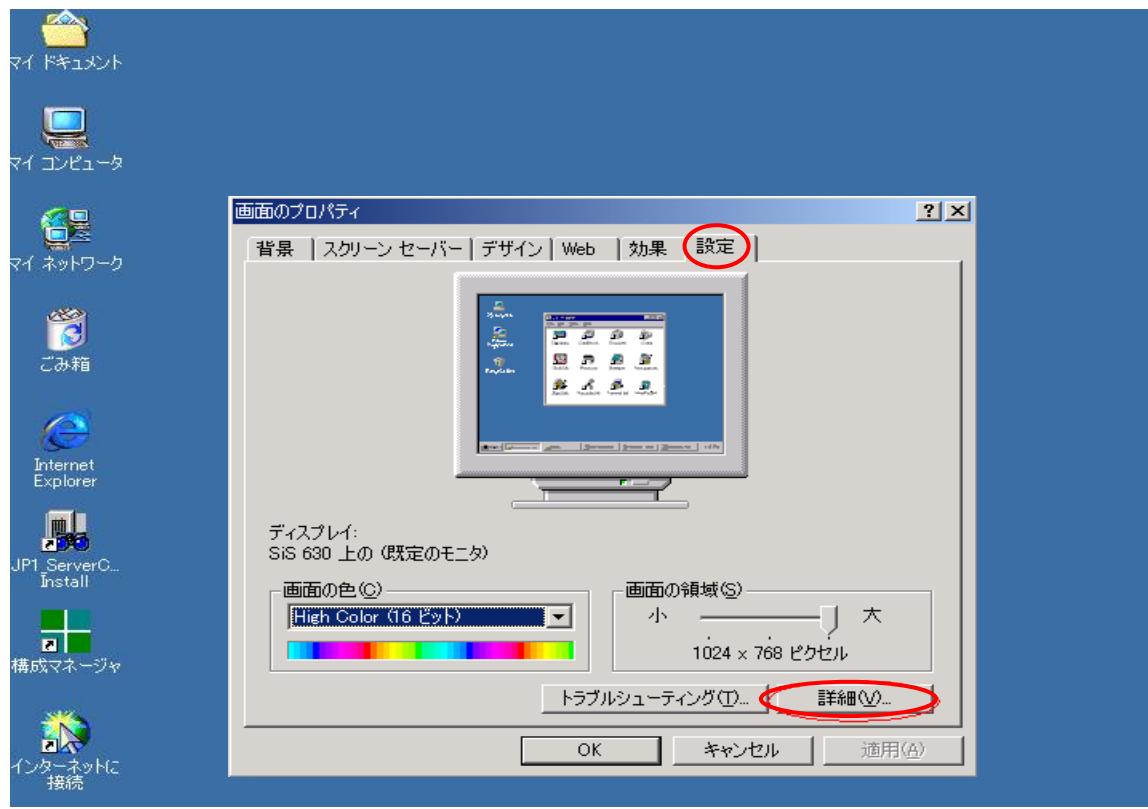
以上で、Windows Server 2008 のディスプレイ設定は終了です。

## サーバブレード側の OS が Windows Server 2003 の場合

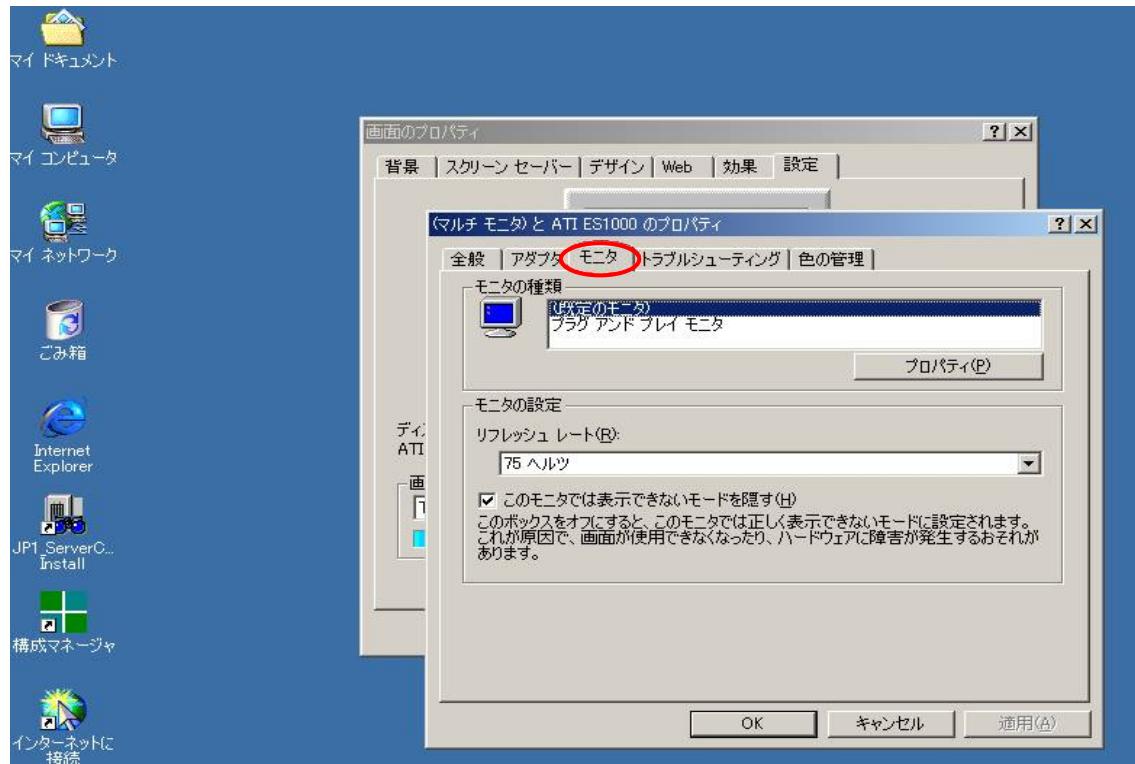
1. 画面上でマウスの右ボタンをクリックし、プロパティを選択します。



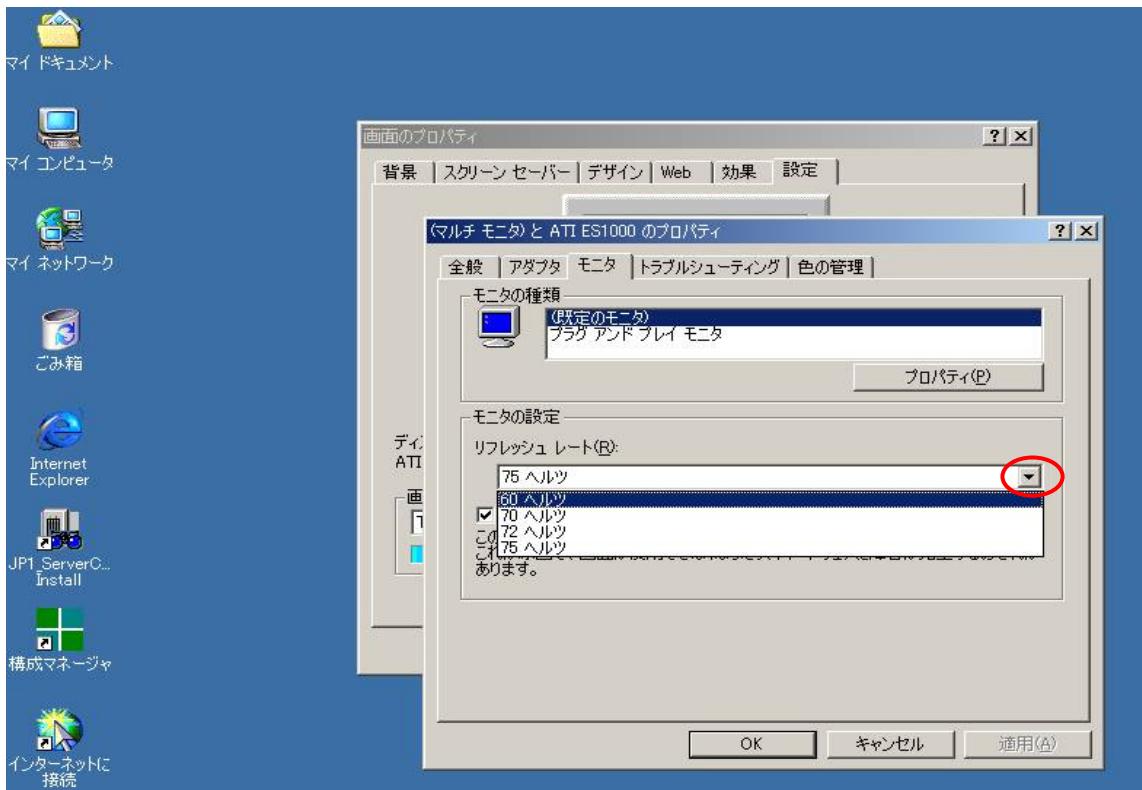
2. 画面のプロパティが表示された後、「設定タブ」をクリックし、「詳細」をクリックします。



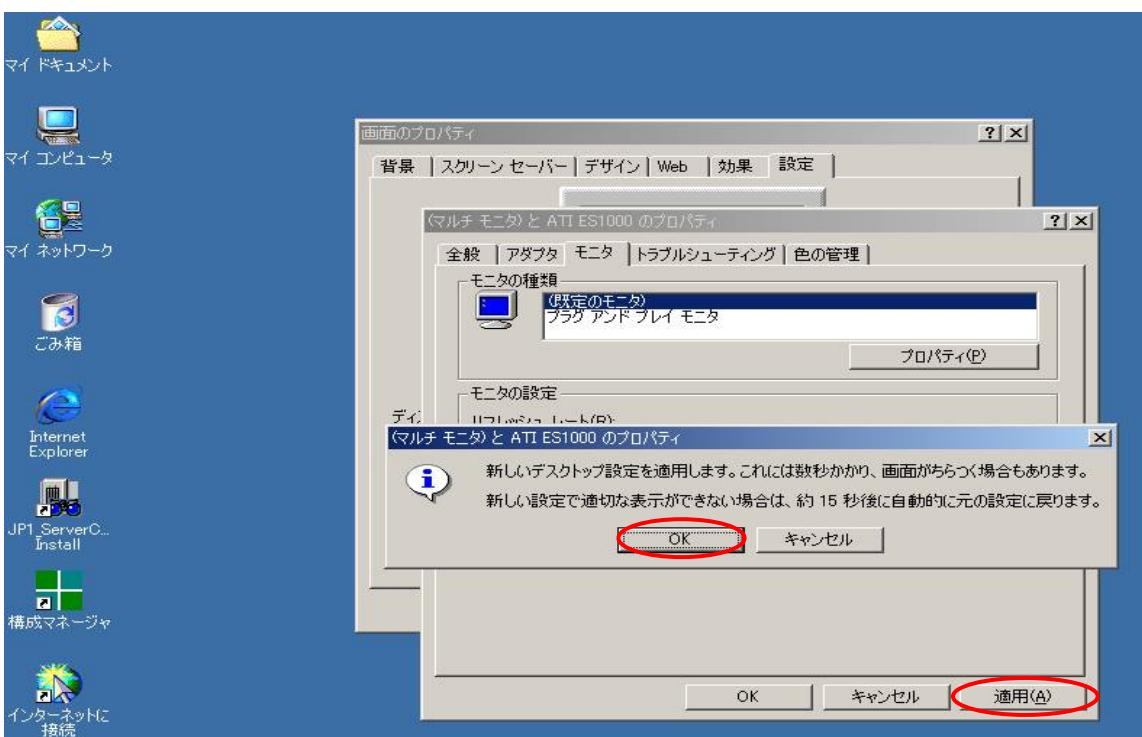
3. 表示された画面の「モニタ」のタブをクリックします。



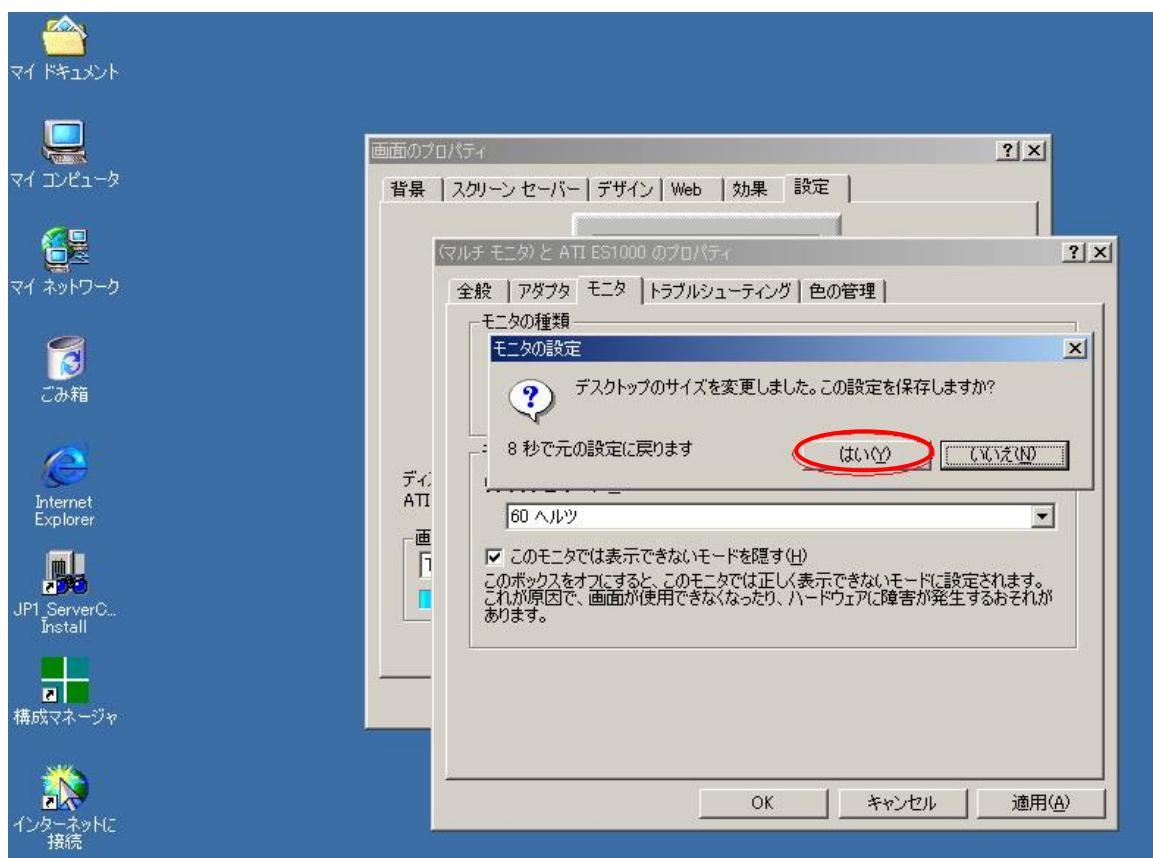
4. リフレッシュレートの▼をクリックし「60ヘルツ」を選択します。



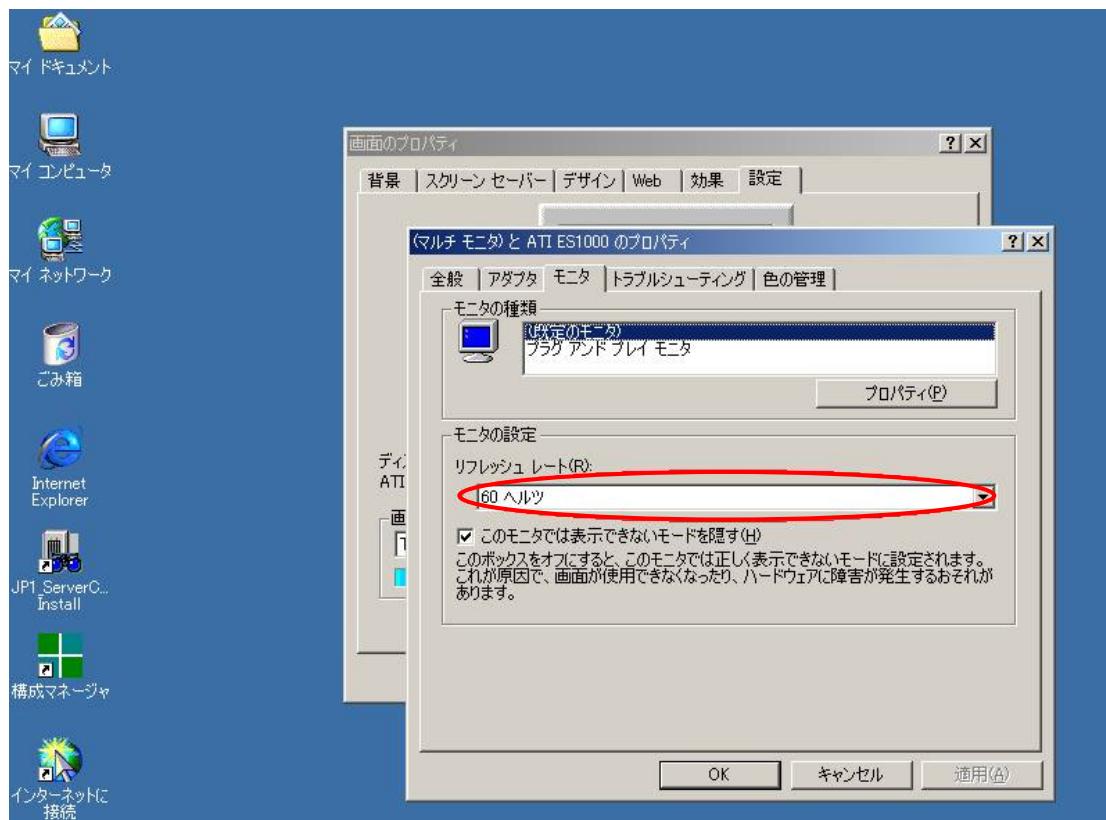
5. 「60ヘルツ」選択後、「適用」をクリックすると以下のメッセージが表示されるので「OK」を選択します。



6. 以下の画面が表示されるので「はい」を選択します。



7. 設定が「60 ヘルツ」になったことを確認できたら「OK」をクリックしプロパティを閉じてください。

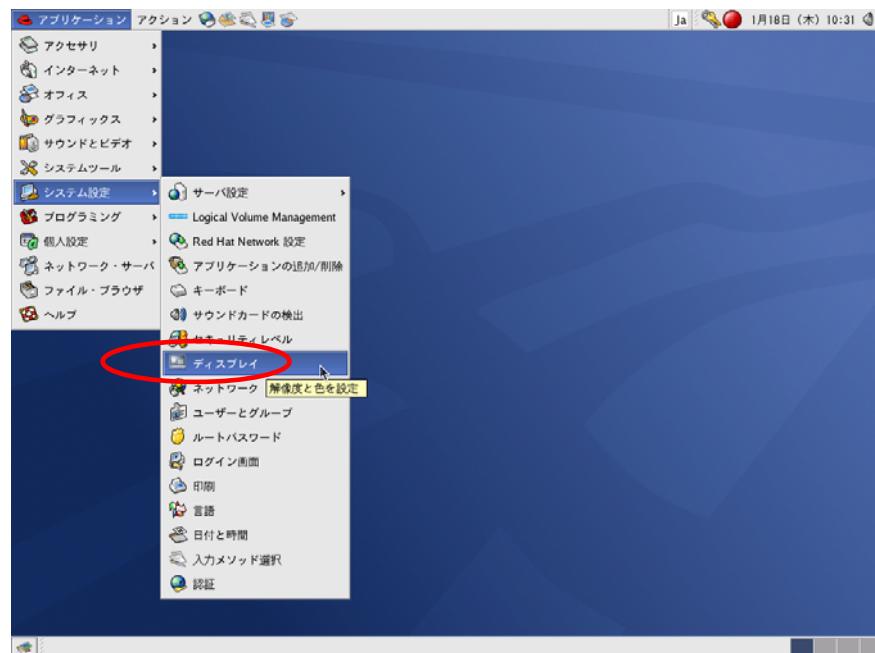


以上で、Windows Server 2003 のディスプレイ設定は終了です。

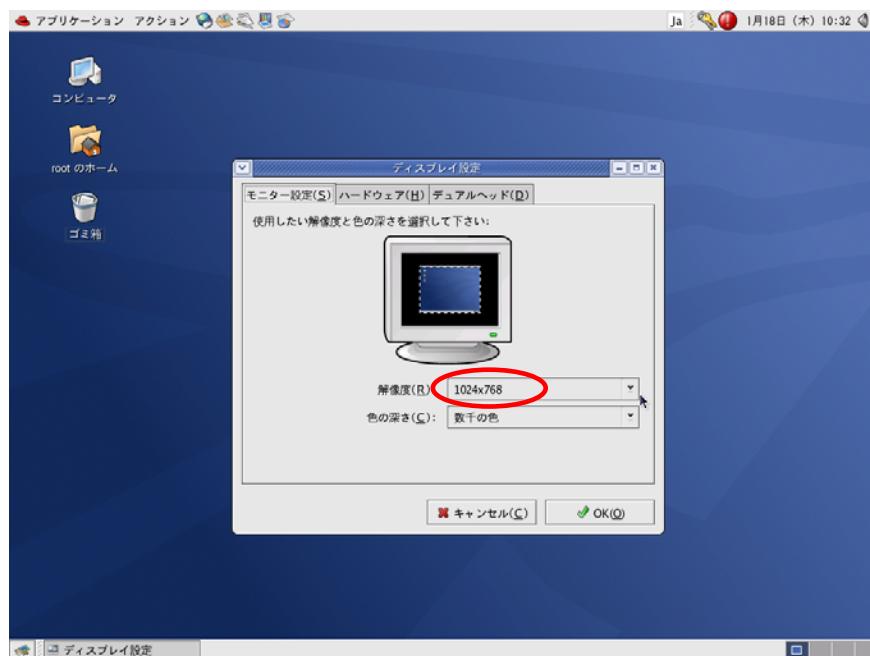
## Redhat Linuxでのサーバブレードディスプレイの設定

リモートコンソールを使用するときは、サーバブレード側 Linux のディスプレイ設定でリフレッシュレートを 60Hz に設定する必要があります。

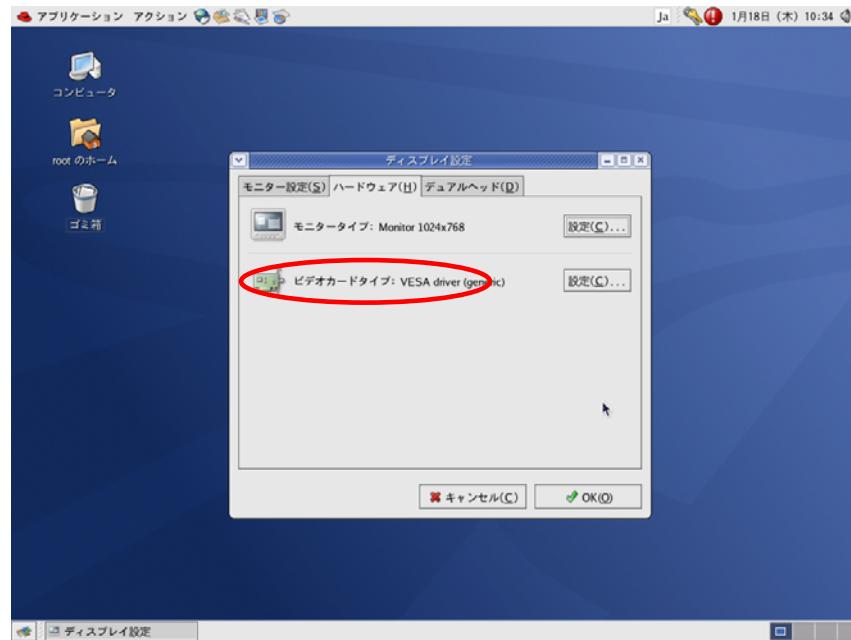
1. 下記の操作は、サーバブレード側の画面で行います。メニューより、“アプリケーション” – “システム設定” – “ディスプレイ”と選択して、ディスプレイ設定を起動します。



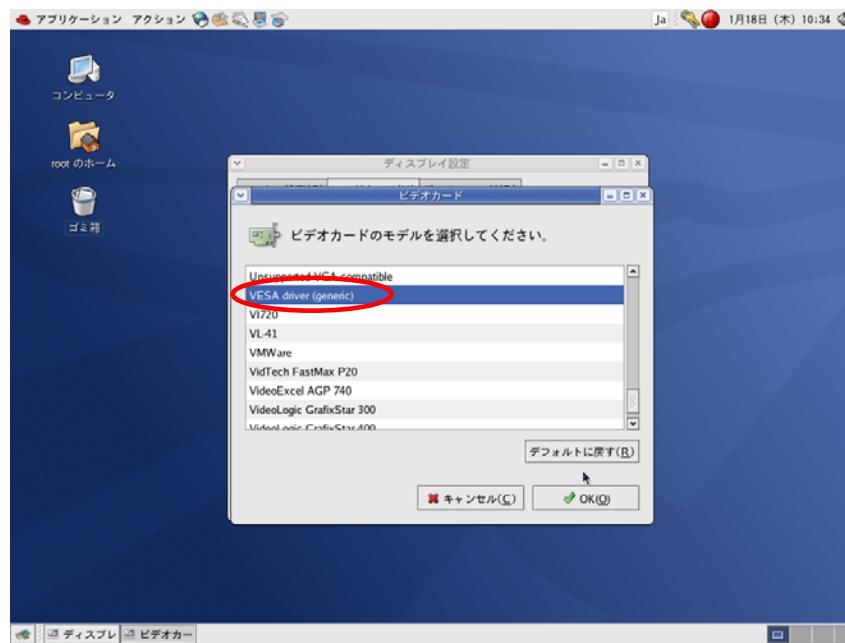
2. ディスプレイ設定のモニター設定タブで解像度を 1024x768 に設定します。



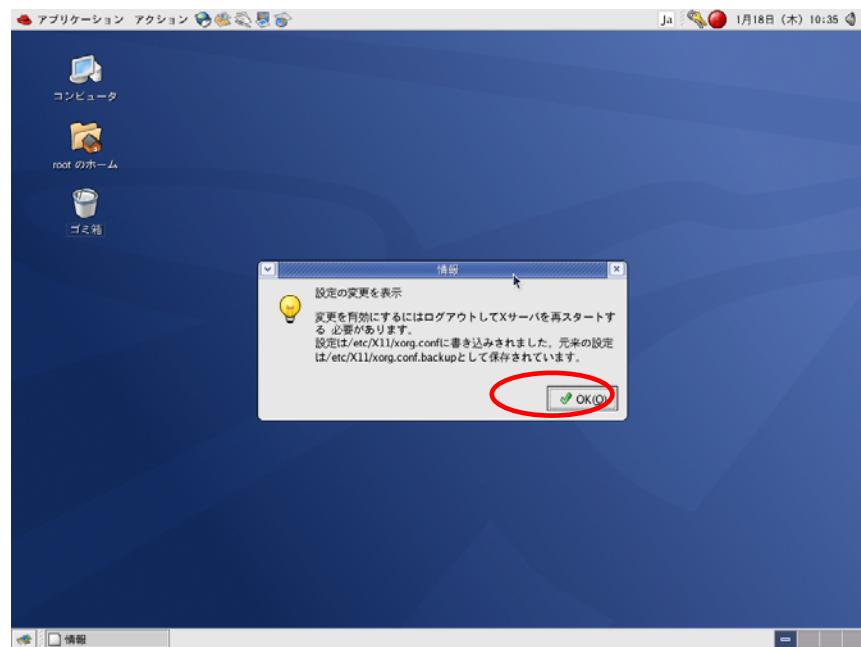
3. “ディスプレイ設定のハードウェアタブでビデオカードタイプが“VESA driver”に設定されていることを確認します。



“VESA driver”に設定されていない場合はビデオカードタイプの設定ボタンをクリックして、一覧から“VESA driver”を選択します。選択したらOKボタンを押してください。



- ディスプレイ設定の OK ボタンを押すと情報が表示されます OK ボタンを押して window を閉じます。

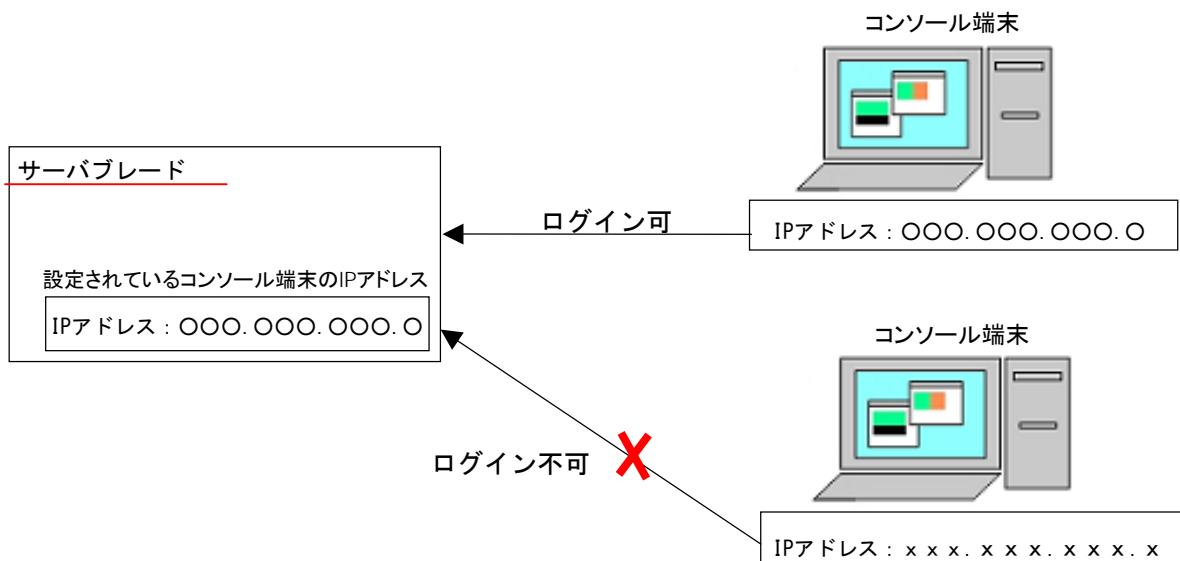


以上で設定は完了です。解像度の設定を反映させるため、X サーバを再スタートします。

## □ コンソール端末、ユーザID、ユーザPassWordの設定

リモートコンソール機能では、不正なユーザの使用を防ぐ為、以下のセキュリティを設けています。

- ユーザ ID、PassWordによるログイン時の認証
- IP アドレスチェックによる接続コンソール端末の制限



この為、使用される前にユーザ及びコンソール端末の登録が必要です。以下に登録の方法を記載します。

- コンソール端末の IP アドレスの追加、削除
- リモートコンソール使用時のポートナンバー設定
- ユーザ ID、PassWord の設定

マネジメントモジュールの「SVP コマンドモード」を起動してください。起動方法は「ユーザーズガイド」「6章 マネジメントモジュールの設定」をご参照ください。

### マネジメントモジュールによる設定

本手順は、SVP 統合 F/W : Ax027 以上で Xeon DP Server Blade, A51A4 モデルに適用されます。

「KVM」コマンドを実行し、該当のサーバブレード番号を入力します。



「KVM」コマンドは、SVP 統合 F/W : Ax027 以降からサポートされています。



表示までしばらく時間が掛かります。

SVP> KVM (エンター)

<<KVM configuration- set Remote Console configuration>>

Enter server module No. (0-7,[Q]) : 1 (エンター) ←サーバブレード番号を入力

Server module 1 KVM configuration

-- KVM version information -----  
KVM Firmware version : 02-14

-- Port information -----

KVM port No.      <Current>      <Modification>  
                      : 33555            : -----

-- ID information -----

	<Current>	<Modification>
User ID 0	: User0	: -----
User ID 1	: User1	: -----
User ID 2	: User2	: -----
User ID 3	: User3	: -----

-- Allow IP address information -----

	<Current>	<Modification>
IP address 0	: 192. 168. 254. 200	: -----
IP address 1	: 192. 168. 254. 201	: -----
IP address 2	: 192. 168. 254. 202	: -----
IP address 3	: 192. 168. 254. 203	: -----

0 . Change ID/Password.  
1 . Change Port Number.  
2 . Change allow IP address.  
W . Write configuration into KVM.  
Q . Quit  
(0-2,W,[Q]) :

デフォルト値は以下の通りです。

項目	デフォルト
User ID No. 0	ID: user01、password: pass01
User ID No. 1	設定なし
User ID No. 2	設定なし
User ID No. 3	設定なし
Port No.	5001
IP address 0	設定なし
IP address 1	設定なし
IP address 2	設定なし
IP address 3	設定なし

ユーザ ID、パスワードの設定を変更するためにはメニューから「0」を選択します。

```
Enter ID No. (0-3, [Q]) : 0 (エンター)
Enter old password : (エコーバック無し)
Enter new ID ([delete]) : (New Account)
Enter new password : *****
Retype new password : *****

Confirm? (Y/[N]) : y
```



設定したパスワードを調べる方法はありません。パスワードがわからなくなったら場合は、当該ユーザ ID を削除して再度追加する必要があります。設定したパスワードは忘れないように注意してください。



ユーザ ID とパスワードは 6 文字以上 16 文字以下を設定してください。使用可能文字は、0~9(数字)、a~z(英小文字)、A~Z(英大文字)、!\$%-;.＜＞/? (記号) です。

ポート番号の設定を変更するためにはメニューから「1」を選択します。

```
Enter IP address No. (0-3,[Q]) : 0
Enter new IP address ([192. 158. 34. 34]) : 192.168.1.1

Confirm? (Y/[N]) : y
```



ポート番号は 5001~65535 が設定可能です。それ以外のポート番号は設定することができません。

```
Enter new port No. ([20034]) : 20045

Confirm? (Y/[N]) : y
```

接続を許可するコンソール端末の IP アドレス設定を変更するためにはメニューから「2」を選択します。

新しい IP address に「0.0.0.0」を入力することで設定を削除することができます。

KVM に設定を書き込むためにはメニューから「w」を選択します。各設定値を変更した場合は必ず行ってください。

```
Confirm? (Y/[N]) : y
```



メニューから「w」を選択するまでは KVM に情報は書き込まれません。

## セットアップ CDによる設定

本手順は、SVP 統合 F/W : Ax027 以下 Xeon DP Server Blade, A51A3、及び、A51A4 モデルに適用されます。

続く、1～8までの操作は、サーバブレードに接続された USB キーボード、マウス、及び VGA ディスプレイを使用します。

### 1. リモートコンソール設定ユーティリティ起動

サーバブレードの CDROM に「①. BladeSymphony Remote KVM console setup CD」をセットし、DOS システムを起動します。その後、「remoutil」と入力し「Enter」を押下すると下図のようなルートメニューが表示されます。

内部処理により、リモートコンソールセットアップユーティリティ「remoutil」は、電源 ON またはシステムリセットから 5 分程度の間使用できません。電源 ON またはシステムリセットから 5 分程度経過してからコマンドを入力し、ユーティリティを起動してください。経過時間が不足した場合には、"Data Read Error!!" が表示されることがあります。この場合は、暫く時間をおいて、再度コマンドを入力してください。

各番号を選択することで、それぞれ設定を行うことができます。データの読み込みから表示までは、およそ 3 分程度かかります。

1:Remote Console Information … アドレスメニュー（IP アドレスの追加、削除）に移動します。

2:User Information … ユーザメニュー（ユーザ ID、PassWord の登録）に移動します。

3:Port Information … ポートメニュー（ポートナンバーの登録）に移動します。

Q:Quit Setup(Save Data) … 設定値をセーブし終了します。

ルートメニュー

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
1:Remote Console Information
```

```
2:User Information
```

```
3:Port Information
```

```
Q:Quit Setup(Save Data)
```

```
Message :
```

```
Key [1]:Client Info, [2]:User Info, [3]:Port Info, [Q]:Quit, [Esc]:Escape
>
```

## 2. コンソール端末のIPアドレスの設定

ルートメニューで「1」を選択するとアドレスメニューが表示されます。ここでは各番号を選択することで、接続を許可するコンソール端末のIPアドレスの設定ができます。

1:Add Remote Console IP Address . . . アドレスの追加画面に移動します  
2:Delete Remote Client IP Address . . . アドレスの削除画面に移動します  
Q:Quit Remote Console Information Menu . . . ルートメニューに戻ります  
[Esc] . . . 設定保存画面に移動します。

### アドレスメニュー

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

1:Add Remote Console IP Address  
2:Delete Remote Client IP Address  
Q:Quit Remote Console Information Menu

----- Remote Console IP Address List -----

[1]:  
[2]:  
[3]:  
[4]:

設定されているIPアドレスのリストが表示されます。IPアドレスは4つまで設定することができます。初期設定時はIPアドレスが設定されていない為、何も表示されません。

Message :  
Key [1]:Add Client, [2]:Delete Client, [Q]:Quit, [Esc]:Escape

アドレスメニューで「1」を選択するとアドレス設定画面が表示されます。コンソール端末のIPアドレスは4つまで設定することができます。設定する場合は、IPアドレス入力後「Enter」を押下してください。また、IPアドレスが4つ登録されている場合は1つ削除してから登録を行って下さい。削除をする場合は「7. コンソール端末のIPアドレス削除」を参照ください。（初期設定の際IPアドレスはなにも設定されていません。）

[.0123456789] . . . IPアドレスの入力に使用します。

[Ent] . . . IPアドレス入力後押下することでIPアドレスが設定されます。

[Q] . . . 1つ前の画面に戻ります。

[Esc] . . . 設定保存画面に移動します。

#### アドレス設定画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

----- Remote Console IP Address List -----

[1]:

[2]:

[3]:

[4]:

Message :Please Input IP Address!!

Key [Ent] [. 0123456789]

>111.111.111.111 ←

設定するIPアドレスを  
入力してから「Enter」  
を押下します。

アドレスがリストに追加された事を確認し「Q」を押下してルートメニューに戻ります。

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
1:Add Remote Console IP Address
```

```
2:Delete Remote Client IP Address
```

```
Q:Quit Remote Console Information Menu
```

```
----- Remote Console IP Address List -----
```

```
[1]: 111.111.111.111
```

```
[2]:
```

```
[3]:
```

```
[4]:
```

```
Message :
```

```
Key [1]:Add Client, [2]:Delete Client, [Q]:Quit, [Esc]:Escape
```

```
>
```

### 3. リモートコンソール使用時のTCP/IPポートナンバー設定

ルートメニューで「3」を選択するとポートメニューが表示されます。ここではリモートコンソール使用時のサーバブレード ⇄ コンソール端末間で行われる通信のポートナンバーを設定することができます。

1:Change Port . . . ポートナンバーの変更画面に移動します。

Q:Quit Port Information Menu . . . ルートメニューに戻ります。

#### ポートメニュー

\*\*\* KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX \*\*\*

1:Change Port

Q:Quit Port Information Menu

----- Port Number -----

xxxxx

Message :

Key [1]:Change Port, [Q]:Quit, [Esc]:Escape

>

## ポートナンバー設定

ポートメニューで「1」を設定するとポート設定画面が表示されます。設定する場合はポートナンバーを入力し「Enter」を押下します。

[0123456789] . . . ポートナンバーを入力するのに使用します。

[Ent] . . . ポートナンバー入力後押下します。「Enter」入力後はポートメニューに戻ります。

Xeon DP Server Module A51A3 Model では、ポート番号はシステムの AC 電源 OFF/ON 後に有効となります。変更の場合には、全てのサーバブレードをシャットダウンし、シャーシの AC 電源 OFF/ON を実施してください。

ポート設定画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
----- Port Number -----
```

```
xxxxx
```

```
Message :Please Input Port Number!!
```

```
Key [Ent] [0123456789]
```

```
>
```

...  
補足

ポートナンバーは21001を除く5001～65535が設定可能です。それ以外のポートナンバーは設定することができません。

#### 4. ユーザID、PassWordの設定

ルートメニューで「2」を選択するとユーザメニューが表示されます。ここでは各番号を選択することで、ユーザ ID の追加、削除、PassWord の変更をすることができます。

1:Add User . . . ユーザ ID の追加画面に移動します。

2:Delete User . . . ユーザ ID の削除画面に移動します。

3:Change Password . . . PassWord の変更画面に移動します。

Q:Quit User Information Menu . . . ルートメニューに戻ります。

[Esc] . . . 設定保存画面に移動します。

ユーザメニュー

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

1:Add User

2:Delete User

3:Change Password

Q:Quit User Information Menu

----- User List -----

[1]:

[2]:

[3]:

[4]:

} 設定されているユーザ ID が表示されます。ユーザ ID は 4 つまで登録することができます。初期設定時は何も設定されていない為、表示されません。

Message :

Key [1]:Add User, [2]:Delete User, [3]:Change User, [Q]:Quit, [Esc]:Escape  
>

## ユーザ追加

ユーザメニューで「1」を選択するとユーザ追加画面が表示されます。ユーザ ID は4つまで登録することができます。登録する場合は、ユーザ ID を入力後「Enter」を押下してください。「Enter」押下後、PassWord の入力を求められます。PassWord は確認の為、2回入力が必要です。ユーザ ID、PassWord は6文字以上、16文字以内で設定して下さい。ユーザの削除をする場合は「ユーザ削除」を参照ください。（初期設定の際ユーザ ID はなにも設定されていません。）

ユーザ追加画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
----- User List -----
```

```
[1]:
```

```
[2]:
```

```
[3]:
```

```
[4]:
```

```
Message :Please Input New User ID. !!
Key [Ent] [0-9, a-z, A-Z, !#$%-;. </?]
>123456
```

[0-9,a-z,A-Z,!#\$%-;.,</?]  
ユーザ ID、PassWord 入力に使用できます。（カンマ、全角  
文字は利用できません）

[Ent]  
ユーザ ID、PassWord 入力後、押下することでユーザ ID、PassWord が設定され  
ます。また「Enter」押下後はユーザメニューに戻ります。

ユーザリストに設定したユーザ ID が追加されたことを確認したら「Q」を押下しルートメニューに戻ります。

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***

1:Add User
2:Delete User
3:Change Password
Q:Quit User Information Menu

----- User List -----

[1]:123456
[2]:
[3]:
[4]:

Message   :
Key [1]:Add User, [2]:Delete User, [3]:Change User, [Q]:Quit, [Esc]:Escape
>
```

## 5. 設定保存

ルートメニューで「Q」を選択することで設定保存画面が表示されます。ここでは各設定を有効にすることができます。初期設定時はコンソール端末のIPアドレス、ポートナンバー、ユーザID、ユーザPassWordを設定後この画面で設定を保存します。また、コンソール端末のIPアドレス、ポートナンバー、ユーザID、ユーザPassWordの追加や削除、変更を行った場合もここで設定を保存しないと設定は有効になりません。保存が終了すると「Setup Finish」が表示されます。

なお、情報の保存には3分程度かかりますので、この間サーバブレードの電源をOFFしないようにしてください。

[Y] . . . 設定を有効にします。

[N] . . . 設定を有効にしません。

[Esc] . . . 設定保存画面に移動します。

設定保存画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
Message :The Changed Data Is Not Written. Do you save?
```

```
Key [Y]:Yes, [N]:No, [Esc]:Escape
```

```
>
```

•••  
補足

「Y」を選択してから設定保存が終了するまで約1分ほど時間がかかります。保存が終了すると「Setup Finish.」が表示されます。

## 6. コンソール端末のIPアドレス削除

アドレスメニューで「2」を選択すると接続を許可しているコンソール端末の IP アドレス削除画面が表示されます。既に IP アドレスが 4 つ登録されている状態で新しい IP アドレスを設定したい場合などはこの画面で IP アドレスを削除することができます。削除する場合は削除したい IP アドレスを 1~4 の番号で選択します。削除後は設定を保存しなければ有効になりません。[\(P48 参照\)](#)

[1-4]・・・削除する IP アドレスを選択します。

[Q]・・・1つ前の画面に戻ります。

[Esc]・・・設定保存画面に移動します。

アドレス削除画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
----- Remote Console IP Address List -----
```

```
[1]:111.111.111.111
```

```
[2]:
```

```
[3]:
```

```
[4]:
```

```
Message :Please Select Number!!
```

```
Key [Q]:Quit, [Esc]:Escape, [1-4]
```

```
>
```

## 7. ユーザ削除

ユーザメニューで「2」を選択するとユーザ削除画面が表示されます。既にユーザIDが4つ登録されている状態で新しいユーザIDを設定したい場合などはこの画面でユーザIDを削除することができます。削除する場合は削除したいユーザIDを1~4の番号で選択します。削除後は設定を保存しなければ有効になりません。(P48 参照)

[1-4] . . . 削除するIPアドレスを選択します。

[Q] . . . 1つ前の画面に戻ります。

[Esc] . . . 設定保存画面に移動します。

ユーザ削除画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
----- User List -----
```

```
[1]: 123456
```

```
[2]:
```

```
[3]:
```

```
[4]:
```

```
Message :Please Select Number!!
```

```
Key [Q]:Quit, [Esc]:Escape, [1-4]
```

```
>
```

## 8. PassWord 変更

ユーザメニューで「3」を選択すると PassWord 変更画面が表示されます。ここでは各ユーザの PassWord を変更することができます。変更する場合は、変更したいユーザを 1~4 の番号で選択します。今までの PassWord を入力後、新しい PassWord を 2 回入力します。PassWord は 6 文字以上、16 文字以内で設定して下さい。また、変更後は設定を保存しなければ有効になりません。[\(P48 参照\)](#)

[1-4] . . . PassWord を変更したいユーザを選択します。

[Q] . . . 1つ前の画面に戻ります。

[Esc] . . . 設定保存画面に移動します。

[0-9,a-z,A-Z,!#\$%-;.<>/?] . . . PassWord 変更の際、入力に使用できます。（カンマ、全角文字は利用できません）

### PassWord 変更画面

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***
```

```
----- User List -----
```

```
[1]:123456
```

```
[2]:
```

```
[3]:
```

```
[4]:
```

```
Message :Please Select Number!!
```

```
Key [Q]:Quit, [Esc]:Escape, [1-4]
```

```
>
```

## メッセージ欄に表示されるメッセージの意味

(下記メッセージ確認してください)

【SVP Board Not Found.】 リモートコンソールボードが見つかりません。リモートコンソールボードが搭載されていることを確認してください。

【Time Out Error.】 リモートコンソールからの応答がありません。サーバブレードに補助電源が供給されていることを確認してください。

【New IP Address OK!!】 新しい IP アドレスが入力されました。

【It has already been registered!!】 入力したものはすでに設定済みです。

【Invalid Data!!】 入力したものは無効なデータです。

【Invalid Key!!】 入力したキーは無効なキーです。

【Please Select Number!!】 番号で選んでください。

【Please Input New User ID.!!】 新しいユーザ ID.を入力してください。

【It is necessary by 6 characters or more!!】 入力するデータは 6 文字以上必要です。

【Please Input New Password!!】 新しい PassWord を入力してください。

【Please Input Check Password!!】 確認用 PassWord を入力してください。

【New User OK!!】 新しいユーザが入力されました。

【Password is different!!】 PassWord が正しくありません。

【Please Input Check Password!!】 確認用 PassWord を入力してください。

【Please Input Old Password!!】 変更前の PassWord を入力してください。

【Change Password OK!!】 新しい PassWord が入力されました。

【New Port OK!!】 新しいポート番号が入力されました。

【It is not possible to add it more than this!!】 これ以上設定を追加することはできません。

【It is not possible to delete it more than this!!】 これ以上設定を削除することはできません。

【Now Saving.】 各設定をサーバブレードに保存中です。

【Setup Finish.】 各設定をサーバブレードに保存終了です。

【The Changed Data Is Not Written. Do you save?】

各設定を変更したあと初期メニューの「Quit Setup」を選択した場合、あるいは[Escape]キーを押して終了しようとした場合に、変更内容をサーバブレードに保存するかどうかの問い合わせです。

# 4

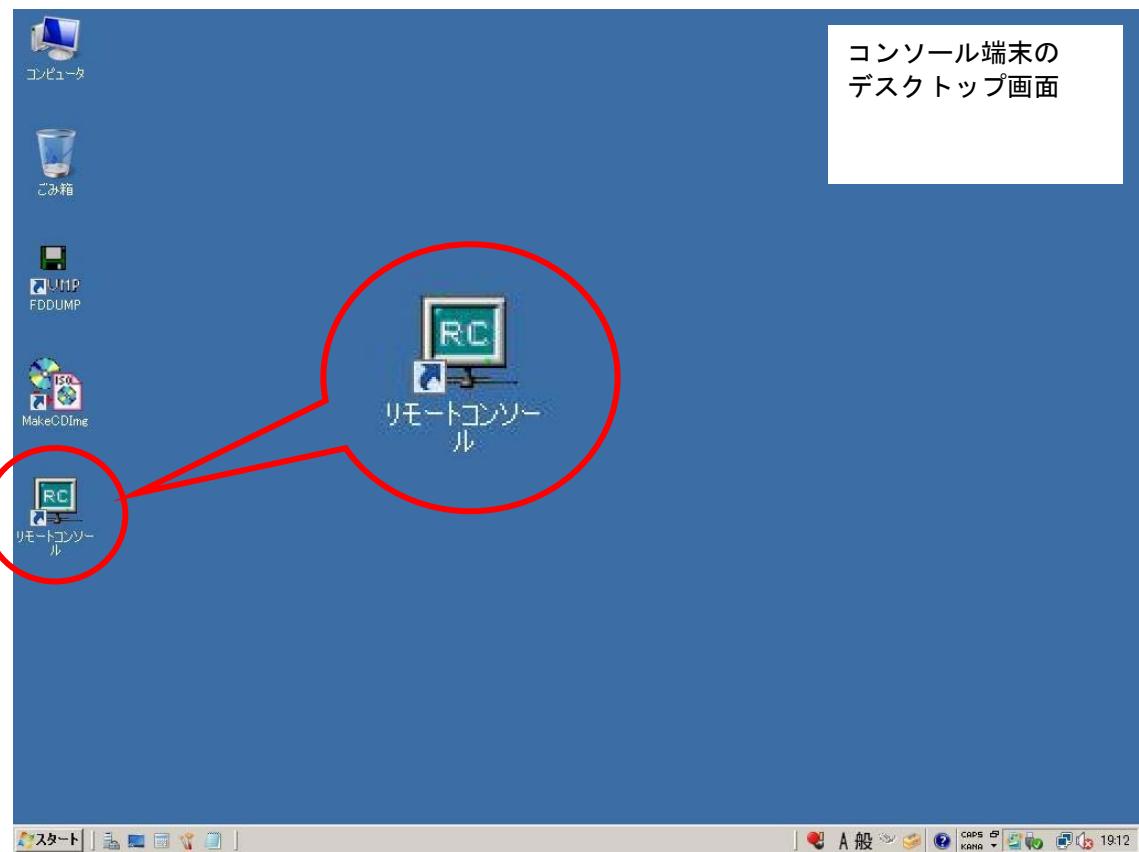
## 使用方法

この章では、リモートコンソールアプリケーションの使用方法について説明します。

### 4.1 アプリケーション起動方法

まず、リモートコンソール機能を使用するための方法とログイン方法を説明します。

デスクトップ上にあるリモートコンソール（reclient.exeへのショートカットアイコン）をダブルクリックします。



アイコンをダブルクリックするとログイン画面が表示されます。リモートコンソール接続先のIPアドレス、ニックネーム、ユーザID、パスワード、ポート番号、パスワードを記憶するを入力し「接続」ボタンをクリックします。

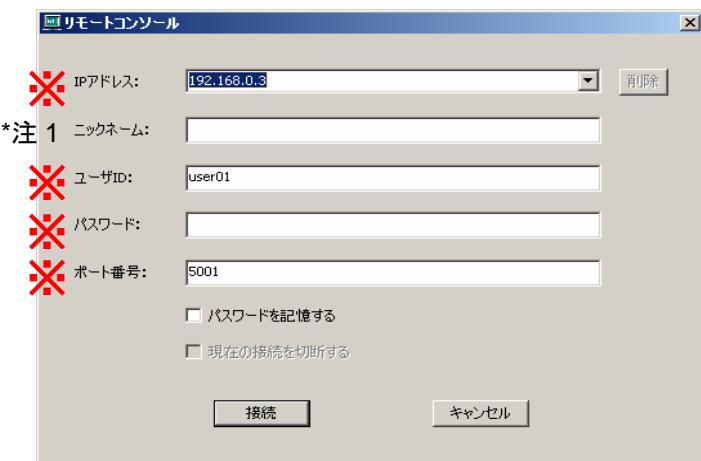
IPアドレスのプルダウンには過去に接続したサーバブレードのIPアドレスが表示されます。

プルダウン内のIPアドレスを選択することにより、選択したIPアドレスの前回接続時の情報が表示されます。

パスワードを記憶するチェックボックスの機能は以下の通りです。必要に応じて使い分けてください。

**チェック有り**：パスワードを記憶します。同一IPアドレスへの次回接続時にパスワードの入力が不要になります。

**チェック無し**：パスワードを記憶しません。同一IPアドレスへの次回接続時に、パスワードの入力が必要になります。



※の項目は入力必須です

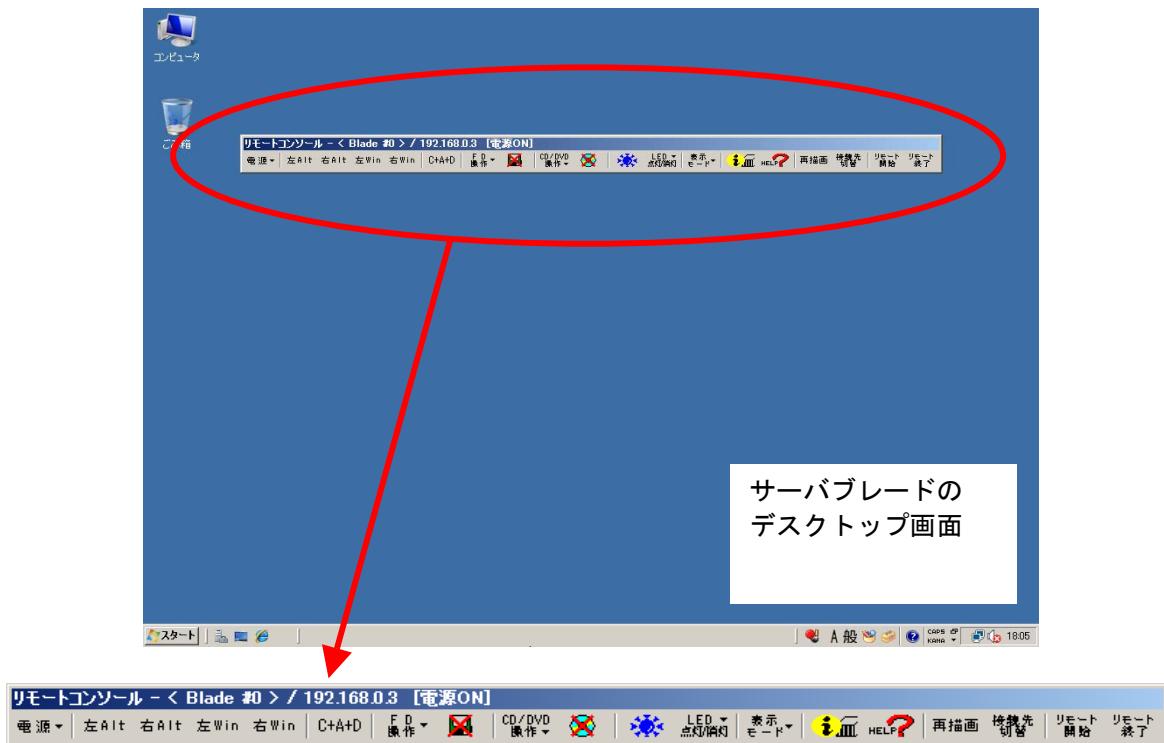
注1) 接続先サーバに任意のニックネームを登録することができます。IPアドレス入力後、ニックネーム欄に任意のニックネームを入力してください。ニックネームは入力しなくても問題ありません。全角10文字/半角20文字まで入力可能です。

#### 各項目の設定値

ユーザID 初期値	パスワード 初期値	ポート番号 初期値
user01	pass01	5001

リモートコンソール接続先	IPアドレス
サーバブレード #0	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #1	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #2	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #3	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #4	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #5	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #6	BMCのIPアドレス（お客様設定値）
サーバブレード #7	BMCのIPアドレス（お客様設定値）

接続が正常に行われると、サーバブレード側の画面が表示され、画面上にリモートコンソールのツールバーが表示されます。この時点では画面がリモート表示されるだけで、キーボード、マウスはリモート操作できません。ツールバーの「リモート開始」ボタンをクリックするとキーボード、マウスのリモート操作を行うことができます。この間ツールバーは表示されません。



ツールバー項目		説明
< Blade #0 > / 192.168.0.3 [電源ON]		タイトルバーに接続中のニックネーム/IP アドレスと電源ステータスを表示します。ニックネームの設定がない場合、IP アドレスのみの表示になります。*注 3
電源 *注 1	電源オン	接続されているサーバブレードに対して、電源 ON を実行します。ボタンを押すと確認メッセージが表示されます。
	強制電源オフ	接続されているサーバブレードに対して、電源 OFF を実行します。ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。*注 2
	リセット	接続されているサーバブレードに対して、リセットを実行します。ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。*注 2
	NMI	接続されているサーバブレードに対して NMI を実行し、ダンプモードに移行します。障害時以外は使用しないでください。ボタンを押すと確認メッセージと、さらに再確認メッセージが表示されます。*注 2
左Alt		左 Alt キーを使用します。1度クリックすると再度クリックするまで Alt キーが押された状態になります。
右Alt		右 Alt キーを使用します。1度クリックすると再度クリックするまで Alt キーが押された状態になります。

ツールバー項目	説明	
	左 Win	左 Windows キーを使用します。一度クリックすると再度クリックするまで Windows キーが押された状態になります。
	右 Win	右 Windows キーを使用します。一度クリックすると再度クリックするまで Windows キーが押された状態になります。
	C+A+D	Ctrl+Alt+Del キーを使用します。
	FD開始	仮想 FD ドライブを接続した状態になります。
	FD終了	仮想 FD ドライブを切断した状態になります。
	Img選択	仮想 FD ドライブで使用する FD イメージデータを選択します。
	Img取出	仮想 FD ドライブで使用していた FD イメージを取り外します。
	仮想 FD ドライブの状態を表します。	
	CD/DVD 接続 *注 1	仮想 CD/DVD ドライブを接続した状態になります。
	CD/DVD 切断 *注 1	仮想 CD/DVD ドライブを切断した状態になります。
	Img選択 *注 1	リモート CD/DVD ドライブで使用するイメージデータを選択します。
	Img取出 *注 1	リモート CD/DVD ドライブで使用していたイメージを取り外します。
	リモート CD/DVD ドライブの状態を表します。	
	サーバブレード識別ランプの状態（点灯/消灯/点滅）を表示します。	
	点灯	サーバブレード識別ランプを点灯します。
	消灯	サーバブレード識別ランプを消灯します。
	フルカラー	フルカラー。
	減色	4096 色 (RGB 各 4bit)
	グレースケール	256 階調
	サーバブレードの装置情報/リモートコンソールの機能情報を表示します。	
	リモートコンソールで支援しているショートカットキー一覧を表示します。	
	コンソール端末の画面表示を更新します。	
	ログイン画面に戻ります。	
	リモートコンソールを開始します。	
	リモートコンソールを終了します。	

注 1) Xeon DP Server Module A51A3 Model では、機能がサポートされていません。

- 注2) サーバブレードの電源ONまたはシステムリセットから5分程度の間使用できません。  
電源ONまたはシステムリセットから5分程度経過してから実行してください。
- 注3) サーバブレードの電源ONまたはシステムリセットから5分程度の間表示が変更されません。

「リモート開始」ボタン押下後、コンソール端末側からサーバブレードの画面をリモートで操作することが可能になります。ここで「Alt+G」を押すとキーボード、マウスのリモコンが停止し、再びツールバーが表示されます。リモート操作を終了する場合は「リモート終了」ボタンをクリックしてください。このように「Alt+G」キーでリモートコンソールのモード切替え（ローカル/リモート）を行います。

```
Phoenix TrustedCore™ Server  
Copyright 1985-2005 Phoenix Technologies Ltd. slot0 / 192.168.0.3  
All Rights Reserved  
BIOS Version:7BPH-F42  
Build Time: 02/14/08 22:35:01  
CPU = 1 Processors Detected, Cores per Processor = 4  
Intel(R) Xeon(R) CPU X5355 @ 2.66GHz  
1023M System RAM Passed  
Base Board Management Controller  
Device ID : 20 Device Revision : 01  
IPMI Revision : 2.0 Firmware Revision : 06.47  
Self Test Result : 5500  
4096 kB L2 Cache  
System BIOS shadowed  
Video BIOS shadowed  
  
Press <F2> to enter SETUP, <F12> to enter Boot Menu
```

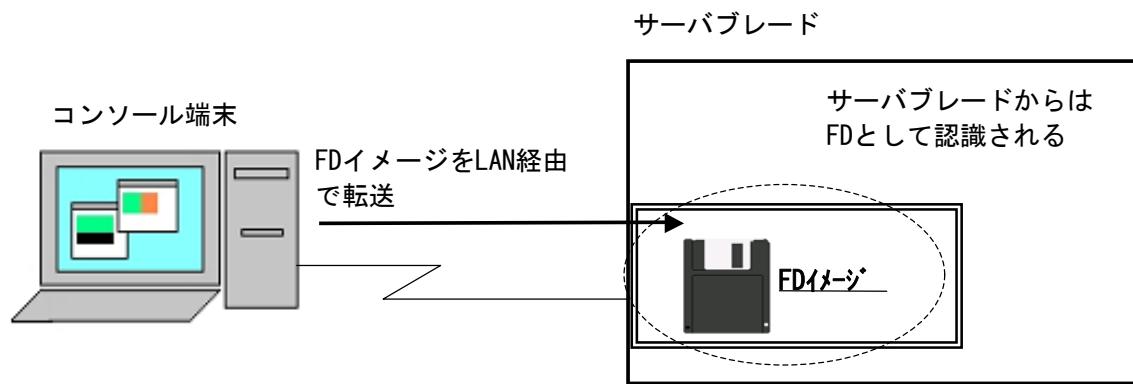
サーバブレードの  
BIOS起動画面(例)



リモートコンソール使用時はコンソール端末でのキーボード入力に制限  
があります。詳しくはP95を参照してください。

## 4.2 リモート FD の使用方法

リモート FD 機能とは、サーバブレードが仮想 FD ドライブとして動作し、サーバから使用することができる機能です。ここではリモート FD の使用方法を説明します。



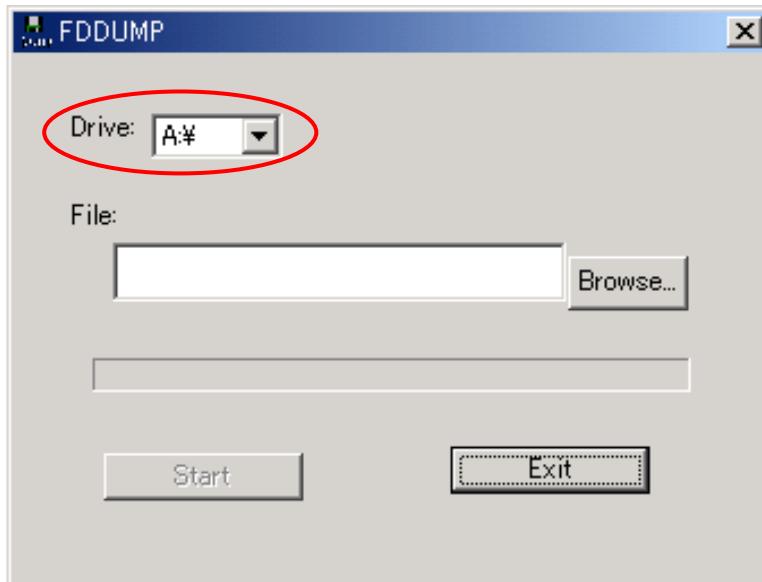
### FDのイメージ化

リモート FD 機能を利用する為には、FD の内容をイメージ化する必要があります。FD の内容をイメージ化するには以下の通り行います。

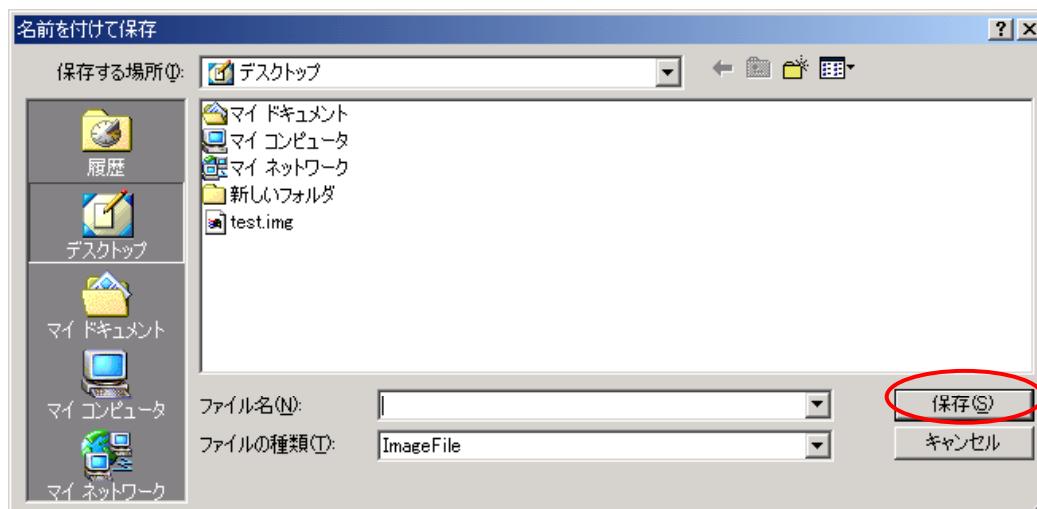
コンソール端末側のデスクトップで「FDDUMP.exe」のアイコンをダブルクリックします。「FDDUMP.exe」はリモートコンソールアプリケーションのインストール時にインストールを行っています。詳しくは「3章インストールおよびセットアップ方法」の「リモートコンソールアプリケーションのインストール手順」を参照して下さい。



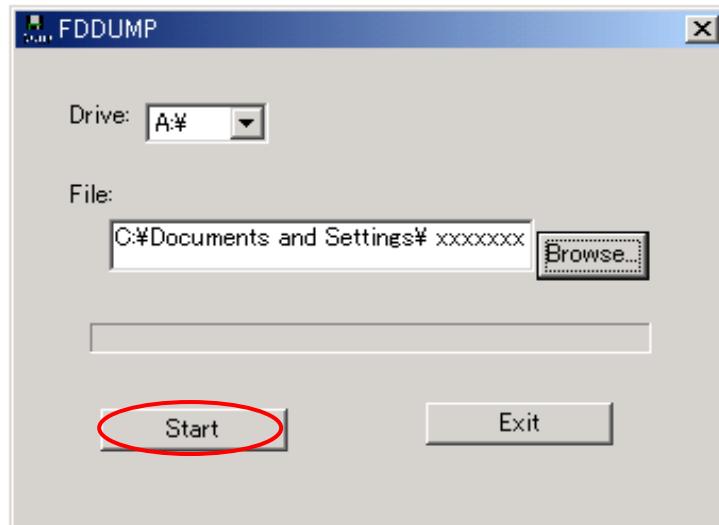
1. アイコンをクリックすると以下の画面が表示されます。イメージ化したい FD をコンソール端末側に挿入し Drive が「A:¥」になっていることを確認します。



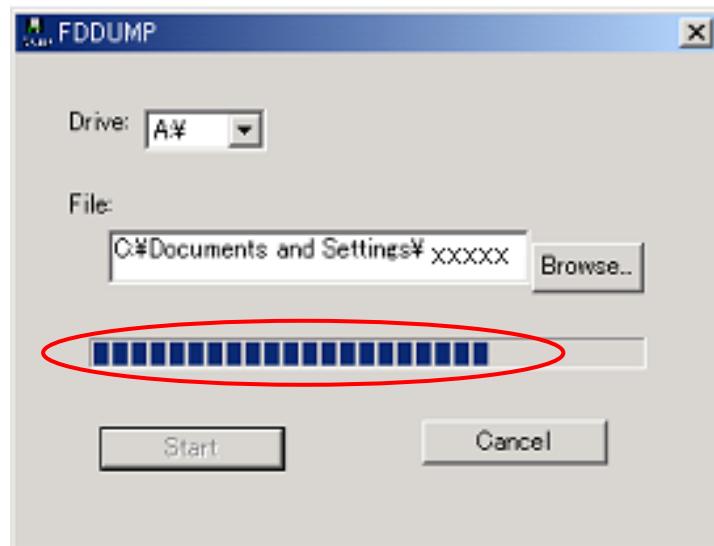
2. 次に「Browse」をクリックします。以下の画面が表示されるのでイメージ化されたファイルを保存する場所を選択し、そのファイル名を決めます。ファイル名を決めた後、「保存」をクリックするとイメージ化が開始されます。



3. 保存する場所を決めたら「Start」をクリックします。「Start」をクリックすると FD のイメージ化が開始されます。



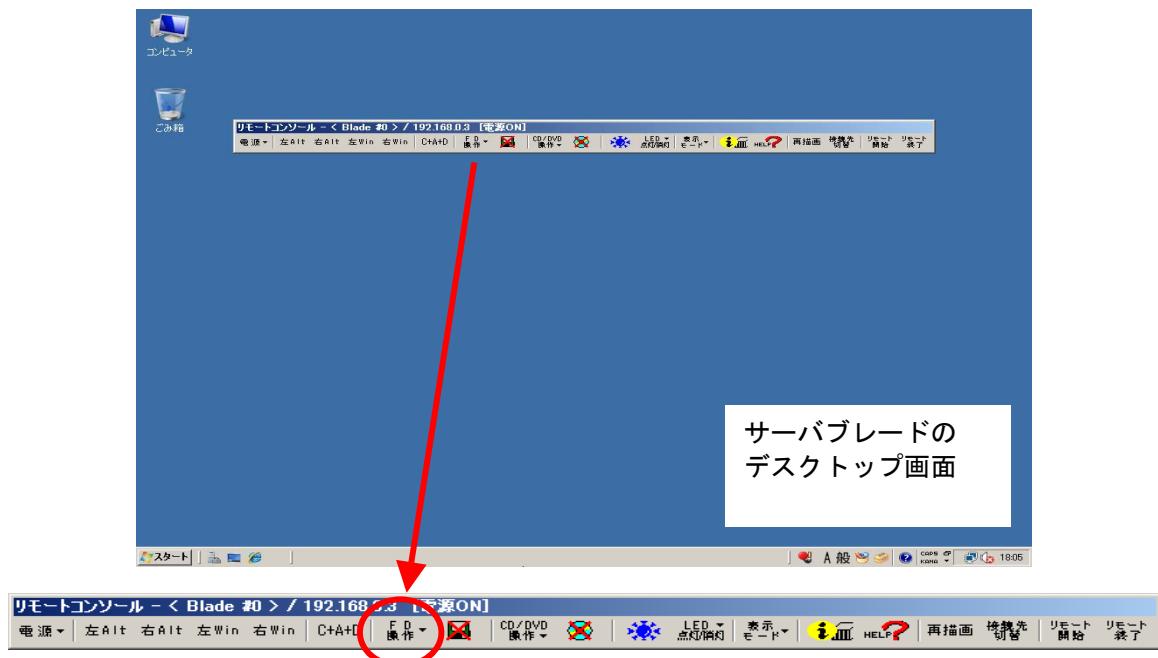
4. 「Start」ボタンをクリックすると、以下の画面のようにイメージ化の進行状況が表示されます。進行状況が最後まで表示されるとイメージ化は終了です。指定した保存先にイメージファイルが作成されています。



5. イメージ化が終了した後は、「Exit」をクリックし FDDUMP.exe を終了してください。

## WindowsでのリモートFDの使用方法

1. リモートコンソール・ツールバーの「FD操作」をクリックします。



2. 「FD操作」のプルダウンメニューが表示されますので、「FD開始」を選択します。

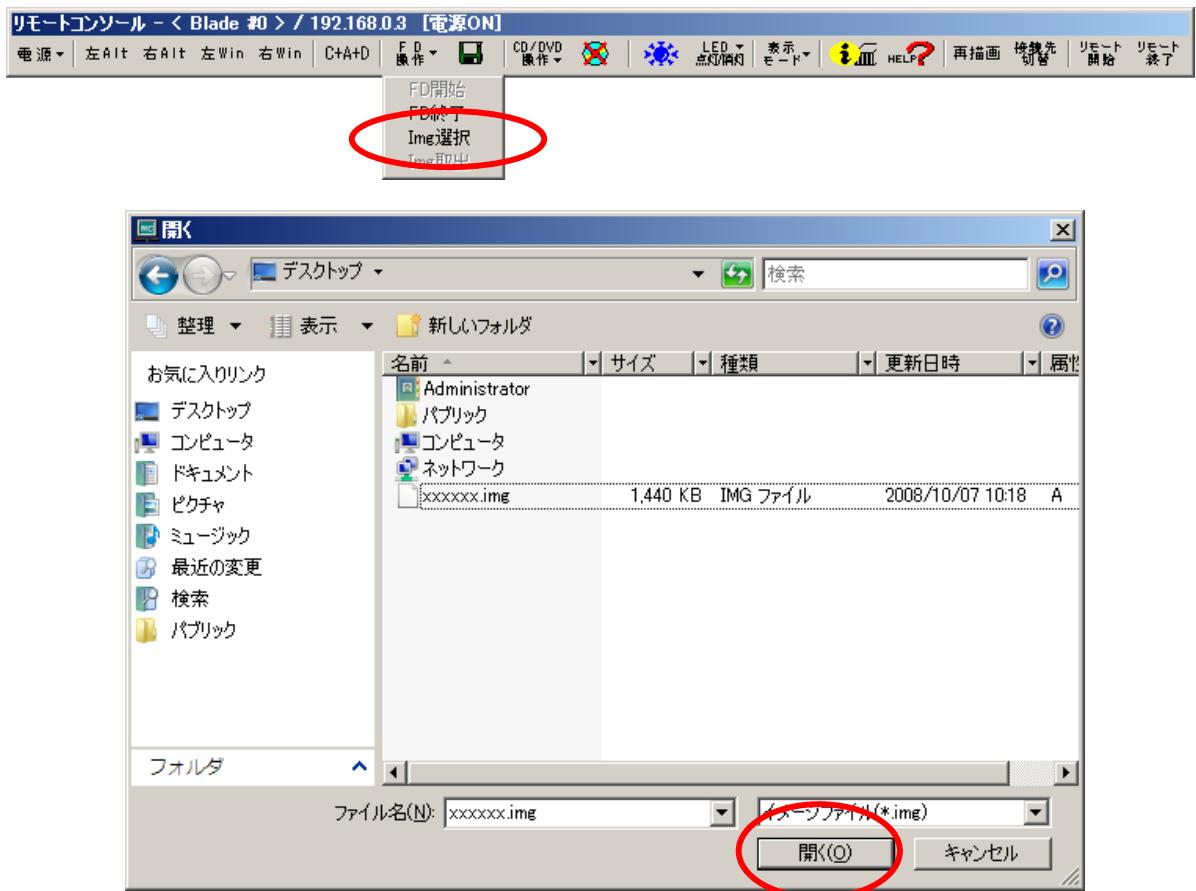


最初にリモートFD機能を使用する際、ツールバーの「FD開始」をクリックするとリモートFDドライバのインストールが始まります。詳しくは「Windowsのドライバインストールについて」を参照して下さい。



リモートFD機能を利用する為には、事前にFDの内容をイメージ化する必要があります。「FDのイメージ化」を参照して下さい。サーバブレードからFDイメージへ書き込みは出来ません。

3. 次に[FD 操作]プルダウンメニューの[Img 選択]をクリックし、イメージ化したファイルを選択し[開く]ボタンをクリックすると、FD の内容をイメージ化したものがサーバブレード側へ送られます。



## □ Windowsのドライバインストールについて

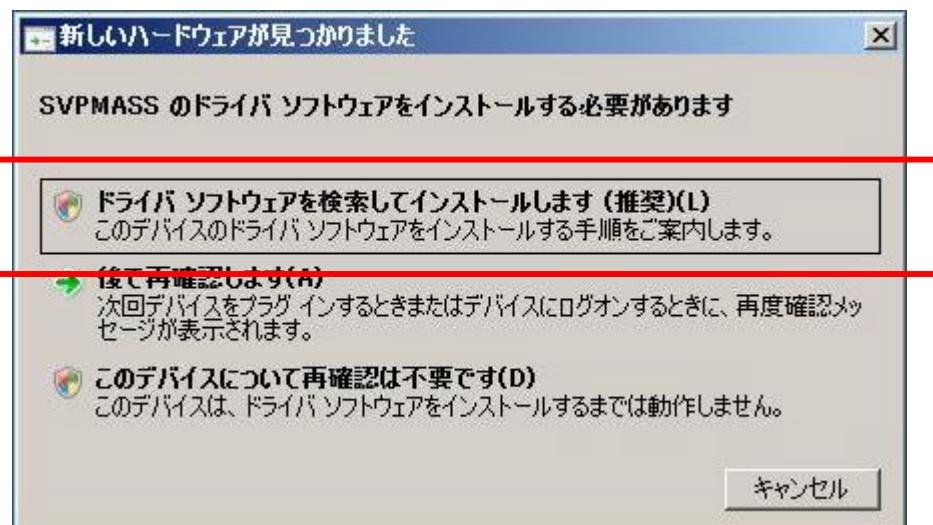
サーバブレードで Windows OS を起動している場合、リモート FD 機能の初回起動後、リモート FD は新しいデバイスとして認識され、リモート FD のドライバがインストールされます。

### リモートFD ドライバのインストール

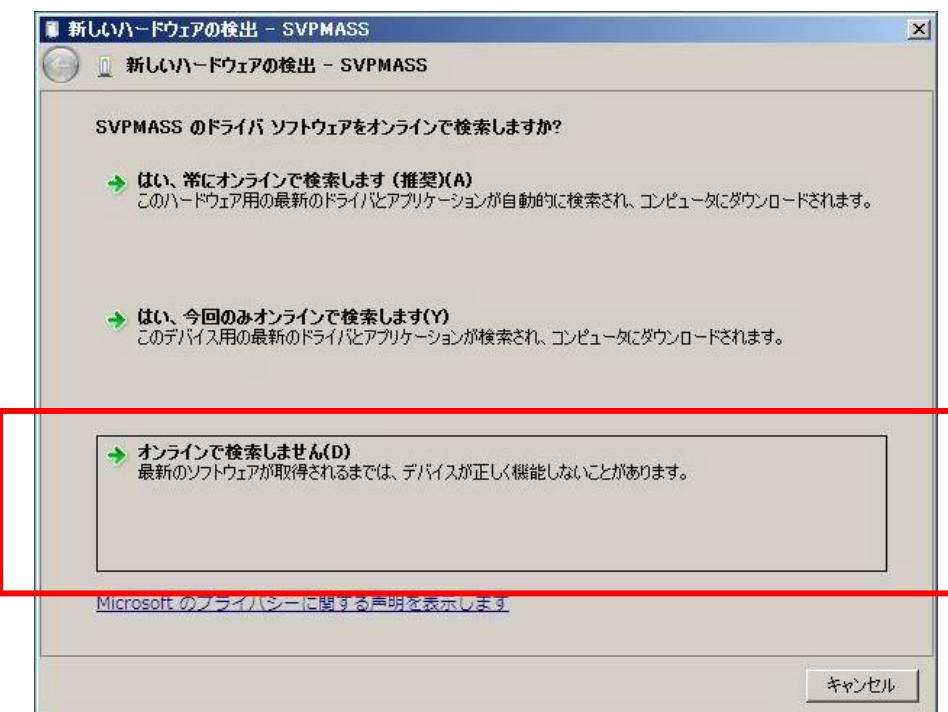
サーバブレードで Windows を起動している場合、リモート FD 機能の初回使用時のみリモート FD ドライバのインストールが開始されます。リモート FD ドライバは以下の手順でインストールしてください。

#### サーバブレード側の OS が Windows Server 2008 の場合

[FD 操作]のプルダウンメニューを表示し、[FD 開始]を選択すると以下の画面が表示されます。「ドライバ ソフトウェアを検索してインストールします」を選択してください。



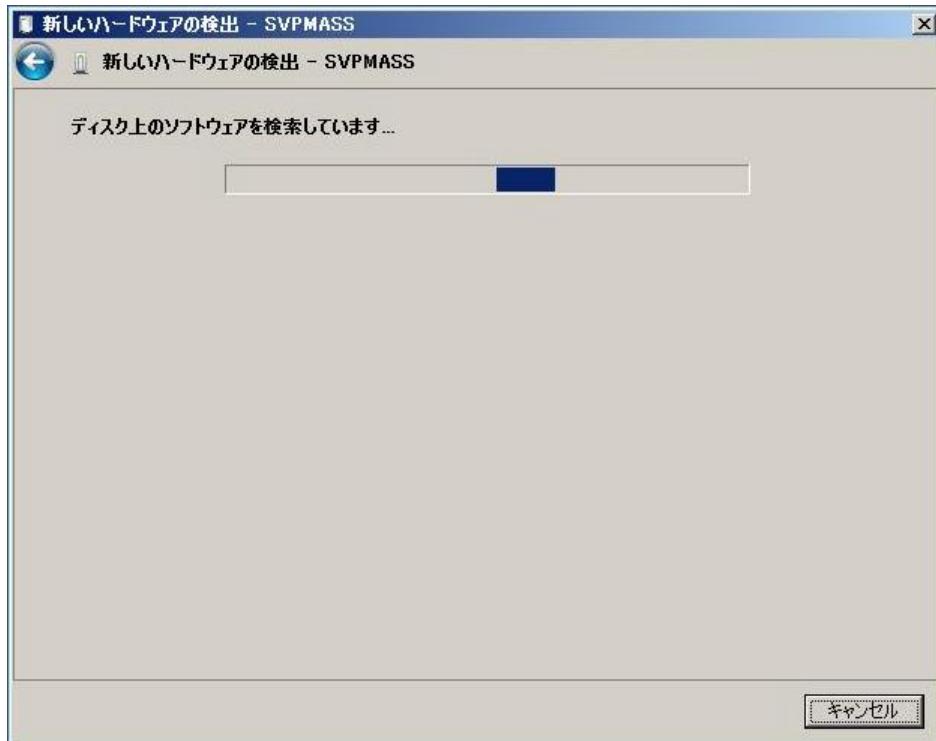
以下の画面が表示されるので「オンラインで検索しません」を選択してください。



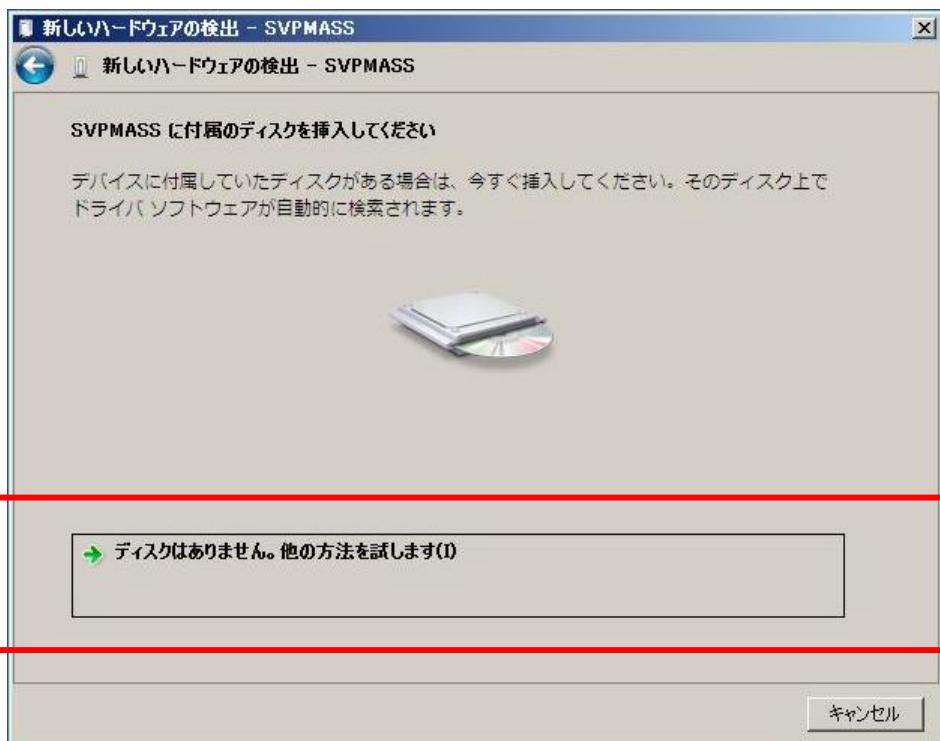
以下の画面が表示されるのでリモートコンソールアプリケーション CD を挿入してください。



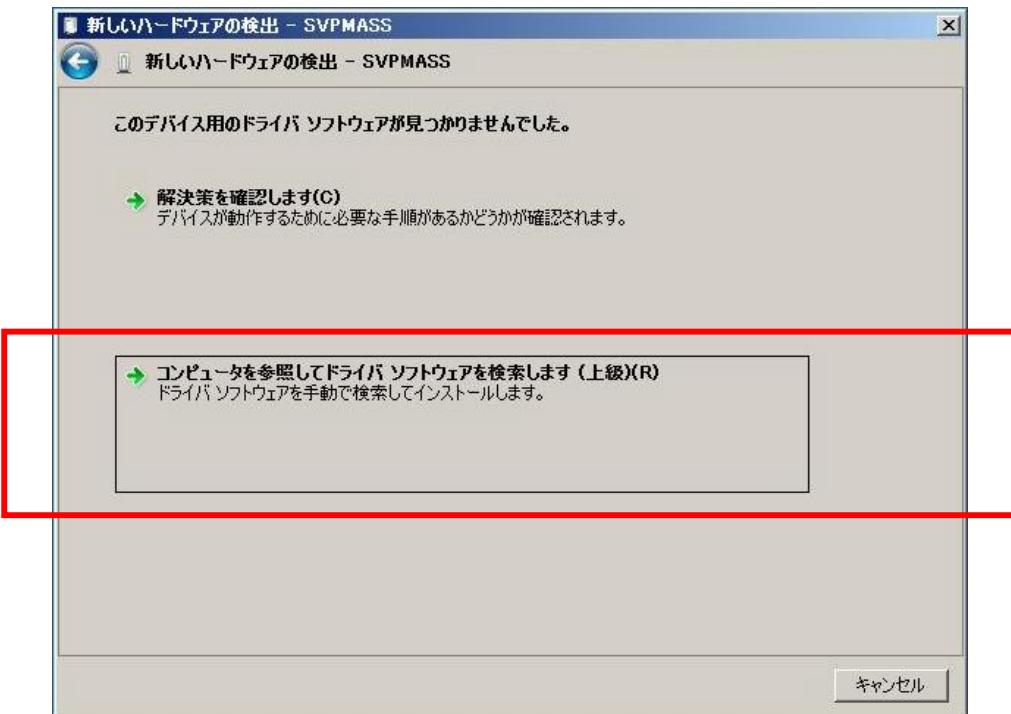
リモートコンソールアプリケーション CD を挿入すると以下の画面が表示され、ドライバのインストールが開始されます。



ドライバのインストールが開始されない場合は、「ディスクはありません。他の方法を試します」を選択してください。

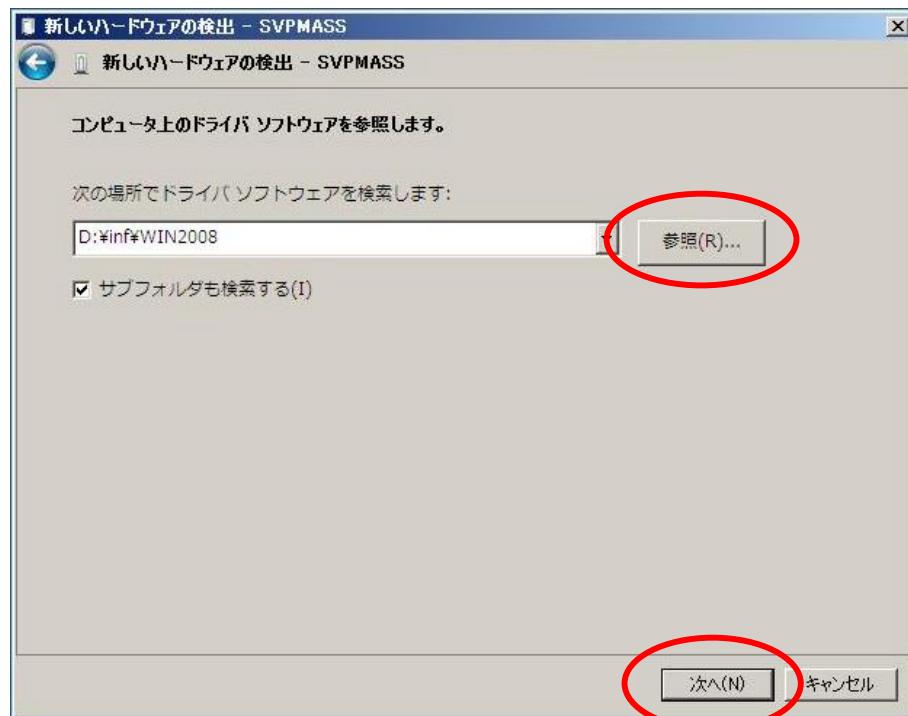


以下の画面が表示されるので「コンピュータを参照してドライバ ソフトウェアを検索します」を選択してください。

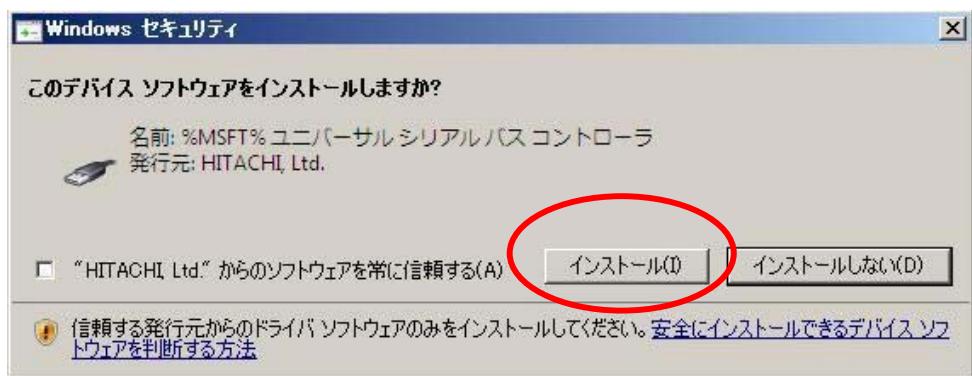


フォルダの[参照]をクリックし、CD ドライブを選択してください。サーバブレードで Windows Server 2008 32bit をご使用の場合は「inf」フォルダの中の「WIN2008」を、Windows Server 2008 64bit をご使用の場合は「inf」フォルダの中の「WIN2008x64」を選択し[次へ]をクリックしてください。

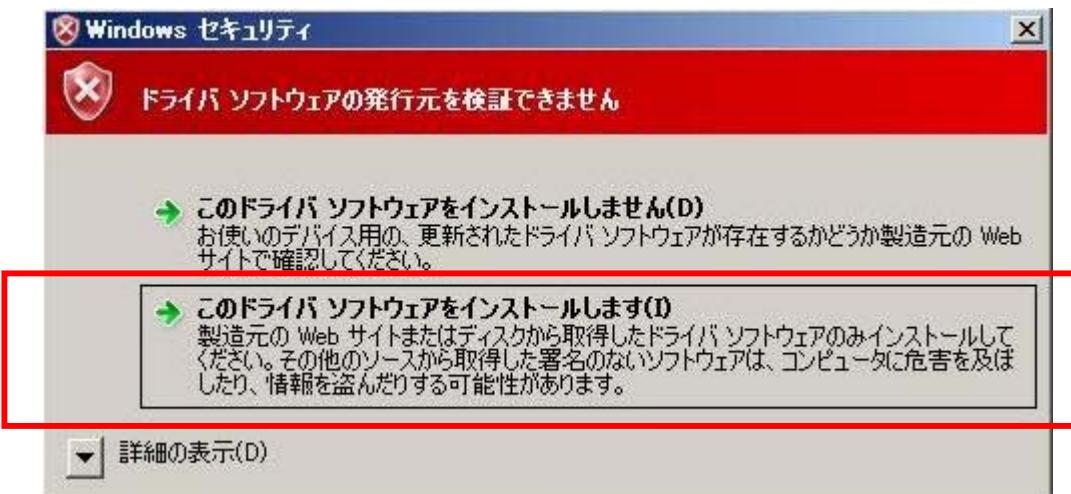
ドライバのインストールが開始されます。



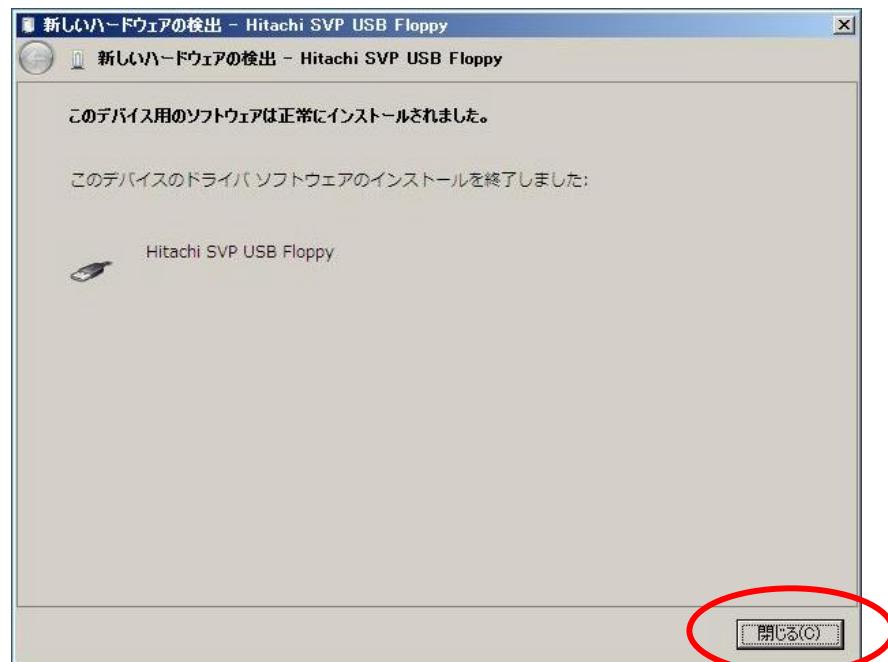
インストール中に以下の画面が表示された場合は[インストール]をクリックしてください。



以下のポップアップが表示された場合、「このドライバ ソフトウェアをインストールします」をクリックしてください。



ドライバのインストールが完了すると、以下の画面が表示されます。[閉じる]をクリックしてください。



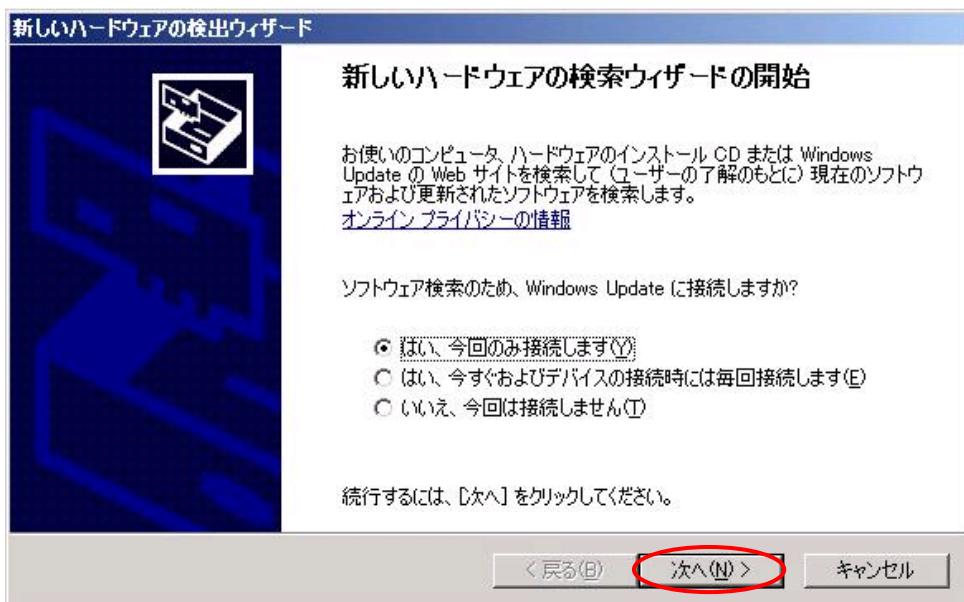
以上で Windows Server 2008 リモート FD ドライバのインストールは完了です。

## サーバブレード側の OS が Windows Server 2003 の場合

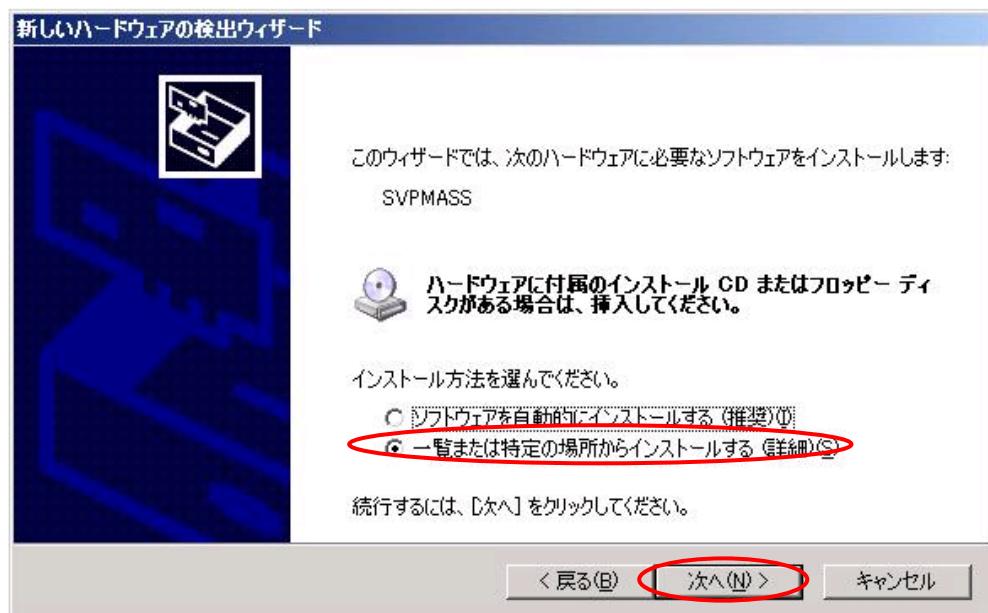
インストールされるドライバは「SVPFD.inf」という名前のファイルでシステムにより FD メディアとして提供されます。

### 「SVPFD.inf」のインストール

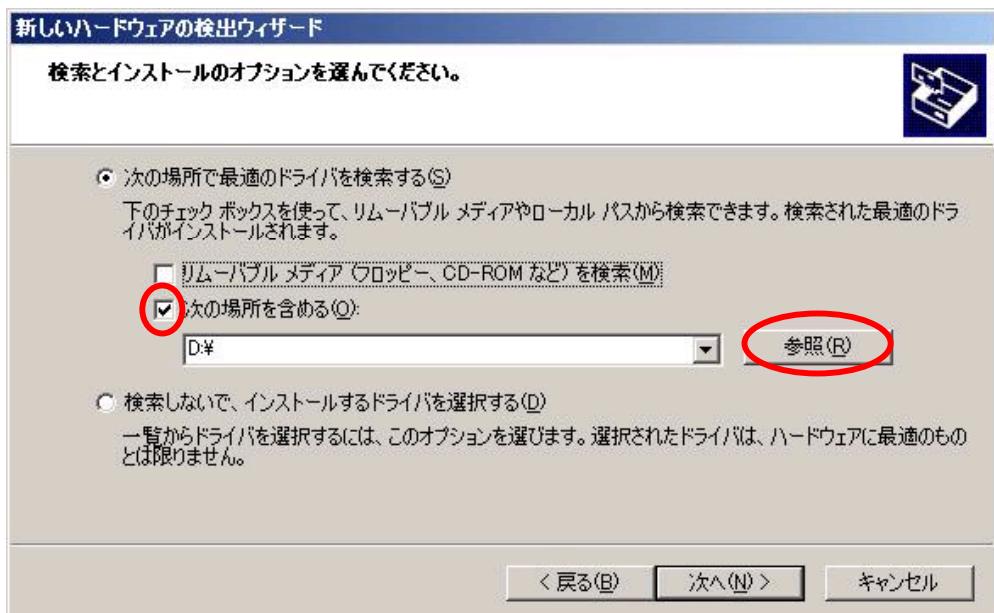
- リモートコンソールのツールバーの「FD 開始」のボタンをクリックすると以下の画面が表示されるので「次へ」をクリックします。



- 以下の画面が表示されるので「一覧または特定の場所からインストールする」にチェックを入れ、「①. BladeSymphony Remote KVM console setup CD」を挿入し、「次へ」をクリックしてください。



3. 以下の画面が表示されるので「次の場所を含める」にチェックを入れ、「参照」をクリックしてください。

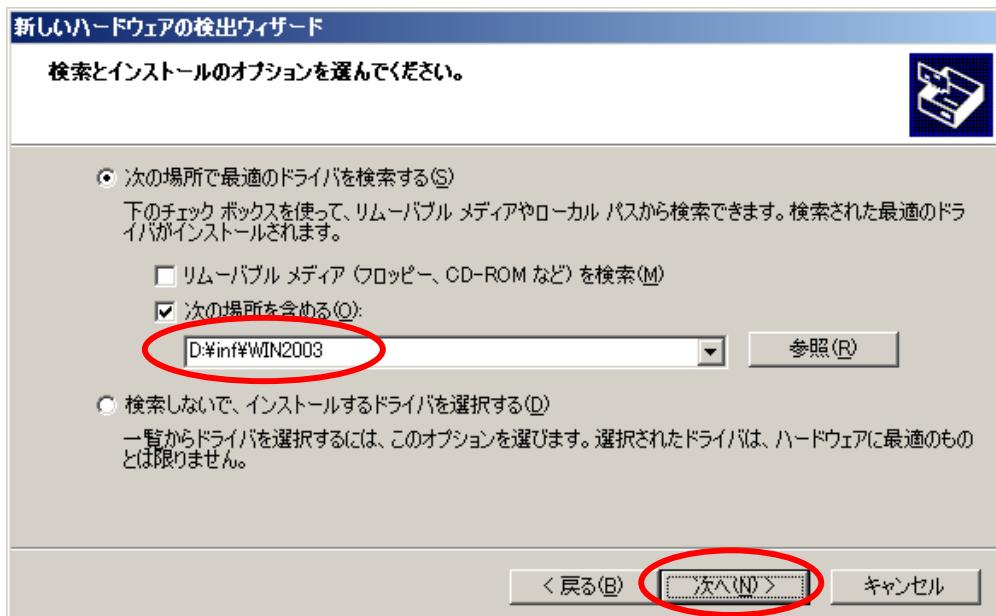


4. フォルダの参照が表示されるので CD ドライブを選択し、「inf」というフォルダを開き「WIN2003」を選択し「OK」をクリックします。（Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition、Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Editionをご使用の場合は「WIN2003x64」を選択してください。）

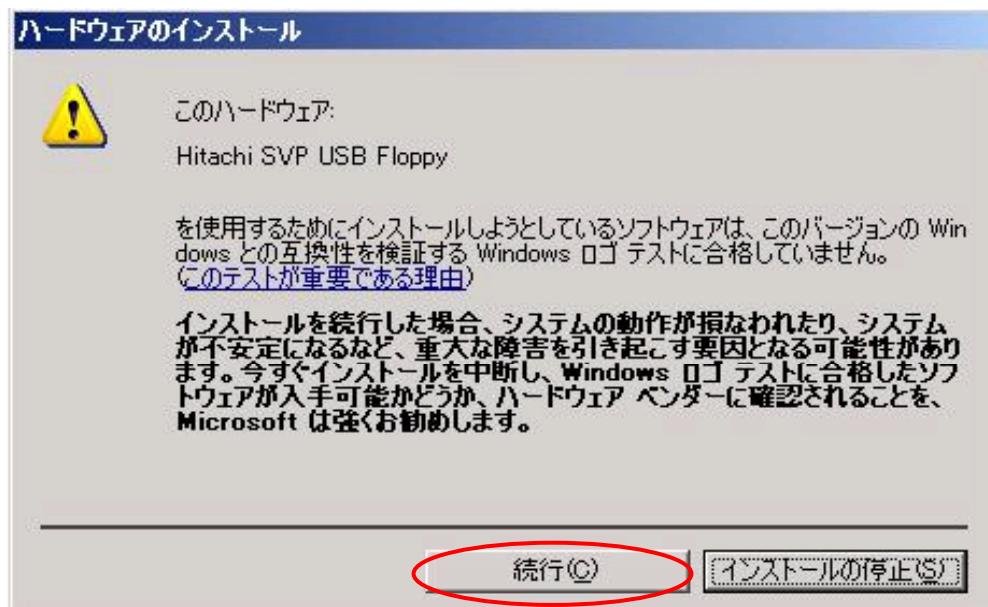
補足

使用するCDドライブは、サーバブレードに外付けCDドライブを装着して頂くか、リモートCD/DVD機能が使用可能です。

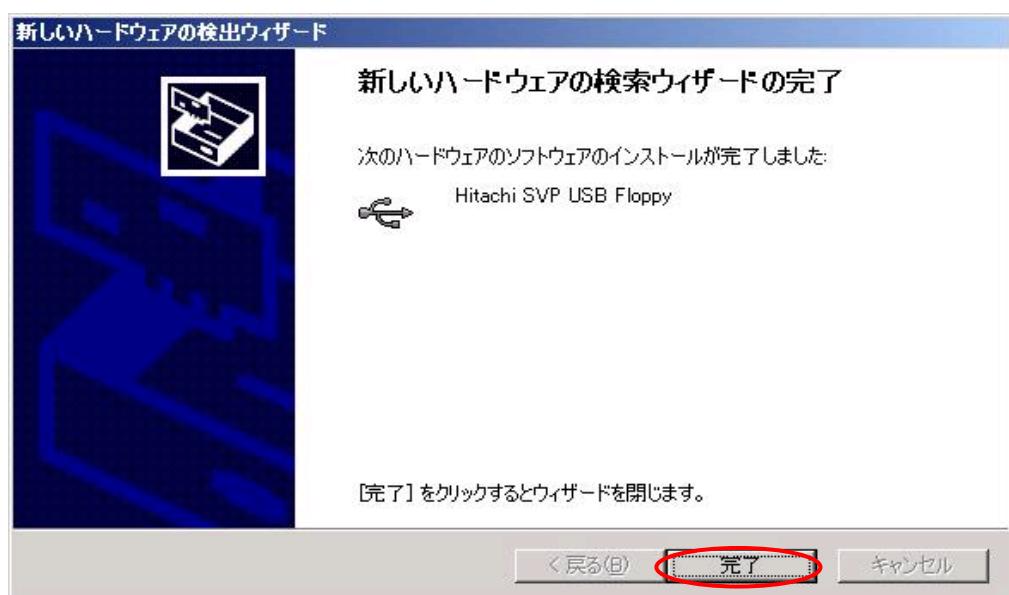
5. 以下の画面が表示されたら「次へ」をクリックしてください。「SVPFD.inf」のインストールが開始されます。ドライブ名は、使用しているシステムの構成により異なります。  
「BladeSymphony Remote KVM console setup CD」をセットしたドライブ名が表示されます。



6. インストール中に、以下の画面が表示された場合は「続行」をクリックし、インストールを続けてください。



7. しばらくするとインストールが終了するので「完了」をクリックしてください。

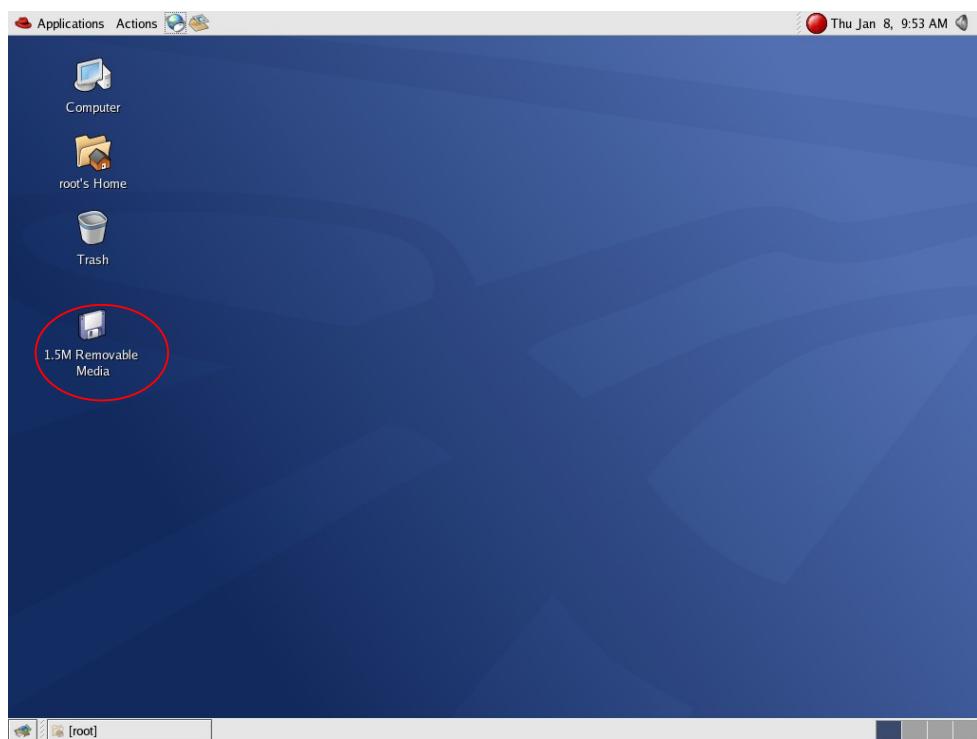


以上で「SVPFD.inf」のインストールは終了です。

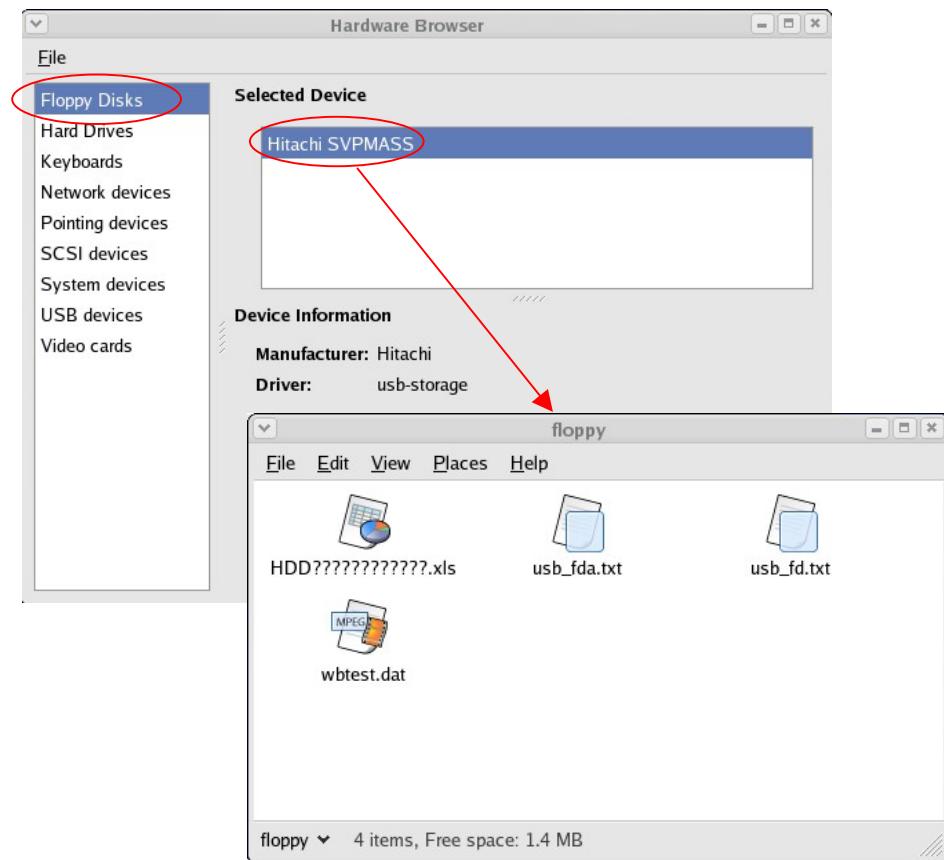
## LinuxでのリモートFDの使用方法について

Linux では、リモート FD の使用にあたり、専用のドライバは必要ありません。

1. リモートコンソールのツールバーの「FD 開始」をクリックします。「Img 選択」をクリックし、使用する FD イメージを選択してください。この結果、Linux の画面に “1.5M Removable Media” のアイコンが現れます。。



2. “1.5M Removable Media”をクリックし、“Floppy Disks” —“Hitachi SVPMASS”を選択してください。この結果、マウントされたファイルが参照できます。

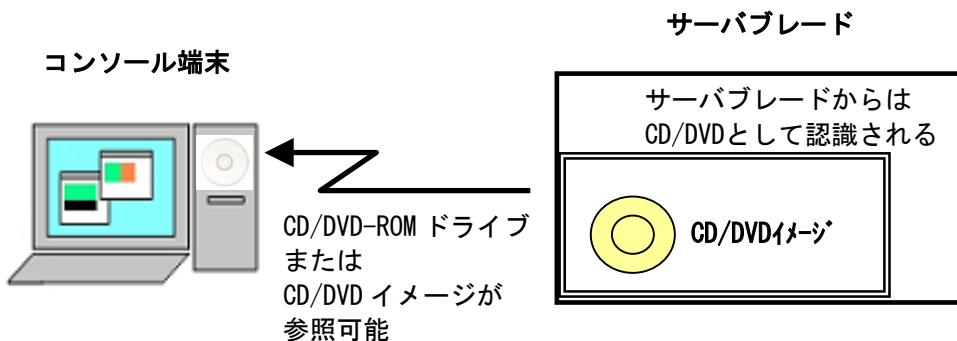


## 4.3 リモート CD/DVD の使用方法

リモート CD/DVD 機能とは、コンソール端末側に搭載または接続されている CD-ROM/DVD-ROM ドライブとサーバブレードを接続し参照する機能、またはサーバブレードからコンソール端末の CD/DVD イメージを参照する機能です。ここではリモート CD/DVD の使用方法を説明します。(Xeon DP Server Module A51A3 Model では、機能がサポートされません。)



1台のサーバブレードからは、1台のCD/DVD-ROM ドライブまたは1つのCD/DVD イメージしか接続することはできません。



リモートCD/DVDをご使用になる際は、レジストリの設定が必要になります。レジストリの設定後は、コンソール端末の再起動が必要です。

レジストリ設定の方法については、「2.2章 動作環境・制限事項」の「リモートCD/DVD使用時のコンソール端末側の設定について」を参照してください。

リモートCD/DVDを接続しサーバを起動したとき、サーバ側でリモートCD/DVDが認識されないことがあります。リモートCD/DVDを接続した状態で、サーバ側を再起動してください。

## コンソール端末のCD/DVD ドライブを使用する場合

- リモート CD/DVD 機能でコンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[CD/DVD 操作]ボタンをクリックします。



- [CD/DVD 操作]のプルダウンメニューが表示されますので、[CD/DVD 接続]を選択します。

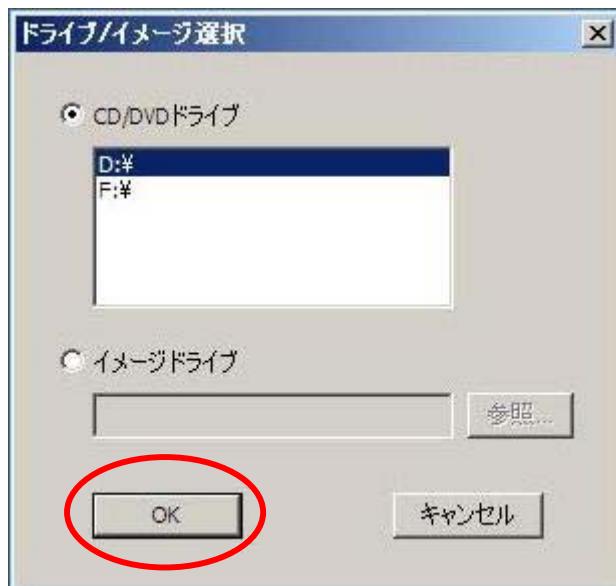


補足

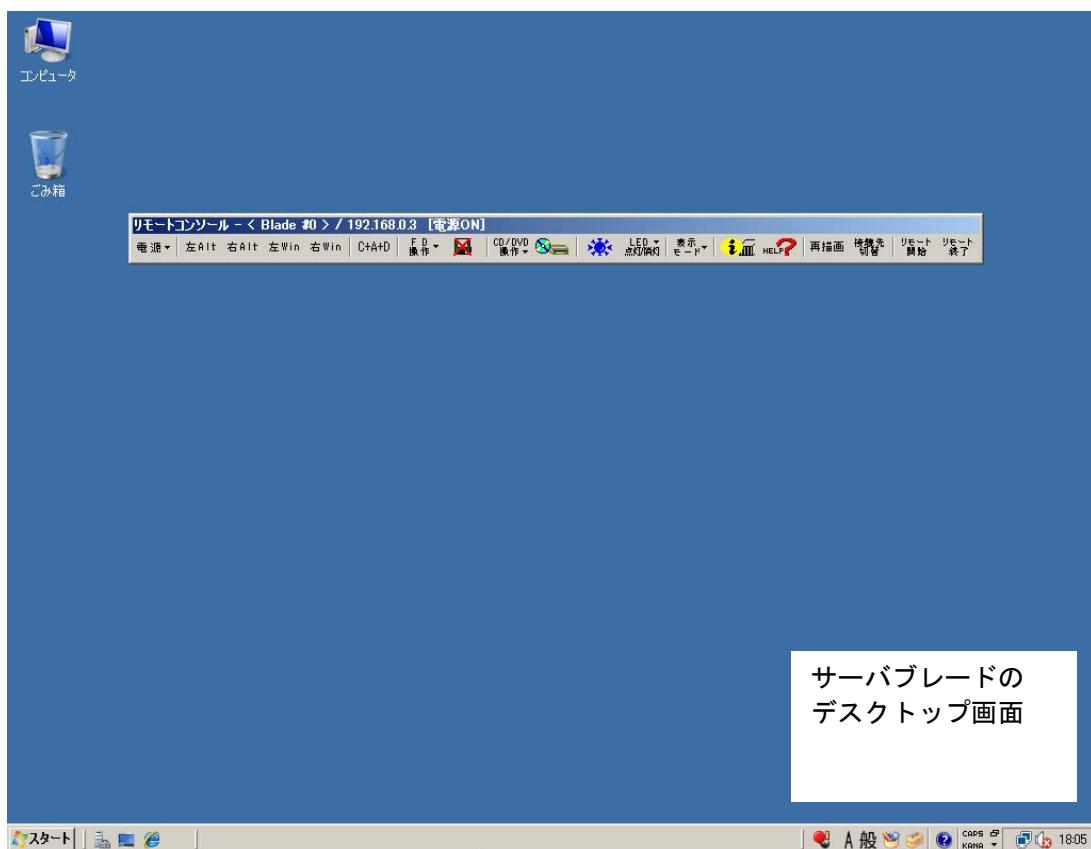
コンソール端末のCD-ROM/DVD-ROM ドライブからメディアを取り出しておいた状態でドライブ選択を行ってください。

CD-ROM/DVD-ROM ドライブは、「マイコンピュータ」に追加されます。

3. ドライブ/イメージ選択画面が表示されますので、「CD/DVD ドライブ」を選択し、コンソール端末で使用している CD/DVD ドライブを選択して[OK]ボタンをクリックしてください。



コンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブがリモート CD/DVD としてサーバブレードに接続されます。メディアをドライブに挿入して使用してください。



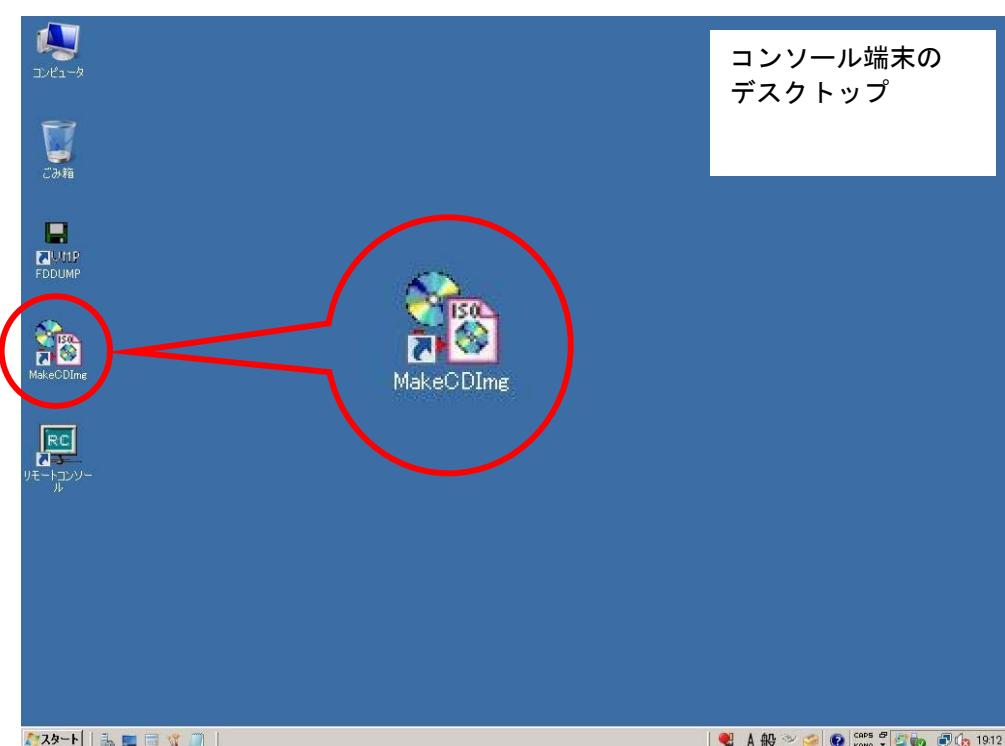
## CD/DVDイメージを使用する場合

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD イメージを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

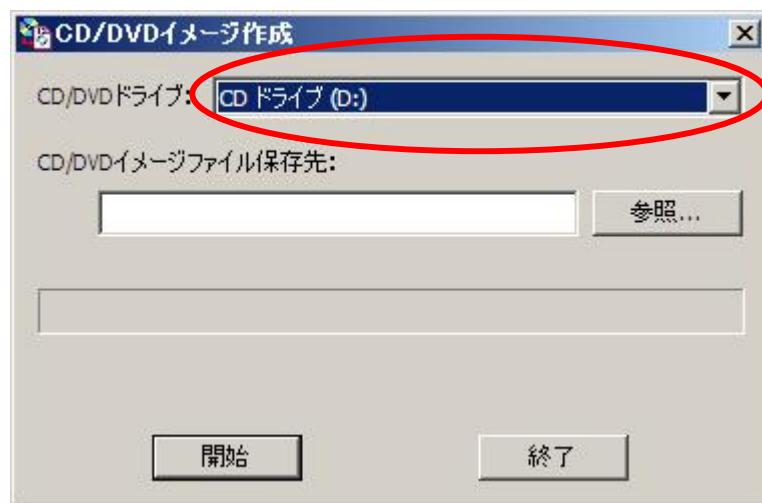
### CD/DVDのイメージ化

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD イメージを使用する為には、事前に CD/DVD の内容をイメージ化する必要があります。

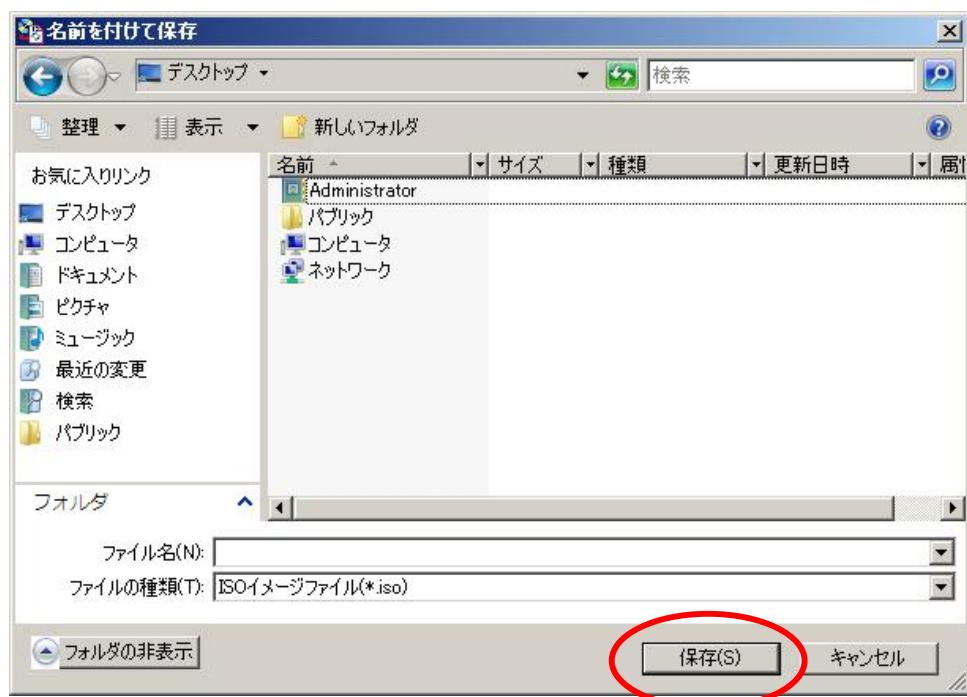
コンソール端末側のデスクトップで「MakeCDImg」のアイコンをダブルクリックします。  
「MakeCDImg」はリモートコンソールアプリケーションのインストール時に同時にインストールを行っています。



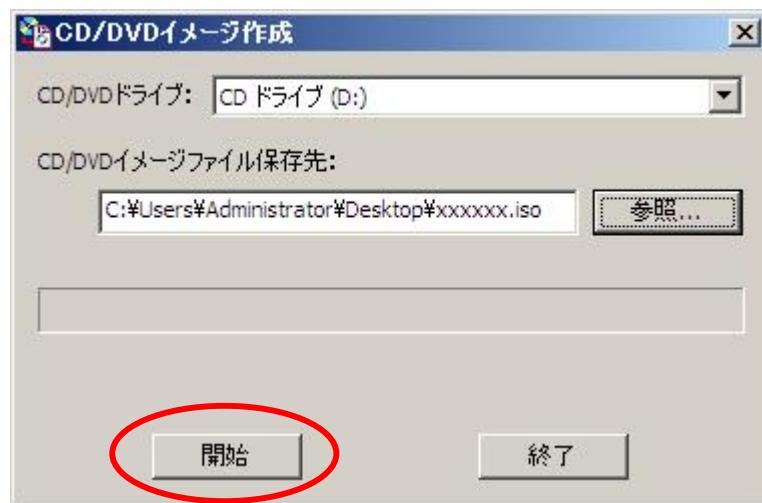
アイコンをクリックすると以下の画面が表示されます。イメージ化したい CD/DVD をコンソール端末に挿入し、CD/DVD を挿入したドライブを選択します。



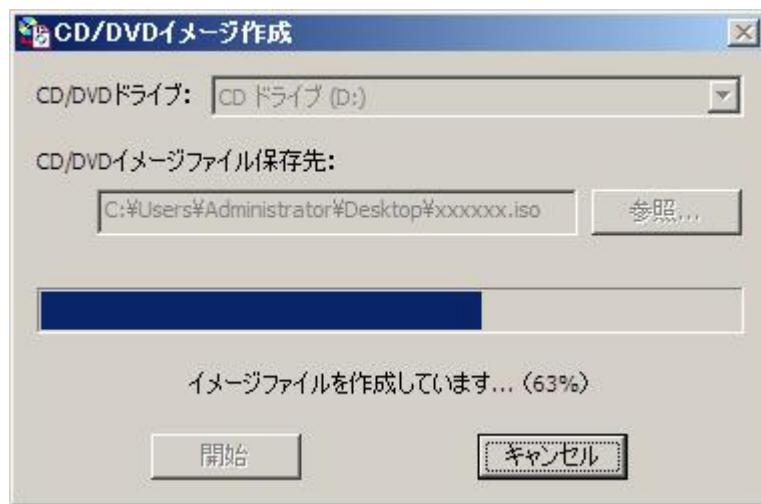
次に[参照]をクリックします。以下の画面が表示されるのでイメージ化されたファイルを保存する場所を選択し、ファイル名を入力します。ファイル名を入力した後、[保存]をクリックします。



保存する場所を決めたら[開始]をクリックします。[開始]をクリックするとメディアチェックを行った後に、CD/DVD のイメージ化が開始されます。



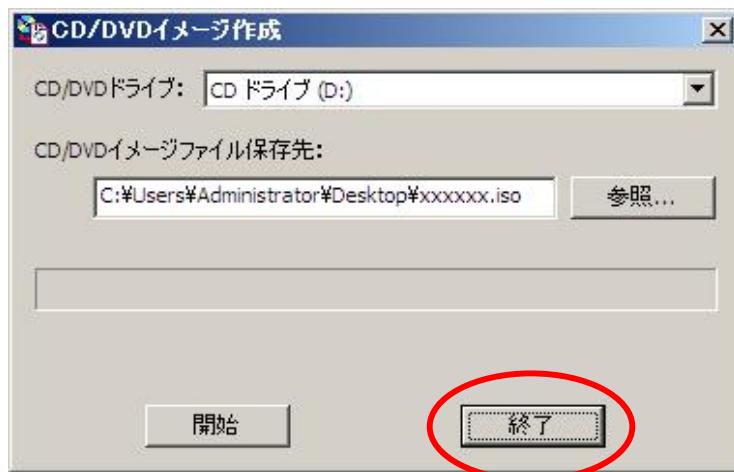
[開始]をクリックすると、以下の画面のように CD/DVD のイメージ化の進行状況が表示されます。



以下のメッセージが表示されると CD/DVD のイメージ化は終了です。メッセージの[OK]をクリックしてください。指定した保存先にイメージファイルが作成されています。



CD/DVD イメージ化が終了した後は、[終了]をクリックし MakeCDImg.exe を終了してください。



### イメージ化に使用するCD/DVDメディアについての注意事項

以下のケースに該当する場合、イメージファイルの作成に失敗する場合があります。

- (1) ISO9660 ファイルシステムでフォーマットしたメディアを使用していない場合
- (2) マルチセッションのデータ形式で書き込まれたメディアを使用した場合
- (3) 特殊なプロテクトがかかっているメディアを使用した場合
- (4) CD/DVD ドライブとの相性が良くないメディアを使用した場合
- (5) メディア作成時に利用したライティングソフトの書き込み方式でディスクアットワ  
ンス方式を使用していない場合

リモート CD/DVD 機能を使用する場合には、イメージファイルによるアクセスではなく、リモートコンソール端末接続のドライブから直接メディアを使用することにより、リモー  
ト CD/DVD 機能をご利用ください。

## CD/DVDイメージファイルについての注意事項

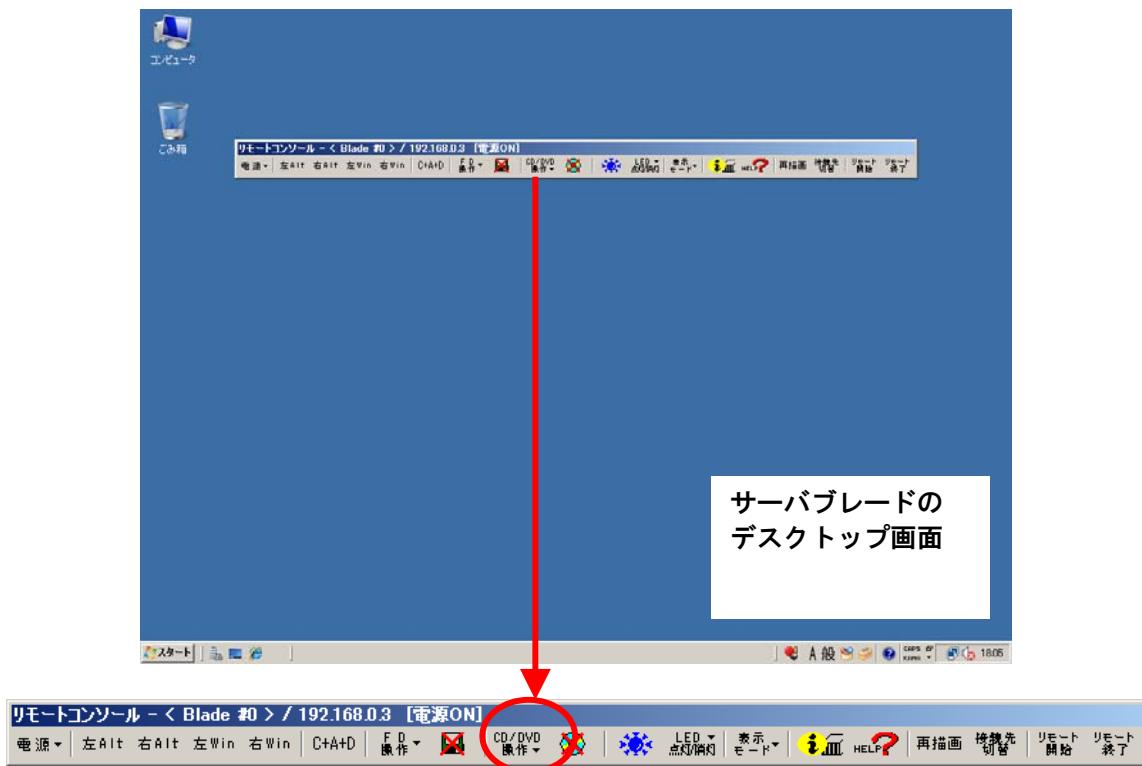
以下の点に注意して、CD/DVD イメージファイルを使用してください。

(1) OS インストールメディア等、ライセンス契約があるメディアのイメージファイルは、メディアのライセンス契約に準じます。ライセンス契約に違反しないよう注意して使用してください。

(2) MakeCDImg で作成したイメージファイルは、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD/DVD 機能でのみ使用することが可能です。他の目的で使用し問題が発生した場合、弊社は一切の責務および賠償責任を負いません。

CD/DVD イメージを使用する場合のリモートコンソールアプリケーションの操作方法は以下の通りです。

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させ[CD/DVD 操作]ボタンをクリックします。



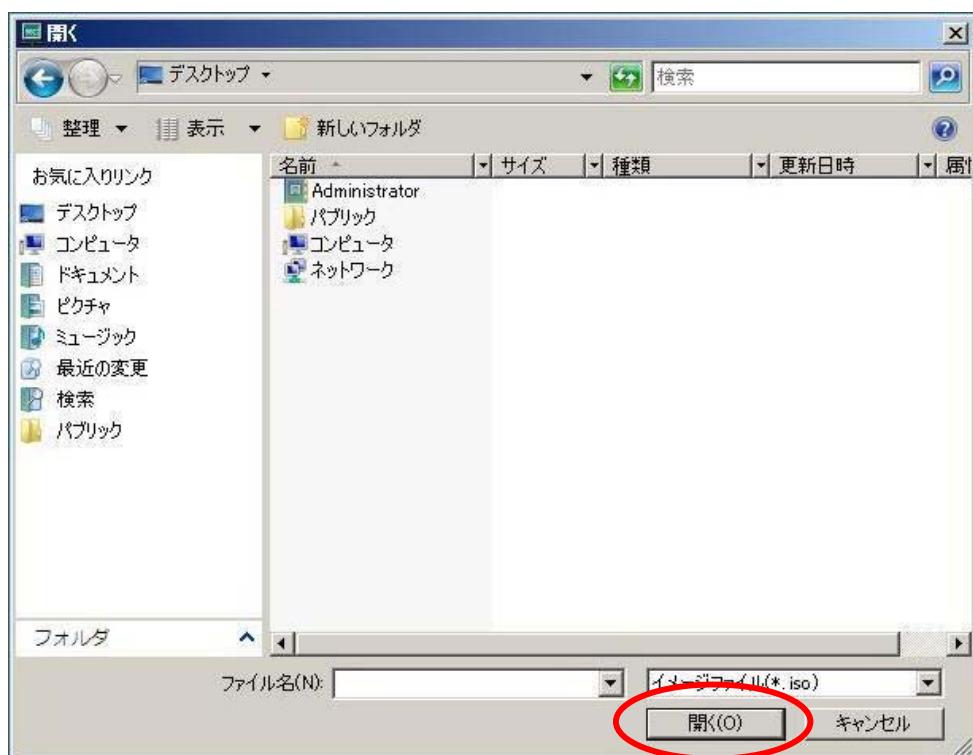
[CD/DVD 操作]のプルダウンメニューが表示されますので、[CD/DVD 接続]を選択します。



ドライブ/イメージ選択画面が表示されますので、「イメージドライブ」を選択し、[参照]をクリックしてください。

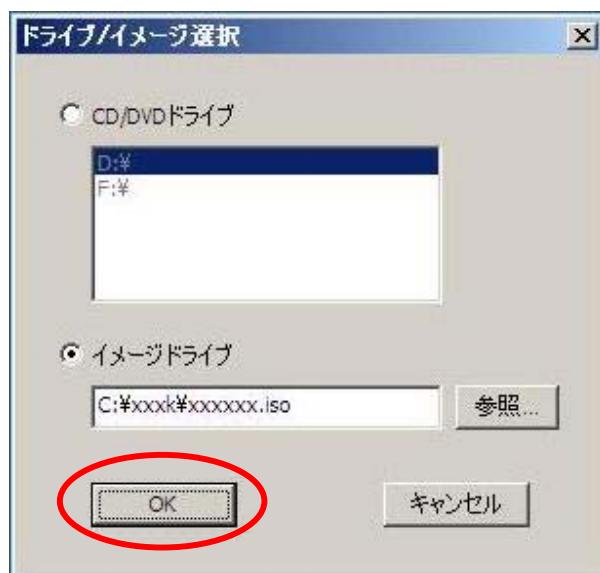


イメージ化したファイルを選択し[開く]をクリックしてください。

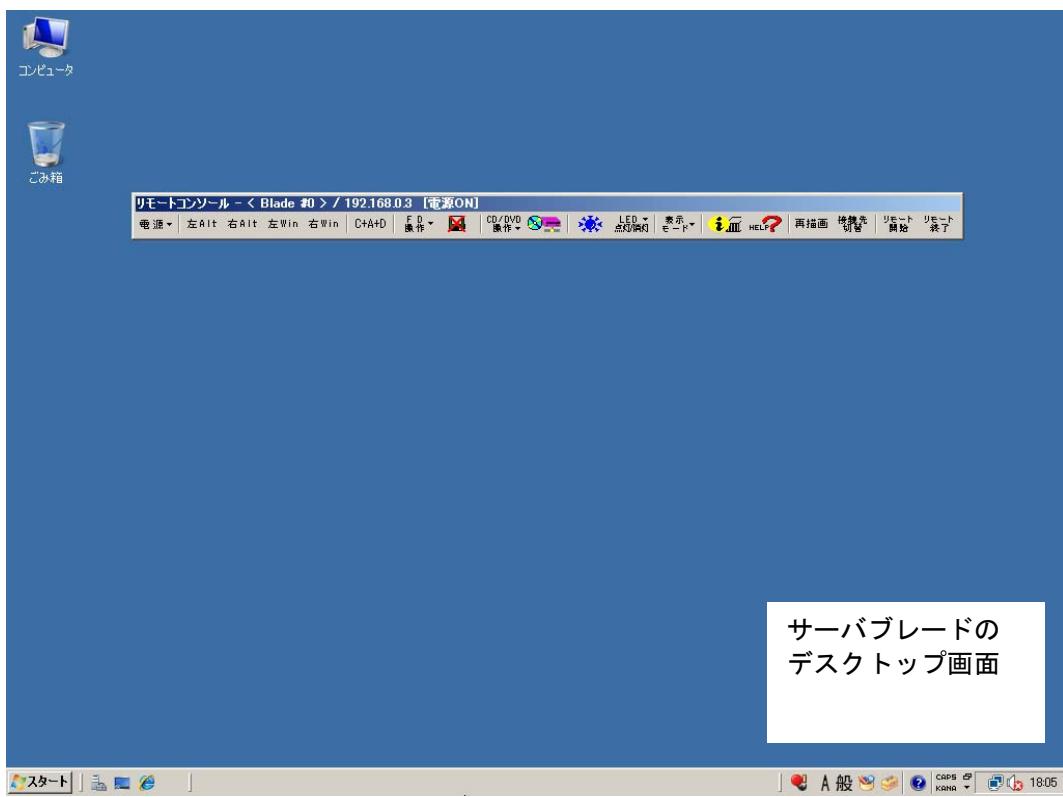


イメージファイルは「MakeCDImg」で作成したファイルを使用してください。他のプログラムで作成した iso イメージファイルを選択した場合、正しく動作しない可能性があります。

選択したイメージファイルの保存場所が表示されたら、[OK]をクリックします。  
尚、イメージファイルを選択せず、イメージドライブのみ接続することも可能です。



コンソール端末の CD/DVD イメージがリモート CD/DVD としてサーバブレードに接続されます。



## 4.4 サーバブレード識別ランプ操作方法

リモートコンソールを接続しているサーバブレードのランプを点灯することができます。ここではサーバブレードのランプの操作方法を説明します。

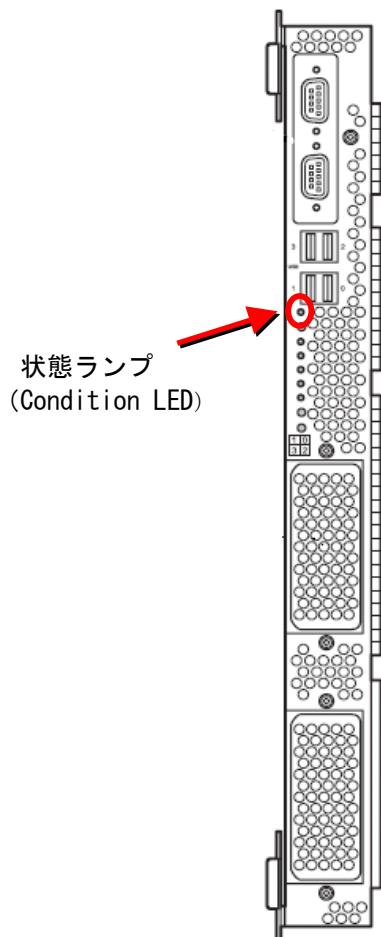
### サーバブレード識別ランプについて

リモートコンソールを接続しているサーバブレードを識別するために、接続しているサーバブレードの状態ランプ (Condition LED) を点灯することができます。

状態ランプ (Condition LED) の位置は以下の通りです。

BS1000 A51A3/A51A4 モデルサーバブレード前面図

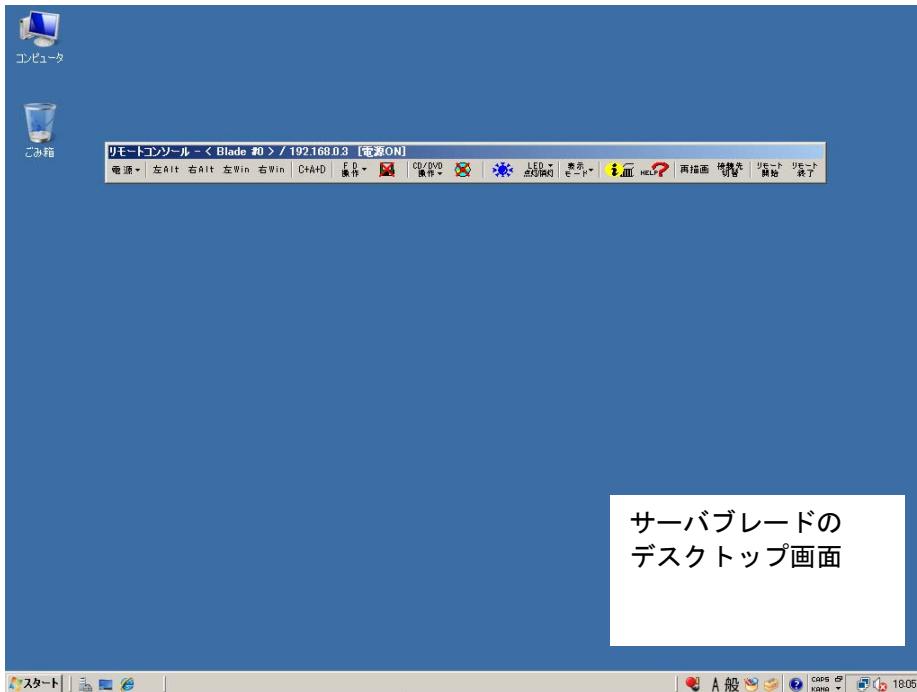
青色、若しくは緑色のランプが点灯します



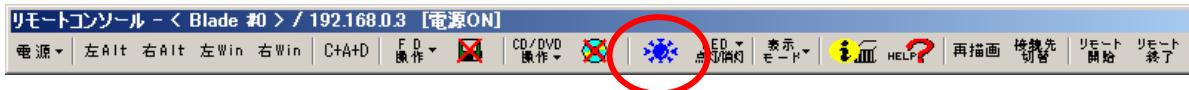
A51A3/A51A4 モデルは、使用にあたり制限があります。「A3/A4 モデルにおける使用制限について」を参照してください。

## サーバブレード識別ランプの操作方法

「[Alt]+[G]」キーを押しツールバーを表示させます。



### サーバブレード識別ランプの状態表示



サーバブレード識別ランプとして使用する状態ランプ（Condition LED）の現在の状態を表示します。ツールバーの表示と、サーバブレード識別ランプの状態は次の通りです。

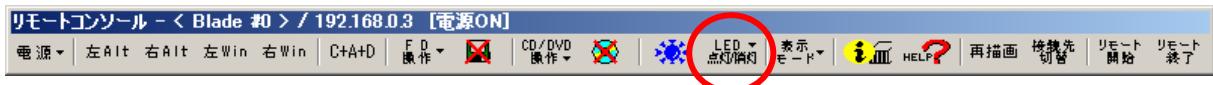
ツールバー表示	サーバブレード識別ランプの状態
	サーバブレード識別ランプは点灯しています。
	サーバブレード識別ランプは消灯しています。
	サーバブレード識別ランプは点滅しています。

サーバブレード識別ランプが点滅している時は Pre-Configure が実行されています。この間は、サーバブレード識別ランプの操作は出来ません。

Pre-Configure については「ユーザーズガイド」「10 章 システムの運用と管理」「Pre-Configure」を参照してください。

## サーバブレード識別ランプの操作

ツールバーを表示させ[LED 点灯/消灯]ボタンをクリックします。



[LED 点灯/消灯]のプルダウンメニューが表示されますので、操作を選択しクリックします。



操作方法は以下の通りです。

操作	サーバブレード識別ランプの動作
点灯	サーバブレード識別ランプを点灯します。
消灯	サーバブレード識別ランプを消灯します。



状態ランプ (Condition LED) は、リモートコンソールアプリケーション以外からも操作を行います。そのため、操作のタイミングによっては設定が反映されないこともあります。

## A51A3/A51A4 モデルにおける使用制限について

A51A3/A51A4 モデルでこの機能を使用するためには、以下の条件を満たす必要があります。

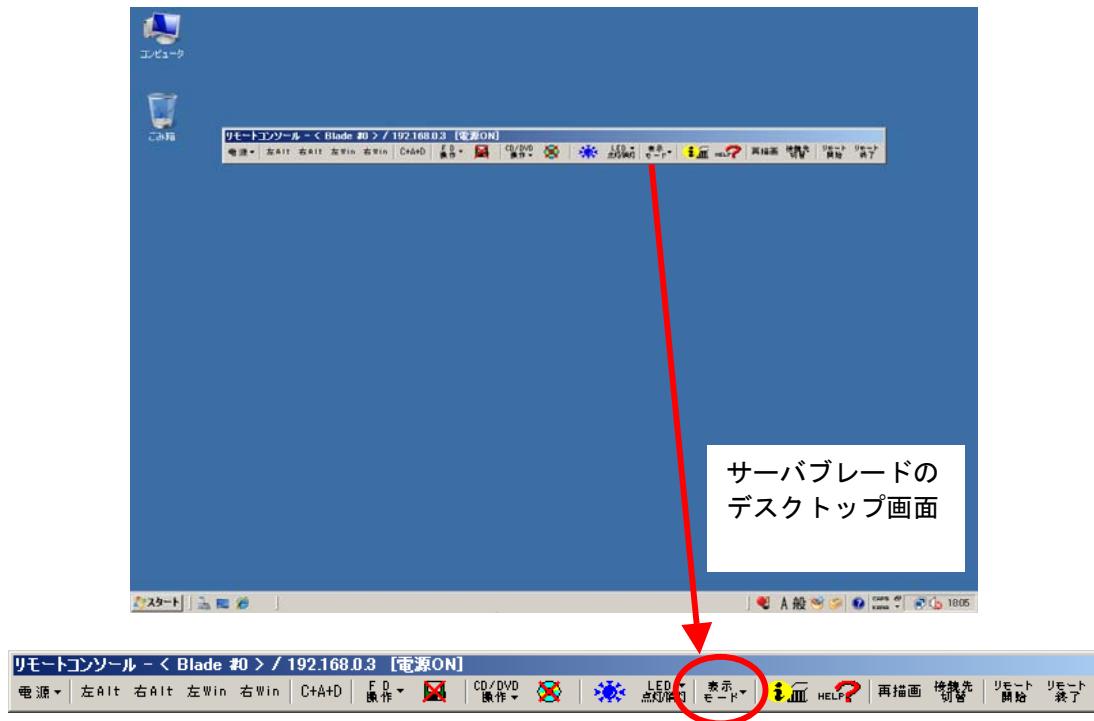
- ・リモートコンソールのファームウェアバージョン：02-14 以降

## 4.5 表示モードの使用方法

表示モード変更機能とは、コンソール端末側で表示しているサーバブレードの画面の表示モードを変更する機能です。ここでは表示モードの使用方法を説明します。ここでは表示モードの使用方法を説明します。(Xeon DP Server Module A51A3 Modelでは、機能がサポートされません。)

### 表示モードの使用方法

- リモートコンソールのツールバーの「表示モード」をクリックします。



- 「表示モード」選択のプルダウンメニューが表示されますので、設定する表示モードをクリックします。



- 設定可能な表示モードは、以下の通りです。

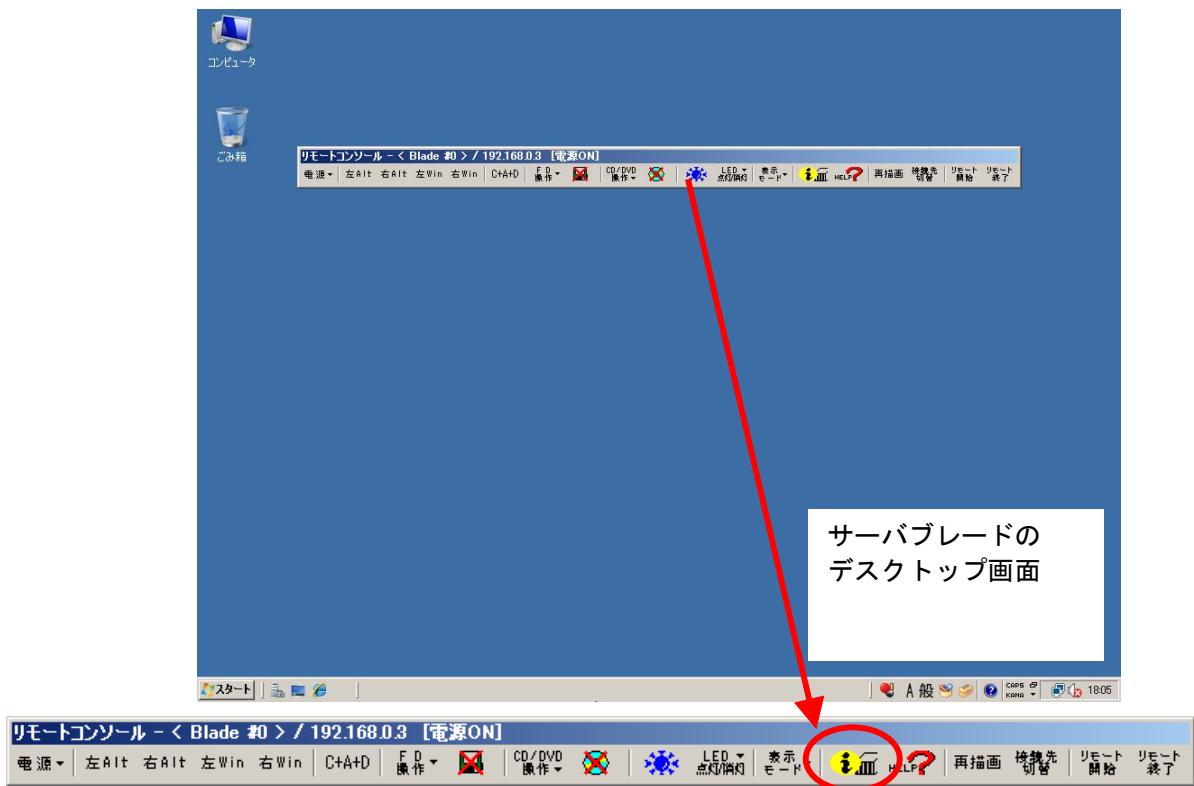
表示モード	画面の色
フルカラー	フルカラー
減色	4096 色 (RGB 各 4bit)
グレイスケール	256 階調

## 4.6 サーバブレード情報表示方法

リモートコンソールで接続しているサーバブレードの装置情報と、リモートコンソールでサポートしている機能の情報を表示することができます。

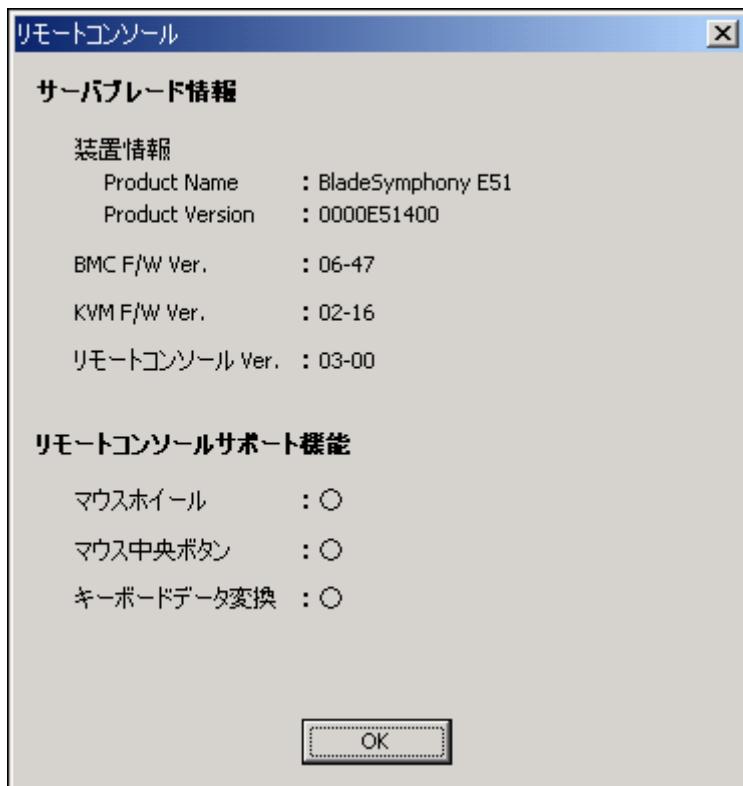
### サーバブレード情報の表示方法

「[Alt] + [G]」キーを押しツールバーを表示させ[サーバ情報]ボタンをクリックします。



[サーバ情報]ボタンをクリックすると、サーバブレード情報ダイアログを表示し、サーバブレード情報の収集を行います。サーバブレード情報の収集は時間がかかる場合があります。サーバブレード情報の表示をキャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

サーバブレード情報の収集が終わると、サーバブレードの装置情報、リモートコンソールの機能情報が表示されます。



リモートコンソールのファームウェア (KVM F/W) が本機能に対応していない場合、サーバブレード情報の一部は表示されません。

サーバブレード情報ダイアログは、リモートコンソールのサポート機能も表示されます。それぞれの機能について、サポートされている場合は「○」、未サポートの場合「×」が表示されます。

項目	機能
マウスホイール	マウスのホイール機能を使用することができます。
マウス中央ボタン	マウスの中央ボタン機能を使用することができます。
キーボードデータ変換	キーボードデータを変換してサーバへ送信します。

# 5

## 詳細設定方法

この章では、リモートコンソールアプリケーションの設定を変更する方法について説明します。

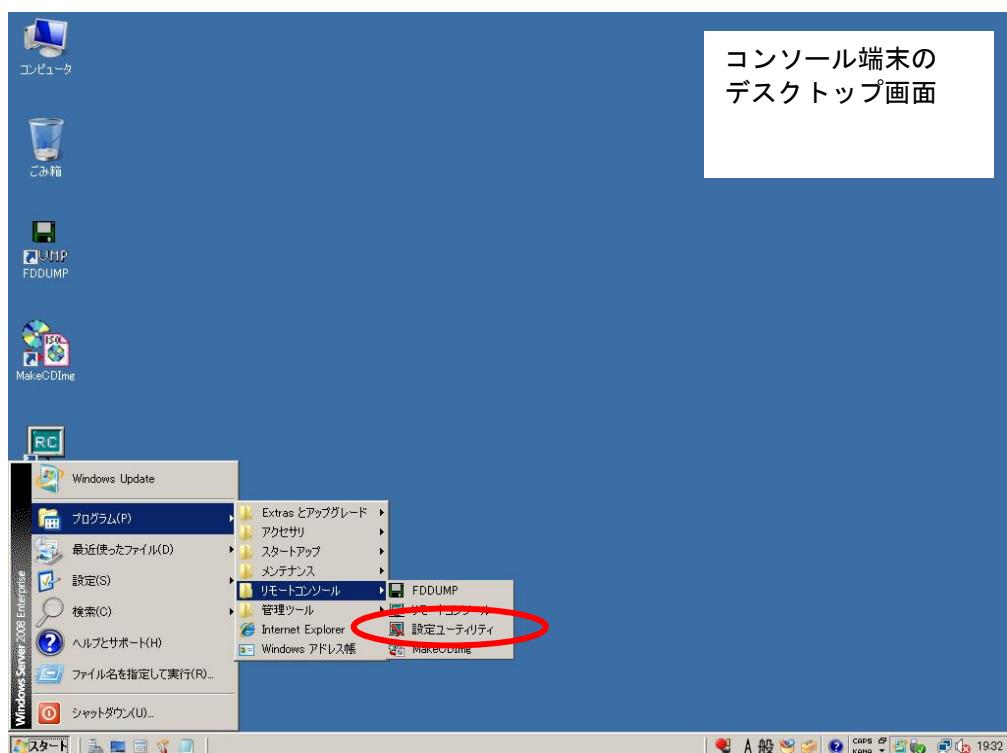
### 5.1 設定ユーティリティ起動方法

リモートコンソールアプリケーションの設定を変更することが可能です。設定変更出来る機能は以下の通りです。

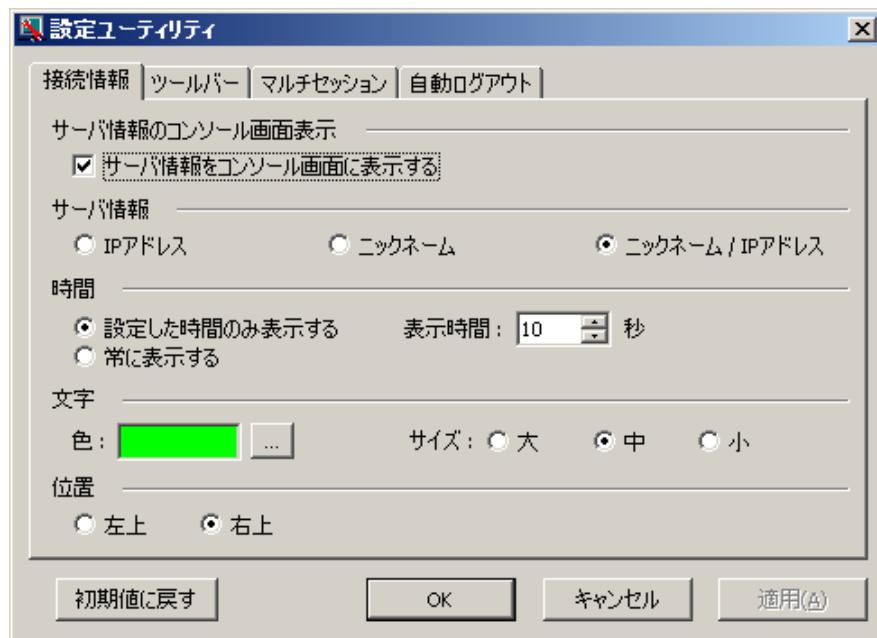
- ・接続先サーバ情報（ニックネーム、IP アドレス）をコンソール画面に表示する機能
- ・表示するサーバ情報の文字（サイズ、色、位置、表示時間）の設定
- ・サーバ接続直後のキーボード、マウス操作を可能にする機能
- ・マルチセッションできるサーバ数を制限する機能
- ・キーボード、マウス操作が一定時間以上なかった時、自動的にログアウトする機能

#### 設定ユーティリティ起動方法

リモートコンソールアプリケーションの設定は、設定ユーティリティで変更できます。  
[スタート]—[すべてのプログラム]—[リモートコンソール]から、「設定ユーティリティ」を起動してください。



「設定ユーティリティ」を起動すると下記画面が表示されます。



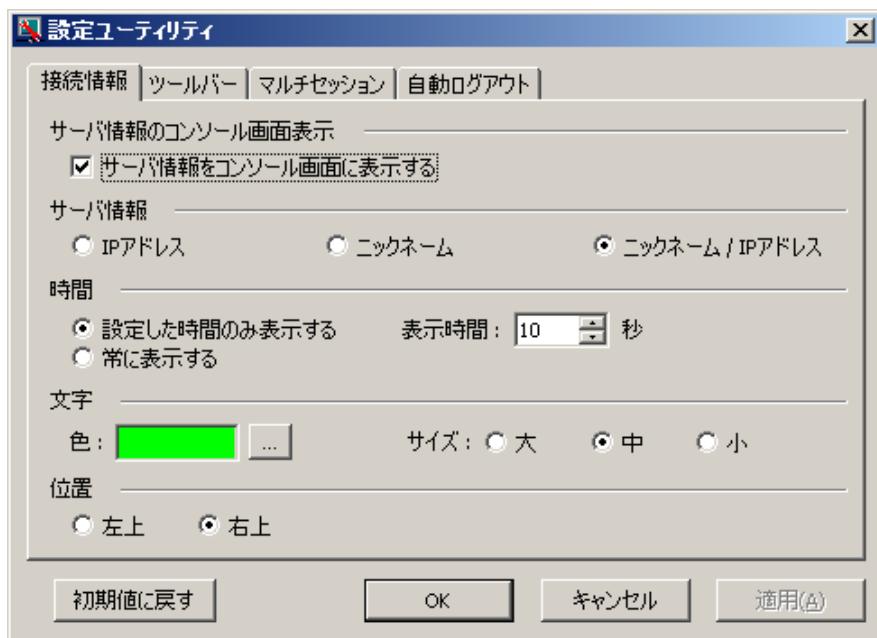
各項目を設定して、[OK]ボタンまたは[適用]ボタンをクリックすると設定が有効になります。設定変更を反映させたくない場合は[キャンセル]ボタンをクリックして、設定ユーティリティを終了させてください。

[初期値に戻す]ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。確認メッセージの[OK]ボタンをクリックし、[適用]または[OK]ボタンをクリックするとすべての設定値が初期値に戻ります。各項目の初期設定については「5.6章 初期値一覧」をご参照ください。

## 5.2 サーバ情報表示

接続先のサーバ情報（ニックネーム、IP アドレス）をコンソール画面に表示させる機能について詳細に設定できます。

「設定ユーティリティ」を起動し、「接続情報」タブをクリックしてください。



それぞれの設定項目について説明します。

### サーバ情報のコンソール画面表示

コンソール画面に、接続先サーバ情報（ニックネーム、IP アドレス）を表示するかどうかを設定します。

設定	機能
チェックあり	サーバ情報をコンソール画面に表示します。
チェックなし	サーバ情報をコンソール画面に表示しません。

「チェックあり」の場合、以下の設定が可能になります。

## サーバ情報

コンソール画面に表示するサーバ情報を設定します。以下の3つより選択してください。

設定	機能
[IP アドレス]	コンソール画面に IP アドレスのみ表示します。 ニックネームを入力しても画面に表示されません。
[ニックネーム]	コンソール画面にニックネームのみ表示します。 IP アドレスは表示されません。
[ニックネーム/IP アドレス]	コンソール画面にニックネームと IP アドレスの両方を表示します。

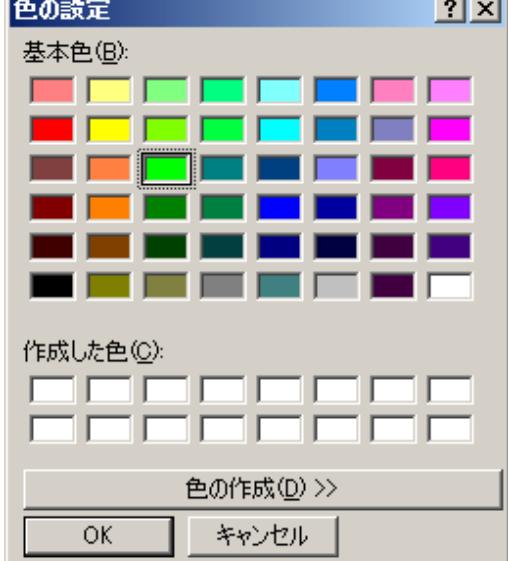
## 時間

コンソール画面に、サーバ情報を表示する時間を設定します。

設定	機能
[設定した時間のみ表示]	サーバに接続してから設定した時間だけ、サーバ情報をコンソール画面に表示します。
表示時間	表示時間は1~300秒まで設定できます。
[常に表示する]	サーバ情報をコンソール画面に常に表示します。 設定時間を経過してもサーバ情報は消えません。

## 文字

コンソール画面に表示するサーバ情報の文字の色、大きさを設定します。

設定	機能
色	コンソール画面に表示する文字の色を設定します。  ボタン ... 文字の色を変更したい場合はダイアログより選択してください。  
サイズ	[大] [中] [小] コンソール画面に表示する文字の大きさを設定します。[大]、[中]、[小]の3つより選択してください。

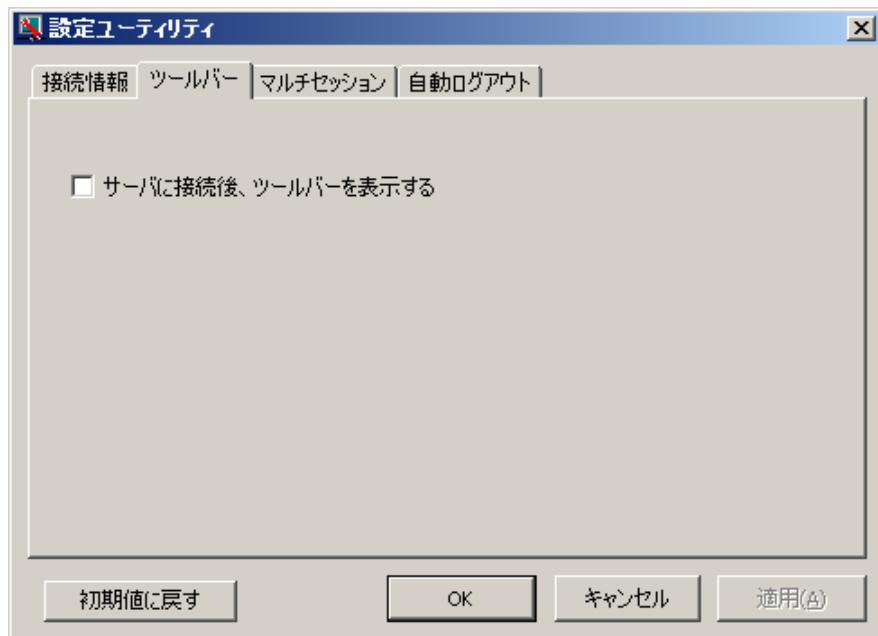
## 位置

コンソール画面に表示する文字の位置を設定します。

設定	機能
[左上]	コンソール画面の左上にサーバ接続情報の文字を表示します。
[右上]	コンソール画面の右上にサーバ接続情報の文字を表示します。

## 5.3 ツールバー

サーバに接続した直後のキーボード、マウス操作について設定します。



「設定ユーティリティ」を起動し、「ツールバー」タブをクリックしてください。

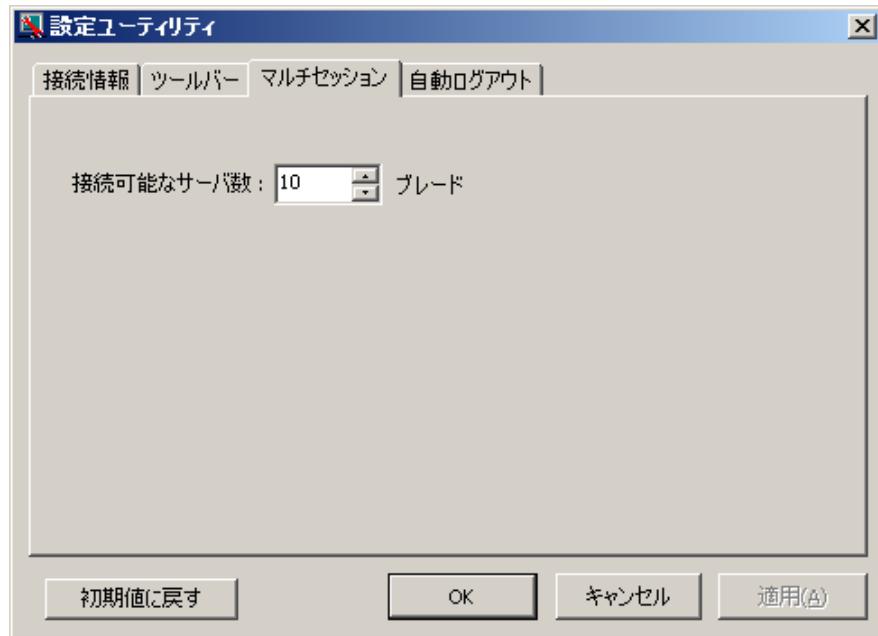
サーバに接続した時に、ツールバーを表示させるかどうかを設定します。  
ツールバーが表示されている間は、キーボード、マウス操作ができません。

設定	機能
チェックなし	サーバに接続後、ツールバーを表示しません。 接続直後からキーボード、マウス操作が可能となります。
チェックあり	サーバに接続後、ツールバーを表示します。 接続直後はキーボード、マウス操作ができません。

## 5.4 セッション数制限

マルチセッション可能なサーバの数を制限します。

「設定ユーティリティ」を起動し、「マルチセッション」タブをクリックしてください。

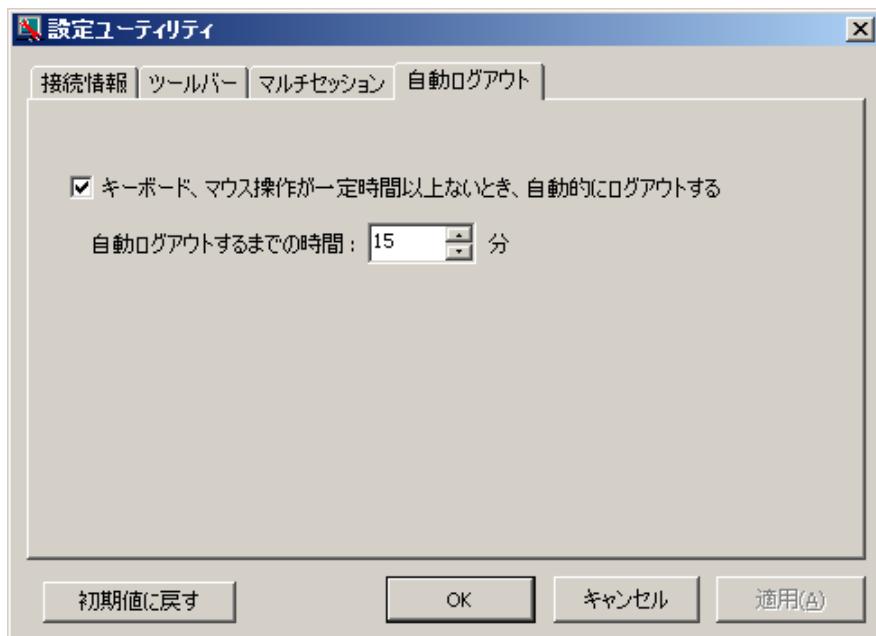


接続可能なサーバ数は「1~99」ブレードとなっています。

なお、数多くのブレードに接続した場合、画面表示の乱れやリモート操作が遅くなる可能性がありますので、「10 ブレード」以下の設定を推奨します。

## 5.5 ログアウト時間

接続したサーバでキーボード、マウスの操作が一定時間以上なかった場合、自動的にログアウトする機能について設定します。



「設定ユーティリティ」を起動し、「自動ログアウト」タブをクリックしてください。

設定	機能
チェックあり	キーボード、マウス操作が設定した時間以上なかった場合 自動的にログアウトします。
自動ログアウト するまでの時間	1~300分までの設定が可能です。
チェックなし	キーボード、マウス操作がない場合でも、自動的にログア ウトしません。

ただしリモート FD、リモート CD/DVD を使用している場合は、設定時間以上キーボード、マウス操作がなくても自動ログアウトしません。

## 5.6 初期値一覧

「設定ユーティリティ」の初期設定は以下の通りです。

「接続情報」タブ

項目番	設定項目	初期値	
1	サーバ情報を コンソール画面に表示	サーバ情報をコンソール画面に 表示する	チェックあり
2	サーバ情報		ニックネーム/IP アドレス
3	時間	設定時間のみ表示	チェックあり
		表示時間	10 秒
4	文字	色	黄緑 
		サイズ	中
5	位置		右上

「ツールバー」タブ

項目番	設定項目	初期値
1	サーバに接続後、ツールバーを表示する。	チェックなし

「マルチセッション」タブ

項目番	設定項目	初期値
1	接続可能なサーバ数	10 ブレード

「自動ログアウト」タブ

項目番	設定項目	初期値
1	キーボード、マウス操作が一定時間以上ないとき、 自動的にログアウトする	チェックあり

自動ログアウトするまでの時間

15 分

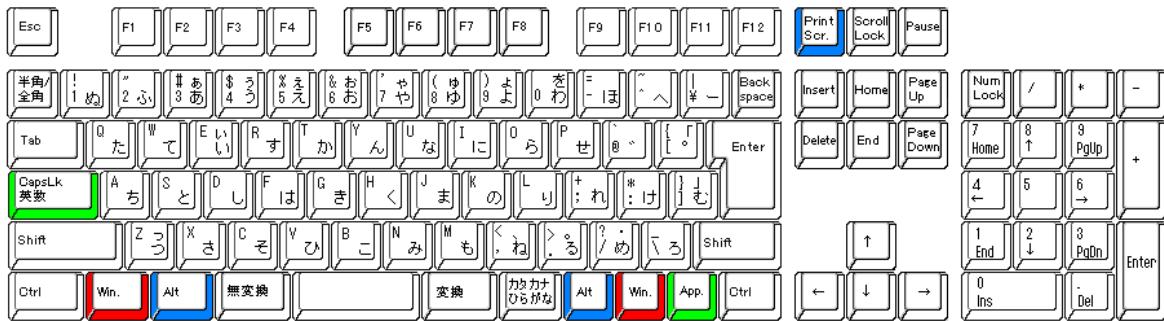
# 6

## 注意事項

この章では、リモートコンソール機能を使用するにあたり、注意すべき内容について説明します。

### 6.1 キーボード入力制限に関して

リモートコンソール機能は、コンソール端末からのキーボード入力をそのままサーバブレードへ伝送する機能があります。但し、いくつかのキーに対して制限事項があります。リモートコンソール機能を運用するにあたり、制限キーを使用する場合はご注意下さい。下図に109キーボードに対する制限キーを示します。



・・・サーバブレード側に作用せず、コンソール端末側に作用するキー



・・・サーバブレード側で、本来のキーとして作用しないキー



・・・使用禁止キー

各制限キーの制限事項内容、及び代替入力方法について下記に記します。

制限キー	制限事項	代替入力方法・対策
CapsLock キー	コンソール端末から CapsLock キー単独での使用はできません。Shift キー+CapsLock キーの時のみ有効に動作します。	IME ツールバーを直接マウスにて変更して代行して下さい。
左 Alt キー 右 Alt キー	コンソール端末から左右どちらかの Alt キーを使用すると、コンソール端末側にのみ Alt キーの動作影響を与えます。サーバブレード側へ Alt キー動作は伝わりません。  両 Alt キーはリモートコンソール機能のショートカットキーとして使用します。 <a href="#">(P103)</a> 参照。	リモートコンソールアプリケーションのツールバーの「右 A」、「左 A」をクリックしてください。 <a href="#">(P55)</a> 参照。  または「右 A」(Alt + M キー)、「左 A」(Alt + Z キー) のショートカットキーを押してください。
PrintScreen キー	コンソール端末から PrintScreen キーを使用すると、コンソール端末側とサーバブレード側の画面キャプチャーとして動作します。	コンソール端末側で取得されたキャプチャデータを使用の際は一度リモートコンソールを終了して使用してください。
左 Windows キー 右 Windows キー	両キーとも使用できません。  コンソール端末から左右 Windows キーどちらかを使用すると、コンソール端末側は Windows キーを押した時のスタートメニューが開き、サーバブレード側は Windows キーが押されたままの状態になります。  誤って使用した場合、サーバブレード側で Windows キーが押された状態になる為、下記「キー入力の誤動作状態からの復旧方法について」を実施して下さい。	リモートコンソールアプリケーションのツールバーの「右 W」、「左 W」ボタンをクリックしてください。 <a href="#">(P56)</a> 参照。  または「右 W」(Alt + N キー)、「左 W」(Alt + X キー) のショートカットキーを押してください。
App. キー	コンソール端末から使用するとサーバブレード側に動作が伝わりません。	マウスの右ボタンをクリックしてください。

...  
補足

PrintScreen キーを押した場合は、コンソール端末側とサーバブレード側でそれぞれの画面が同時にキャプチャされます。

### **複数キー押し時の動作制限について**

左右 Shift キー・左右 Ctrl キー・左右 Alt キーを除いた、複数キーの同時入力は行えません。

### **キー入力の不正状態からの復旧方法について**

リモートコンソールアプリケーションを一度終了した後、リモートコンソールアプリケーションを再起動させ復旧して下さい。

### **ALTキーと半角/全角(漢字)キーの同時入力について**

ALT キーと共に半角/全角(漢字)キーを同時に押すと（以下、ALT+半角/全角キー）、その後、文字のキー入力ができなくなります。（この時、矢印キーによるカーソルの移動はできます）文字の入力ができなくなってしまった場合、再度「ALT+半角/全角キー」を入力していくだけか、あるいはリモートコンソールアプリケーションを一度終了した後リモートコンソールアプリケーションを再起動させ復旧して下さい。

### **Windowsキー、ALTキーとの同時入力について**

Windows キーまたは ALT キーと共に他のキーをほぼ同時に押すと、まれにキーが押されたままの状態となる場合があります。キーが押されたままの状態になった場合、ESC キーを押すなどして状態を復旧して下さい。

## ショートカットキー

コンソール端末の利便性を上げる為、以下のショートカットキーを設けます。ショートカットキーは全て Alt キーとの組み合わせになります。

キー入力	内容
Alt キー + Z キー	左 ALT キーが押された状態になります。もう一度選択すると離した状態になります。
Alt キー + M キー	右 ALT キーが押された状態になります。もう一度選択すると離した状態になります。
Alt キー + X キー	左 Windows キーが押された状態になります。もう一度選択すると離した状態になります。
Alt キー + N キー	右 Windows キーが押された状態になります。もう一度選択すると離した状態になります。
Alt キー + L キー	左 C T R L + 左 ALT + DEL キーが 1 回押された状態にします。
Alt キー + T キー	リモート FD を実行します。
Alt キー + C キー	リモート FD を切断し、FD イメージファイルを消去します。
Alt キー + U キー	リモート CD を接続します。リモート CD のドライブ/イメージ選択画面を表示します。
Alt キー + B キー	リモート CD を切断します。
Alt キー + S キー	サーバブレード識別ランプの点灯/消灯の切替を行います。 サーバブレード識別ランプの点滅中は操作できません。
Alt キー + D キー	ログイン画面を表示します。もう一度選択するとキャンセルされます。
Alt キー + G キー	ローカルモード/リモートモードの切り替え(ツールバーの表示、非表示)
Alt キー + E キー	リモートコンソールアプリケーションを終了します。

## 6.2 “SVPMASS”について

Windows OS を起動させたサーバブレードに初めてリモート FD 機能を使用した場合、サーバブレード上でリモート FD 機能が新規デバイスとして認識され “SVPMASS” デバイスへのドライバインストールを要求されます。P.57 の「「SVPFD.inf」のインストール」を参照し、inf ファイルのインストールを実施してください。

…  
補足

inf ファイルのインストールを行わなくともリモート FD の機能は制限されません。

## 6.3 “不明なデバイス”について

Windows OS を起動させたサーバブレードに初めてリモートコンソール機能を使用した場合、リモート CD/DVD 機能がサーバブレード上の新規デバイスとして認識され “不明なデバイス” として表示されます。この表示は、リモートコンソールアプリケーションの「CD-ROM を接続」ボタンを押し、コンソール端末に接続された CD-ROM/DVD-ROM がサーバブレード上の Windows OS から認識されることによって解決されます。いったん認識されたリモート CD/DVD 機能が再び “不明なデバイス” になることはありません。

## 6.4 メッセージについて

リモートコンソールの状態と、各状態でのリモートコンソールの処理は以下の通りです。

項目番	状態	リモートコンソールの処理
1	画像信号なし	黒い画面に「画像信号がきていません。」というメッセージを表示します。画像信号が回復した時、メッセージは自動で消えます。
2	ネットワーク切断	現状の画面を表示したまま「サーバとの通信が切断されました。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとアプリケーションを終了します。
3	ユーザ ID 不正 またはパスワード不正	「ユーザ ID またはパスワードが違います。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。
4	コンソール端末不正 (許可されていないコンソール端末での接続)	「設定されたクライアントではありません。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。
5	二重接続 (同一サーバブレードへの二重接続)	「既にリモートコンソールが実行中のサーバです。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。
6	ネットワーク接続不正 または IP アドレス不正	「サーバに接続できません。IP アドレス、ポート番号を確認してください。」というメッセージを表示します。[OK]ボタンを押下するとログイン画面を表示します。

# 7

## Q&A

この章では、簡単なトラブルが発生した場合の対処方法を説明します。

No	問題点	対処方法
Q1	ユーザ登録が行えない。	User ID、Password の設定は 6 文字以上、16 文字以下である必要があります。
Q2	サーバブレードにログンできない。	LAN ケーブルの接続を確認してください。 サーバブレードに設定されている User ID、 Password を確認してください。 ネットワークの設定 (IP アドレス、サブネットマスク等) を確認してください。
Q3	リモートコンソール機能使用したときのマウス動作画面描写が遅い。	リモートコンソール機能使用時のマウス動作、描写速度は通常のサーバ画面での動作より遅くなりま す。また、極端に遅い場合や画面が乱れる場合はリフレッシュレートを確認ください。 (P22 参照)
Q4	リモートコンソール機能から、キーボードまたはマウスの操作が行えない。	ツールバーの両 Alt キー、両 Win キーが押された状態になっていないことを確認して下さい。 ネットワーク環境 (ファイアウォール等) を確認して下さい。 いったん、リモートコンソールを中止し、再度リモートコンソールを実行して下さい。
Q5	デバイスマネジャーにて、 HID マウスデバイス、または HID キーボードデバイスに ! 記号が表示される。	リモートコンソールアプリケーションを終了し、シ ステムシャットダウンの後、サーバブレードの挿抜を行って下さい。
Q6	リモートコンソール機能の 使用中にキーボード動作が 異常になる (Alt キーが入力 状態になり続ける等)。	リモートコンソールを終了し、再度リモートコンソールを起動して下さい。
Q7	「既にリモートコンソール が実行中のサーバです。」 のメッセージが出る。	1 つのサーバブレードに同時に 2 つ以上のリモートコンソールを接続できません。
Q8	「サーバが存在しません」 のメッセージが出る。	アクセスするサーバブレードの IP アドレス、ポー トを確認してください。または、ネットワーク環境を確認して下さい。
Q9	コンソール端末から CapsLock がかけられない。	CapsLock 単体での Key 操作は無効となっています。 Shift+Caps キーでの操作は有効となります。

No	問題点	対処方法
Q10	リモートコンソールが接続できない。	リモートコンソールが接続できない状態になった場合は、一度リモートコンソールを終了し、再度接続を試みてください。再接続ができない場合は、下記「リモートコンソールが接続できない場合の手順」を実行したあと、リモートコンソールを接続し直してください。
Q11	アプリケーションのバージョンを確認したい。	下記「アプリケーションのバージョン確認方法について」を確認してください。
Q12	リモートコンソールのファームウェアバージョンを確認したい。	下記「リモートコンソールのファームウェアバージョン確認方法について」を確認してください。
Q13	Red Hat オリジナル CD を使用してインストールを行った時、画面表示が行われない、または表示が不正である。	下記「Red Hat オリジナル CD を使用してインストールを行う場合について」を確認してください。

## リモートコンソールが接続できない場合の手順

リモートコンソールが接続できない状態になった場合は、手順 1 にて再度接続を実施してください。手順 1 で接続を復帰できない場合は、手順 2 を実施してください。

### 手順 1

(1)[Alt]+[G] キーを押しツールバーを表示させ[リモート終了]ボタンでリモートコンソールアプリケーションを終了します。

(2)デスクトップ上にあるリモートコンソールのショートカットをダブルクリックしてリモートコンソールを再度起動します。

「4 章 使用方法」をご参照ください。

### 手順 2

(1) 「ユーザーズガイド」 「6 章 マネジメントモジュールの設定」 「マネジメントモジュールの初期設定」 「ログイン」を参照してマネジメントモジュールにログインしてください。

マネジメントモジュールの IP アドレス（「LC コマンド」で設定）を指定して Telnet クライアントを起動してください。

IP アドレス : 192.168.0.1 (デフォルト)

【注意】IP アドレスを変更している場合は、変更後の IP アドレスを指定してください。

ログイン画面が表示されたら、下記の操作でログインします。

操作実施時の画面を下記に示します。

```
System Console Login: ログインID (エンター)
System Console Password: パスワード (エンター)

*****
!!!! SVP/BMC ACCESS IS NOT SECURE !!!!!
No SVP/BMC users are currently configured and remote access is enabled.
Set up a user with a password by SO command
OR
Disable LAN access by LC command
***** 

PRESS ENTER KEY (エンター)
```

(2) 「S」キーを押して、SVPコマンドモードを起動します。

```
*****
!!!! SVP/BMC ACCESS IS NOT SECURE !!!!!
No SVP/BMC users are currently configured and remote access is enabled.
Set up a user with a password by SO command
OR
Disable LAN access by LC command
*****
PRESS ENTER KEY
      HITACHI Service Processor
      ALL RIGHTS RESERVED, COPYRIGHT (c) 2006, HITACHI, LTD.
      System Name:
      System version: ----

===== < System Console Main Menu > =====

S)          System (SVP command mode)

P1)         OS console #1
P2)         OS console #2

X, Ctrl-D    LOGOUT
PLEASE SELECT MENU:S(エンター)
```

(3) 「KVM」コマンドを実行します。

「KVM version information」にてファームウェアのバージョンを確認します。

「(0-2,R,W,[Q] : )」の表示に対して「Q」を入力すると「KVM」コマンドは終了します。

```
Entering the SVP Command Mode,
You are allowed to read/write access.

Use EX Command to return to Main Menu.
Use HE Command to get a list of available commands.

SVP>KVM(エンター)

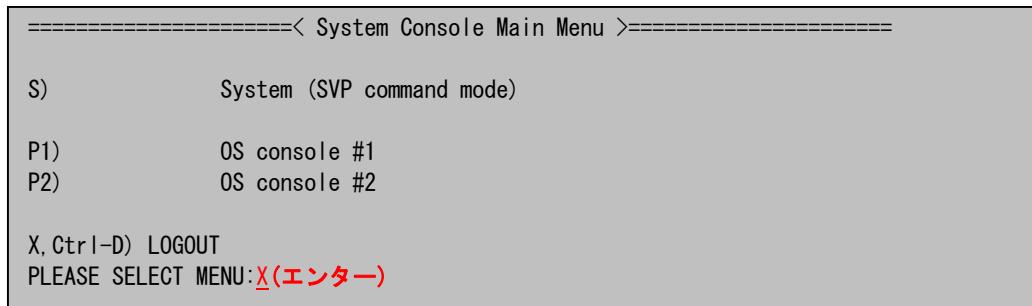
<<KVM configuration- set Remote Consol configuration>>

Enter server module No. (0-7, [Q]) : 7(エンター) ←サーバブレード番号を入力

Server module 7 KVM configuration
--KVM version information -----
KVM Firmware version : 02-14←ファームウェアバージョンを確認

(0-2, R, W, [Q]) : Q(エンター) ←「Q」を入力 (KVMコマンド終了)
```

(4) 下記画面が表示されたら、「X」キーを入力してログアウトしてください。



(5) 下記メッセージが表示されたら、作業は終了です。

ホストとの接続が切断されました。

コマンドプロンプトを閉じて 1 分以上待った後、リモートコンソールを再度接続し直してください。

### 手順 3

マネジメントモジュールにより、リモートコンソール機能の正常性チェックが定期的に行われています。このチェックにより異常が検出された場合には、異常状態から回復を行うために、リモートコンソール機能は一旦リセットされます。

その場合、仕掛けり中の操作は中断されコンソール端末側にタイムアウトのメッセージが表示されます。1 分以上時間をおいた後、ログイン画面から再ログインしてください。

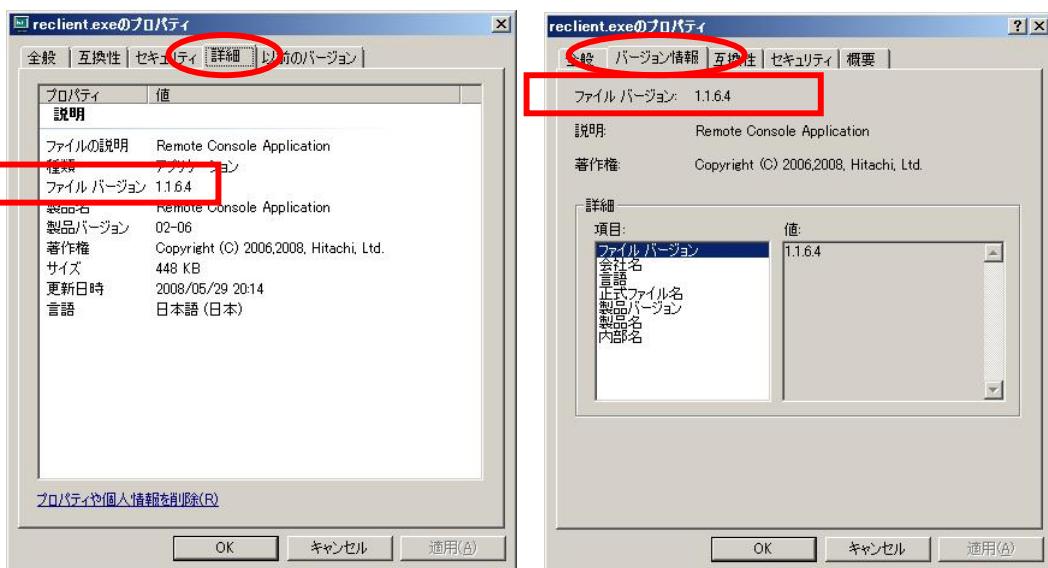
## アプリケーションのバージョン確認方法について

リモートコンソールは、リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)とサーバブレード内にあるリモートコンソールのファームウェアが通信することによって実現しています。ここでは、アプリケーションのバージョンを確認する方法について説明します。

リモートコンソールアプリケーション (reclient.exe) 、FD イメージ変換ツール (FDDUMP.exe) 、CD/DVD イメージ変換ツール(MakeCDImg.exe)および設定ユーティリティ (reutil.exe) のバージョン確認は、以下の手順で実施してください。

### (1) リモートコンソールアプリケーション (reclient.exe) のバージョン確認

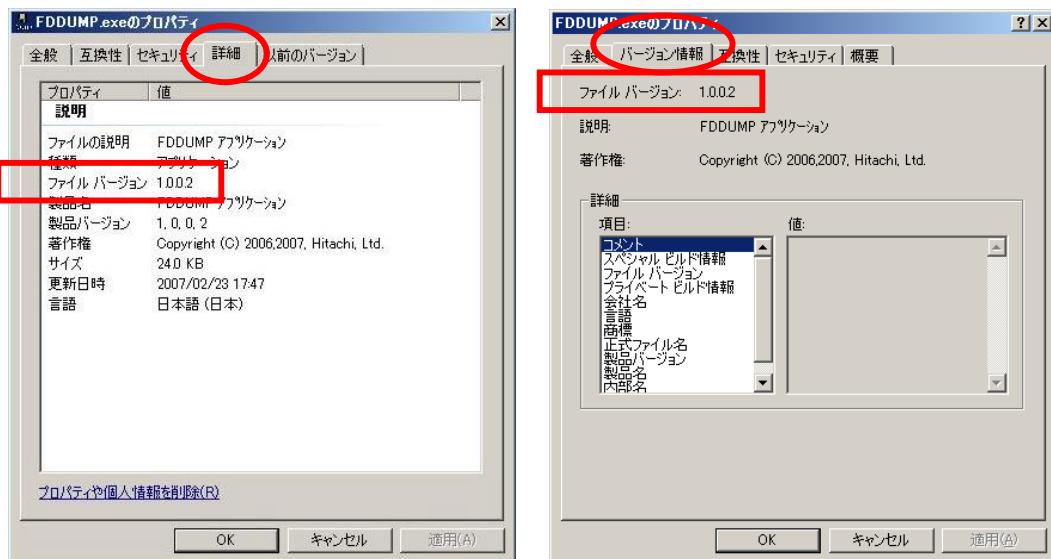
1. リモートコンソールインストール先\bin フォルダにある「reclient.exe」のプロパティを開きます。
2. コンソール PC が Windows Server 2008 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP / 2000 の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
3. 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



製品バージョンを確認するには、詳細項目の「製品バージョン」を選択してください。

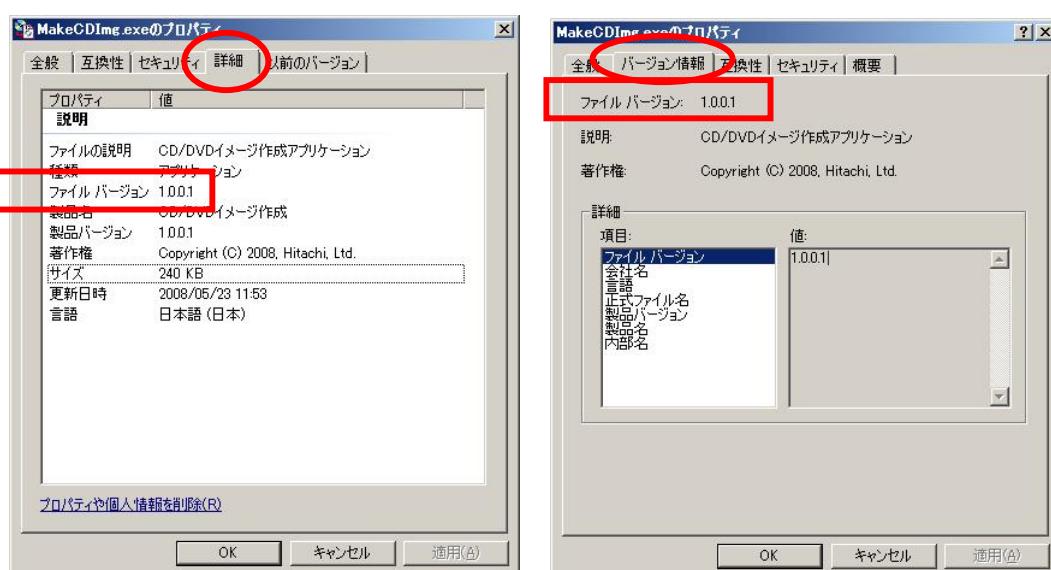
## (2) FDイメージ変換ツール (FDDUMP.exe) のバージョン確認

- リモートコンソールインストール先\bin フォルダにある「FDDUMP.exe」のプロパティを開きます。
- コンソール PC が Windows Server 2008 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP / 2000 の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
- 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



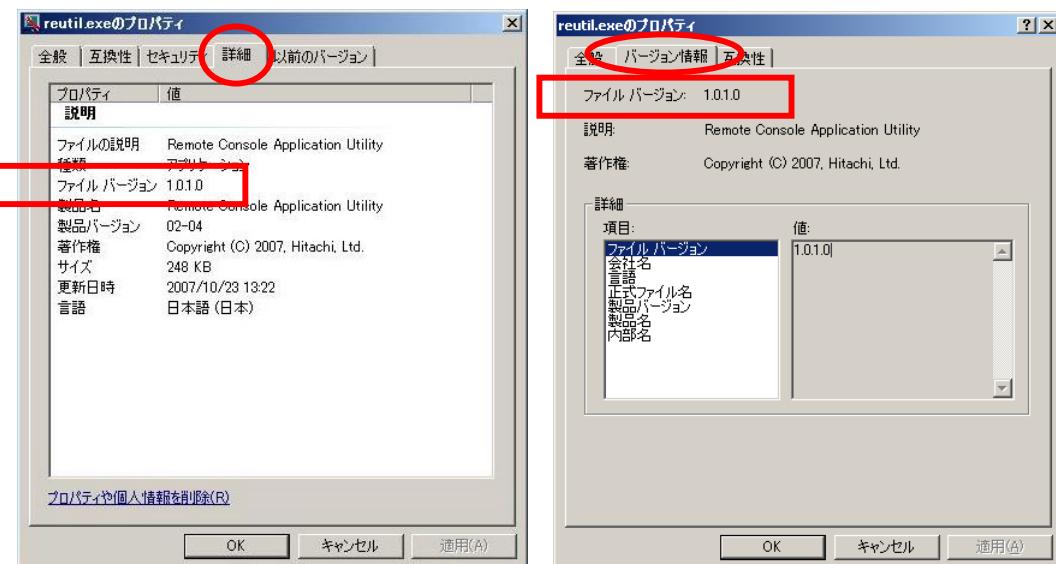
## (3) CD/DVDイメージ変換ツール (MakeCDImg.exe) のバージョン確認

- リモートコンソールインストール先\bin フォルダにある「MakeCDImg.exe」のプロパティを開きます。
- コンソール PC が Windows Server 2008 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP / 2000 の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
- 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



#### (4) 設定ユーティリティ (reutil.exe) のバージョン確認

1. リモートコンソールインストール先\bin フォルダにある「reutil.exe」のプロパティを開きます。
2. コンソール PC が Windows Server 2008 / Vista の場合プロパティの「詳細」を、Windows Server 2003 / XP / 2000 の場合プロパティの「バージョン情報」タブを選択します。
3. 各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。



## (5) 設定ユーティリティ (remoutil.exe) のバージョン確認

1. サーバブレードの CDROM に「①. BladeSymphony Remote KVM console setup CD」をセットし、DOS システムを起動します。
2. 「remoutil」と入力し「Enter」を押下すると下図のようなルートメニューが表示されます。
3. 画面左上に表示されているファームウェアのバージョンを確認してください。

内部処理により、リモートコンソールセットアップユーティリティ「remoutil」は、電源 ON またはシステムリセットから 5 分程度の間使用できません。電源 ON またはシステムリセットから 5 分程度経過してからコマンドを入力し、ユーティリティを起動してください。経過時間が不足した場合には、"Data Read Error!!" が表示されることがあります。この場合は、暫く時間をおいて、再度コマンドを入力してください。

```
*** KVM Parameter Setup Utility For Remote Console VerXX.XX ***  
1:Remote Console Information  
2:User Information  
3:Port Information  
Q:Quit Setup(Save Data)  
  
Message :  
Key [1]:Client Info, [2]:User Info, [3]:Port Info, [Q]:Quit, [Esc]:Escape  
>
```

## リモートコンソールのファームウェアバージョン確認方法について

リモートコンソールは、リモートコンソールアプリケーション(reclient.exe)とサーバブレード内にあるリモートコンソールのファームウェアが通信することによって実現しています。ここでは、リモートコンソールのファームウェアバージョンを確認する方法について説明します。

リモートコンソールのファームウェアバージョン確認は、以下の手順で実施してください。

- (1) 「ユーザーズガイド」 「6章 マネジメントモジュールの設定」 「マネジメントモジュールの初期設定」 「ログイン」を参照してマネジメントモジュールにログインしてください。

マネジメントモジュールの IP アドレス（「LC コマンド」で設定）を指定して Telnet クライアントを起動してください。

IP アドレス : 192.168.0.1 (デフォルト)

【注意】IP アドレスを変更している場合は、変更後の IP アドレスを指定してください。

ログイン画面が表示されたら、下記の操作でログインします。

```
System Console Login: ログイン名 (エンター)
System Console Password: パスワード (エンター)

*****
!!!! SVP/BMC ACCESS IS NOT SECURE !!!!!
No SVP/BMC users are currently configured and remote access is enabled.
Set up a user with a password by S0 command
OR
Disable LAN access by LC command
*****

PRESS ENTER KEY (エンター)
```

(2) 「S」キーを押して、SVPコマンドモードを起動します。

```
*****
!!!! SVP/BMC ACCESS IS NOT SECURE !!!!!
No SVP/BMC users are currently configured and remote access is enabled.
    Set up a user with a password by SO command
        OR
        Disable LAN access by LC command
*****
PRESS ENTER KEY
      HITACHI Service Processor
      ALL RIGHTS RESERVED, COPYRIGHT (c) 2006, HITACHI, LTD.
      System Name:
      System version: ----

===== < System Console Main Menu > =====

S)          System (SVP command mode)

P1)         OS console #1
P2)         OS console #2

X, Ctrl-D   LOGOUT
PLEASE SELECT MENU:S(エンター)
```

(3) 「KVM」コマンドを実行します。

「KVM version information」にてファームウェアのバージョンを確認します。

「(0-2,R,W,[Q] : )」の表示に対して「Q」を入力すると「KVM」コマンドは終了します。

```
Entering the SVP Command Mode,
You are allowed to read/write access.

Use EX Command to return to Main Menu.
Use HE Command to get a list of available commands.

SVP>KVM(エンター)

<<KVM configuration- set Remote Consol configuration>>

Enter server module No. (0-7, [Q]) : 7(エンター) ←サーバブレード番号を入力

Server module 7 KVM configuration
--KVM version information -----
KVM Firmware version : 02-14←ファームウェアバージョンを確認

(0-2, R, W, [Q]) : Q(エンター) ←「Q」を入力 (KVMコマンド終了)
```

(4) 「SVP>」の表示が出たら、「EX」コマンドでメインメニューに戻ります。

```
(0-2, R, W, [Q]) : Q(エンター) ←「Q」を入力 (KVMコマンド終了)  
SVP>EX(エンター) ←「EX」を入力 (メインメニューに戻る)
```

(5) 下記画面が表示されたら、「X」キーを入力してログアウトしてください。

```
===== < System Console Main Menu > =====  
S) System (SVP command mode)  
P1) OS console #1  
P2) OS console #2  
X, Ctrl-D) LOGOUT  
PLEASE SELECT MENU:X(エンター)
```

(6) 下記メッセージが表示されたら、確認は終了です。

コマンドプロンプトを閉じて、リモートコンソールを再度接続し直してください。

```
ホストとの接続が切断されました。
```

## Red Hat オリジナル CD を使用してインストールを行う場合について

Red Hat オリジナル CD を使用してインストールを行う場合は、下記事項を実施してください。

### インストール時

Red Hat オリジナル CD からブート後、以下のオプションでインストールを開始してください。

```
boot : linux dd resolution=1027x768 vga=791
```

resolution=1027x768 を付加することにより、インストール時にグラフィカルモードが使用可能になります。

### インストール後

インストール後に X Window System を使うためには以下の設定を行ってください。

(1)は必須、(2)、(3)はそれぞれの conf ファイルに記載がない場合に追加してください。

- (1) /etc/X11/xorg.conf の「Section “Device”」—「Driver」を「ati」→「vesa」に変更する
- (2) /boot/grub/grub.conf に、カーネルパラメータ「vga=791」を追加する
- (3) /etc/X11/xorg.conf の「Section “Screen”」—「SubSection “Display”」—「Modes」の先頭に「"1024x768」を追加する

### Red Hat Enterprise Linuxにおける使用制限について

リモートコンソール機能、またはリモート CD/DVD 機能を使用して、Red Hat Enterprise Linux をインストールすると、インストール中にサーバブレードからの画像が切断されることがあります。

正常にインストールを実施するため、Red Hat Enterprise Linux のインストールを行うときは、VGA ディスプレイをご使用下さい。

8

## 付録

## 8.1 リモート CD の性能測定について

日立版「Red Hat Enterprise Linux ES4 Update3」を使用したリモート CD の性能測定済みハード構成は、下表の通りです。

項目	環境	
クライアントPC	メーカー	日立製作所
	モデル	FLORA270W
	CPU	Intel Pentium4 M 2.00GHz
	メモリ	512MB
	OS	Windows XP Pro SP2
USB-CD ドライブ	メーカー	日立製作所
	品名	増設DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ
	形名	PC-FV8200
	USB準規	USB2.0対応
注意	USBについて	BS1000<->RKVM間は、USB1.1 (BS1000 BIOS設定による) クライアントPC<->USB-CD間はUSB2.0
	Autorun設定	クライアントPCレジストリの「Autorun」設定値は「0(無効)」
構成図	<pre>     graph LR       BS1000[BS1000] -- KVM --&gt; ClientPC[Client PC]       BS1000 -- USB --&gt; Hub1[USB1.1]       ClientPC --- Hub1       ClientPC --- USBCD[USB CD]       ClientPC --- USB2_0[USB2.0]       LAN[LAN] --- ClientPC   </pre> <p>* クライアントPC-BS1000間は、LAN直結 (HUB/SW無し)</p>	
リモート コンソール	アプリケーション	reclient.exe : 1.1.3.8
	ファームウェア	02-11
インストール 時間 (目安)	1枚目	10分
	2枚目	24分
	3枚目	24分
	4枚目	23分
	計	81分

---

## **リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド**

第1版	2006年7月
第2版	2006年9月
第3版	2006年11月
第4版	2006年12月
第5版	2007年2月
第6版	2007年6月
第7版	2008年3月
第8版	2008年7月
第9版	2008年12月
第10版	2009年3月

無断転載を禁止します。

---

---

---

**株式会社 日立製作所  
エンタープライズサーバ事業部**

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

---

<http://www.hitachi.co.jp>